

令和三年四月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一一二七号

日川協加盟

川柳塔



No.1127

四月号

『川柳雑誌』『川柳塔』通巻一〇〇〇号記念出版

『麻生路郎読本』



麻生路郎
読本

A5版

514頁

頒価 三〇〇〇円

(郵送料共)

目次

麻生路郎アルバム

麻生路郎作品「旅人」「旅人その後の作品」

麻生路郎文集・麻生路郎語録

麻生路郎物語（東野大八）

麻生路郎の人と作品

麻生葭乃作品「福寿草」

麻生路郎著作解題・麻生路郎年譜

麻生路郎・葭乃作品索引

希望の方は左記の事務所までお申し込みください。

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

花野ビル201号

電話 06-6779-3490

川柳塔社

振替 〇〇九八〇一四一二九八四七九番

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>

誌上句会・誌上大会

小島 蘭 幸

川柳塔本社句会が中止、誌上句会になって早くも一年が経過しました。多くの方が四月句会の開催を楽しみにされていたと思いますが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して誌上句会に致しました。五月、六月も誌上句会になりますので今しばらくのご辛抱をお願いします。

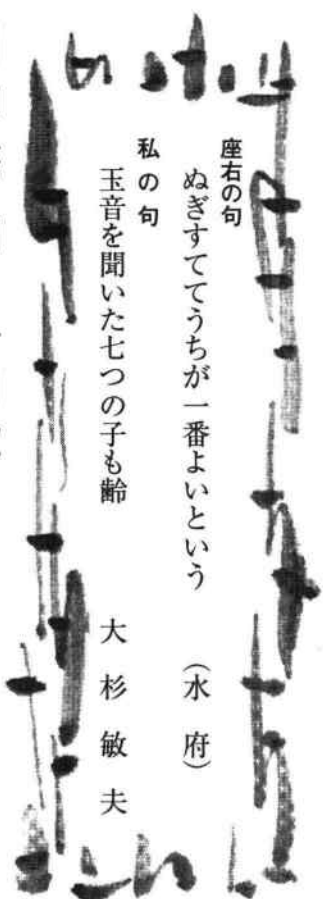
昨年の三月から句会だけでなく全国各地で開催される予定だった川柳大会も、そのほとんどが誌上大会に変更されました。従来の誌上大会を加えると、正に誌上句会、誌上大会ばかりです。

誌上句会、誌上大会、私は編集スタッフの一人としてその苦勞を数多く経験しておりますので、その一部をここに紹介させていただきます。第9回広島県川柳協会誌上川柳大会、全国から四六八名の応募

がありました。課題は二題で三名ずつの共選です。まず応募用紙以外で応募された三十余名の皆様の作品を規程の応募用紙に書き写します。次に作品に番号を書いて、課題別に切り離します。そしてB4の用紙に応募作品八枚ずつを貼りつけます。B4用紙二題で一一八枚、これを選者六名分コピーします。コピーしたらまた作品ごとに切り離します。切り離れた作品、四六八名分を六名の選者に分別します。ここまでやってやっと選者に送付できるのです。パソコンで作品を一覧表にする方法もありますが、一枚一枚にすることで選句がたやすくなるのです。

今、私は第9回春の川柳塔まつり誌上大会の応募作品を一枚一枚、編集スタッフの皆様のご努力を想像しながら一生懸命選句しているところです。六六五名のご応募ありがとうございました。

誌上句会、誌上大会は、句会、大会に比べて軽く見られがちですが、多くのスタッフの皆様のご努力で成り立っているのです。このご努力に報いるためにも、誌上句会、誌上大会へ一人でも多くの皆様のご応募をお願い致します。



座右の句

ぬぎすててうちが一番よいという

(水府)

私の句

玉音を聞いた七つの子も齡

大杉 敏夫

川柳塔 四月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「又兵衛桜・宇陀市本郷」

■巻頭言

誌上句会・誌上大会

コロナの役

小島 蘭 幸 ……(1)

川柳塔(同人吟)

仁部 四 郎 ……(2)

川柳塔の川柳讃歌

小島 蘭 幸 選 ……(4)

自選集

木津 川 計 ……(39)

句集の森

小 砂 白 汀 ……(43)

温故知新

西出 楓 樂 選 ……(44)

水煙抄

吉村 侑 久 代 ……(63)

西尾栞句集『水鶏笛』

吉村 侑 久 代 ……(63)

英語 de Senryu

吉村 侑 久 代 ……(63)

俳風柳多留一二篇研究 8

吉村 侑 久 代 ……(63)

愛染帖

新家 完 司 選 ……(66)

檸檬抄「再 生」

石橋 芳 山・古今堂 蕉 子 共 選 ……(70)

コロナの役

仁部 四 郎

県内の新聞の読者文芸で、昨年(の十二)月に次の二句と一首が活字になった。

ワクチンをサンタクロース様に積み
コロナ禍へ百九つの除夜の鐘
終息の次に収束くるはずと

コロナ禍の記事われは読みいる

医療の現場の人々の疲労は想像も及ばぬ事態に達しているようにテレビの画面でも見受けるが、ようやく接種の段階に入ったワクチンも、効果のほどにはまだまだ不確定要素があるらしい。

江戸の消防は「破壊消防」であった。

コロナ禍対策としての「緊急事態宣言」に不図そのことを思い出して、中央や地方の政府の当事者には失礼なことだと思うのだが、有効な手段ではある。

近代国家は、法治社会だから、国の法律や地方の条例が、コロナ禍対策に制定され施行されるわけだが、「刑事罰」が議題になったのはびっくりした。「行政罰」

一路集「まだ」

「調味料」

初歩教室「咲く」

川柳塔鑑賞

水煙抄鑑賞

せんりゅう飛行船⁽²⁴⁾

『麻生路郎読本』余滴⁽⁶³⁾

インスピレーション・ナビ 印象吟

■追悼文（土橋 螢さん さようなら）

二月本社誌上句会

各地柳壇（佳句地十選／鴨田昭紀・金子美千代）

柳界展望

四月各地句会案内

■編集後記（ひとこと／池澤大鯨）

澤井敏治選 …… (74)

田賀八千代選 …… (75)

居谷真理子 …… (76)

片山かずお …… (78)

中村 恵 …… (80)

新家完司 …… (81)

乗原道夫 …… (82)

大西泰世 …… (84)

森山盛桜 …… (86)

森山盛桜 …… (86)

森山盛桜 …… (86)

森山盛桜 …… (86)

森山盛桜 …… (86)

朱夏・眞澄 …… (110)

座右の句

生きているだけで思える人が増え

私の句

離婚したそらよかったと皆が言い

木藤 こみつ

（夢 草）

に修正されたのは当然だろう。

テレビや新聞のニュースでは、「終息」よりも「収束」が多く使われているが、「GOTO××」は、「収束」への拙速であって、その反動として「刑事事調」の発想が出てきたものかと私は思っている。

唐津での十人あまりの川柳会も、この一年のうちに三回も休会にしたが、私のオビエだったとしてもそれでよかったと思っている。川柳塔社の年間計画も、人手とお金に特段の御苦労がかかっていくこの一年であろう。

私は、「コロナの役」と名付けているのだが、コロナ禍との戦争だと思う。戦争だから、国民生活の日常に、あれやこれやの制約がかかってくるのは致し方ないが、法律的な規則に頼りつつも、われわれの心の力に自信をもちたいものだと思う。道徳的士気という表現を考えてみたが、生煮えでもあり、おのれの言行と照合するとかなり恥ずかしい。

或るバツジGOTO銀座でのたれ死には、あまりにも無惨な句だから他所には出さないことにする。（令和3・1・31）



小島蘭幸選

倉吉市 牧野芳光

何もなかった頃はガラクタもなかった
跡地では幼なじみの声がする

動かないことが私の自尊心

寒い日を選んで咲いた花もある

雨だれに責められている耐えている

残高を眺める冬の真ん中で

堺市 栗原道夫

現世を漂うように水族館

童たち母音のように並んでる

孤高なる猿のまつ毛の上の雪

初めての街で目につく避雷針

抽象の輪投げしている日向はこ

たましいの色目は紺か紫か

鳥取県 斉尾くにこ

ゆっくりと音読ひとり読書会

新しい常識としてグータッチ

立春と聞くとたばんと揺れる芯

時もあり読みたい本ありばあん

語ったり笑いあったりマスクして

こころにも春風入れて七千歩

笠岡市 藤井智史

これからが入学式の夫婦愛

婚活にチェッカーフラッグがなびく

君を研究する愛の試験管

お互いを完成させる夫婦愛

あつけなく終わる婚活死闘編

買い占めるクリアランスセールの愛

尼崎市 山田耕治

象の鎖見たくないもの見てしまふ

八十を消化試合にするまいぞ

十五歳もう髪の毛も撫でられぬ

梅の木に冬が半分残ってる

一合でシンブルにする今日のこと

飲んだ夜も揃えて脱いでおきましょう

大阪市 平井 美智子

ブランコの軋み明日が掴めない
寝返りの数をかぞえて待つ夜明け
挫折したあたりに春が吹き溜る
引き出しの奥に仕舞っておく涙
それぞれの位置でそれぞれ咲く手筈
青い芽は無限の空へ伸びてゆく

堺市 内藤 憲彦

ユーモアを程よく混ぜて生きのびる
脳ドック褒められちよつと旨い酒
レジ袋買わず大根持たされる
間違ったこと言つてないと言う古さ
反省をしながら読める三国志
残り時間楽しんじゃおと決めました

三原市 笹重 耕三

好き嫌いは言わぬ百歳の美食
男の育休を慣習が阻む

山茶花が気になり窓を拭いている
しがらみを抜けると旨くなるお酒
ゆつくりと黄昏れるにも要る財布
ワルツからチークへ浮かれだすお酒

犬山市 金子 美千代

食べられる野草と聞いて食べてみる
会いたい顔浮かぶあの人この人も
二階から見とれる大寒の花火

衝動買いして素うどんにしとく昼
踏ん張っていますニコニコしてるけど
会えなくて鮮度が落ちてきた話

大阪市 谷口 義

そして桜両手広げてありがとう
ところどころ月曜日になる頭
サイコロも振らねばならぬ時がある
後めたさなんてミジン切りにしておこう
おばあさんとして生きるのも一仕事
メールの終りは今夜のお献立て

藤井寺市 太田 扶美代

知らんぷりするやさしさは持っている
鏡二つ女は平和写し合う
愚図とドジで笑いあっている平和
自分史のこころ辺りは不眠症
所詮二人誰が来ようと帰ろうと
荒れそうなコロナ談義へ一呼吸

河内長野市 山岡 富美子

まだ滾るものありペンを奔らせる
居ながらの旅と洒落よう文庫本
師の語録いつか血肉になる日まで
出来ること一歩一歩へ自然体
巣籠りへそろそろメニユー尽きそうだ
お静かにコロナが居つかないように

松江市 藤井寿代

絵手紙をはみ出しそんなメランコリー
大らかに生きておかわり三杯目

元氣印には寄ってこないコロナ

バンジージャンプあとは這い上がるだけ

議事堂に並ぶ腐ったりんご達

一日に感謝芋焼酎でピース

箕面市 中山春代

あかぎれの指よコロナの手を洗う

アフターコロナの絵ばかり書いている炬燵

精算機またコンビニが遠くなる

書いて消す長文メール人恋し

老犬を抱っこたんぽぽ光る道

ステイホーム背中に苔がついてきた

米子市 吉田陽子

水仙とタッグで春を呼び寄せる

飛びたいいつも思っているヒト科

クリニック行きは喉飴なめてみて

堪忍袋ほろほろ老いを受け入れる

針仕事夢中わたしでいる時間

デジタルの難民になる日が近い

大阪市 古今堂 蕉子

溜息と時計見上げる日を暮らす

コロナ禍に人は静かな壊れもの

そうだそうだ同じ意見にする鎖

余命いくばく食事に手抜きなどしない
お豆腐にふぐの白子と言いつつ聞かす

一万円ステーキ巻いた恵方巻

羽曳野市 吉村久仁雄

幸不幸さし引きゼロでつつがない

かみ合わぬ話楽しむ老夫婦

無になつて宇宙の旅をする座禪

無観客なんの支障も僕にない

拾われる骨スカスカじゃ恥づかしい

取り敢えずのビールで浪速よみがえる

三原市 鴨田昭紀

普段着の顔はあなたにしか見せぬ

使い分けするにんげんの裏表

嘘を足しながら辻褄を合わせる

老いてまだ頑固頭が噴火する

白百合を演じ続けて草臥れる

真四角なトウフにギャグが通じない

香芝市 大内朝子

黄な花とおててつないで春が来る

大の字に寝た蓮華田の遠き日よ

引き籠る心に注ぐ赤ワイン

おばちゃんのバワーも自粛する車中

まだあった女性蔑視と言う根っこ

縦横の皺が生き様物語る

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

本当は自分のことで精いっぱい

終りかけのチューブとわたくしの勝負

それにしてもスリリングなる世ではある

自由席ばかりねらって生きのびる

未来はつづくまだ見ぬ道の匂いする

ころあいの距離を上手に赤い傘

越谷市 久保田 千代

母がいた小川もあったあの頃は

無理だろう境界線のあるうちは

都合よく忘れこの世を存える

だんだんと固有名詞の減る会話

それなりの不協和音を楽しもう

悟りにも似て待つことに慣れてくる

西宮市 亀岡 哲子

春の来るうれしさコロナ去る願い

年輪を数えふるさと日向はこ

会えぬまま羽ばたいて行く末の孫

シニアライフ明るく生きる知恵のあり

淡いピンクまだまだ似合う春がきた

逢えぬまま若いまんまの恋のあり

岸和田市 岩佐 ダン吉

声高に自助宣っている総理

踏み出した一步を重く見ませんか

甘い汁求めてまたも再稼働

核ゼロの世界が少し見えてくる

人類の絆を試すコロナ禍よ

鍋の底つついて君の平和論

松山市 柳田 かおる

平坦な道につまずくわたしです

善意だからありがたいけど重いなあ

ゆっくりと熟れたゆっくりを味わう

荒けずりの君を深掘りしてみたい

春色に染まってみたいオニオコゼ

平凡がいいというけど退屈な

豊中市 きとう こみつ

牡蠣蟹クエ鍋の季節がやってきた

離婚未婚に聞き耳立てる同期会

大抵は丸い形をしている穴

托鉢の僧のまわりの澄んだ風

秒針音やけに響いているひとり

寂しさを出さずに泣いているピエロ

待合室冷たい音が時刻む

大阪市 内田 志津子

ナースコール乾いた部屋の命綱

手術成功一人で食べるあずきめし

薬がツンツンツンと喋りだす

返信が来ないまんまで春になる

緩い下り坂しっかり生きてゆく

男鹿市 伊藤 のぶよし

平凡がいちばん籠り耐えている
すみません知らないことは知りません
失敗が僕の肩幅広くした
ひと言が天国地獄分けたがる
如何しよう逃げてみたって君に着く

弘前市 稲見 則彦

昼下り小舟に乗って揺れている
砂時計の砂を抜いてはいけません
武装解除した將軍はもう若葉
一杯のコーヒー僕の力水
バツハ全集捨てる勇氣のないままで

弘前市 今 愁女

医の進歩コロナなんぞに負けられぬ
みんながみんなマスク手洗い寄せ付けず
自粛から解放されて旅したい
黒い土見えて来るまでもう少し
雪あればこそその冬に咲くさくら

塩竈市 木田 比呂朗

花粉症マスクの街に紛れ込む
検診値年相応と言う不安
出不精に双手を挙げるひざ頭
タレントの話題で終わるティータイム
更新のテストでクリア認知症

横浜市 川島 良子

不景気の中で高騰する株価
昨日とは違う景色を見るコロナ
ハラハラドキドキ合格までの長い道
美味かったあの店この店暖簾消え
無駄だった いえ 自信に繋がった

横浜市 菊地 政勝

コロナ禍に一番窺う花粉症
脳トレに凝りストレス溜まり出す
欠点を見つけつき合う気にもなる
レトルトと知らずに妻を誉めていた
散歩するコースに入れる花の道

上尾市 中村 伸子

優しいがありがとうだけ言えぬ夫
名曲と歩く日曜日の至福
何故でしようクラシックなら眠れます
四緑木星中吉という幸せ度
ワクチンを政争の具にし給うな

朝霞市 前田 洋子

初のボタン雪を手袋に咲かす
足元へコロナ覚悟するワクチン
着ぶくれて家事の時間が長くなる
少女に返るテニスボールのぼんの音
散歩道テニスコートの方に変え

東京都 川本 真理子

東京のたかが知れてる極寒に
餌台にあれやこれやと明日は雪
逆算で今しなければならぬこと
老犬の主張も聞いて家族の輪
百名山俯瞰し神になる深夜

八王子市 川名 洋子

イワシの梅煮好きな君ふと想う
自肅中手伝い行けぬ雪おろし
ふる里の積雪背丈ほどという
電子化に手も足も出ぬ年になる
自肅中病床の兄気にかかる

富山市 島 ひかる

新年号粹な計らいだと思う
もう米寿子供のような人と居る
酒タバコ賭け事嫌い好きになる
親孝行のつもりで嫁ぎもう八十路
それぞれの悩みに生きているこの世

可児市 板山 まみ子

会えなくて大笑いする長電話
コロナ禍に笑えぬニュースだけ目立つ
妥協するつもりで聞いてみる話
失敗を恐れず手だけ出してみる
代わりばえしない一皿また作る

大山市 関本 かつ子

花柄のマスク一つで若返り
目薬を注してじつくり後一句
こまごまな日常のある有難さ
人の顔じつと見詰めてくるマスク
帰るまでコトコト煮詰め待つおでん

愛知県 早川 遡行

コーヒーはブラック耐はストレート
焼酎で鬱ぐところを慰める
レトルトで三食済ます日が続き
カート押す妻の歩幅の覚束な
面倒見てくれる筈の妻が病み

鈴鹿市 小河 柳女

太古より幸せ探しの旅だった
ベン先が広い宇宙を抱いている
頭の中に大海をもつ人だ
やわらかい言葉に石も割れました
通ってきた道に転がる涙かな

大阪市 石田 孝純

しくじりは喜劇笑えばミュージカル
花散らし山茶花春の伝道師
春ウフフ口笛を吹く猫柳
うつらうつら宇宙遊泳春うらら
日溜りのぬわぬわ春の佳味甘味

大阪市 磯 島 福貴子

コロナコロナであつと言う間に一年が
子にも孫にも会えずとうとう一年が
食べて寝てコロナ太りを嘆く日日
マスク越し人違いして照れ笑い
五輪開催期待と不安交々に

大阪市 井 丸 昌 紀

唐招提寺の土塀は妥協許さない
階段を登っていると
寒いなあしやあないやろう冬やから
炬燵囲み皆な笑っていた昭和
言い訳をいつも搜している男

大阪市 岩 崎 公 誠

人間に仕事があつて有難い
話の樹枝八方に拡げてる
花咲くと吉野の山は人だらけ
介護にも限界があり手が足りぬ
いい天気続いているが巢にこもり

大阪市 岩 崎 玲 子

コロナ禍で引き算ばかり考える
すんまへんお墓掃除もごぶさたし
主婦ですこちらも時短願いたい
アナログがこの身に合って生きている
老いふたり明日も元氣目標に

大阪市 宇 都 満知子

明るいまし春の日溜りとワクチン
またひとつ歳をいたたく魚座です
6Bですこし上手に見えますか
ウィルスで萎えるハートにラ・カンパネラ
まるくまあるくごめんねとありがとう

大阪市 江島谷 勝 弘

母に似て今朝も血圧高めです
昔世界は二人のためにあつた
酔っぱらう度に自転車無くしてる
リベラルの半藤さんも逝っちゃった
しっかりと見つめていますスガさんを

大阪市 榎 本 舞 夢

鬼は外コロナも外と豆蒔きす
感染拡大自粛生活拍車かけ
オリンピック森暴言で揺らいでる
コロナ五輪頭の痛い菅総理
暗いニュース続いて出来ぬ五七五

大阪市 大 川 桃 花

自粛じしゆく無声映画のような街
景品のお皿いらなくなつて秋
先生より熱い怪獣マニアの子
路面電車走るレトロな街が好き
バレンタイン喜ぶ顔へチョコを選ぶ

大阪市 大 治 重 信

ポインセチア黒のピアノでクリスマス

寒い冬じりながら河豚旨し

仏壇の位牌の父母は美しく

マスクして三密自粛で暮るる年

鮫鱈は炊けているぞと鍋奉行

大阪市 奥 村 五 月

カレンダー赤丸消してまた中止

早よ帰る父を母さん持て余す

雑煮より孫の好みはハンバーグ

志望校絵馬の力か塾なのか

大勢を泣かして当てた億の金

大阪市 小 野 雅 美

午後八時街のため息聞いている

命日に生きていたらと歳を足す

私から愛そう人を愛すなら

胸底の本気ナイフを抱いたまま

長電話できるあなたがいてくれる

大阪市 笠 嶋 恵 美

感無量八十五なる誕生日

これからが本当の老い覚悟する

友の死に静かに想うわが命

世間話も役に立つからちゃんと聞く

路地裏の細道歩く疲れない

大阪市 金 川 宣 子

越して三年前の住所がまだ言える

フラッとね覗いてみたい前の家

犬小屋もちゃんと引き継ぎ出来てたわ

鬼退治した豆食べに鳩が来る

物足りぬ程度の味で医者知らず

大阪市 川 端 一 步

川柳塔百年祭はどんな絵に

コロナうつぶんどどこ行きたい叫ぶ妻

フクシマ10年危険地帯はまだ続く

春ですね球児の元氣また観れる

父の教えことば少なく礼多く

大阪市 近 藤 正

報償費使途は問わないにぎり金

遠くでもナースの声に癒やされる

コロナ禍で見舞禁止という個室

この先は余祿とするか今盤寿

大阪府コロナ死亡者日本一

大阪市 坂 裕 之

ごちゃごちゃに混ざってしまい決められん

お昼まで待っておいしいお弁当

友達の為ならすぐに動くのに

前向きに受け止めないと腹が立つ

ネジ巻いて乗り越えていく負けないぞ

大阪市 高杉 力

断捨離の本も一応買つてある

A型が神経質と限らない

読むくらいならできそうな答弁書

クーポンを探していると列ができ

瘦せたいがしんどいことはしたくない

大阪市 高杉 千歩

気力ひとすじ飾るものなし車椅子

九十五年生きてまあるく小さくなる

ひとつ忘れ二つ忘れて九十五

想い出をつなぎ合わせて自分史に

書道教室即吟いつも展示され

大阪市 田中 廣子

また手術なんの因果かなさけない

投句して生きてる証残したい

痛いのは人にわからぬこの辛さ

トランプの引き際あわれ自画自讃

流水をそばで見たいな がんばろう

大阪市 田中 ゆみ子

老いたから気付いたことがたとある

今を詠むこの一瞬の充実感

何処でもない此処を選んで来た燕

淋しいのは誰も私を叱らない

冬眠をするにも私不眠症

大阪市 津村 志華子

命冥利九十五年生き抜いた

貧で良い遠慮気兼ねの無い暮らし

魔女ひとりお隣さんは孫曾孫

散りぎわは椿の花に似てぼとり

たくさんの人に告げようありがとう

大阪市 寺本 実

いつまでも密でいたいな君と僕

カズノコもモチも食べられ入れ菌なし

巣ごもりでほんまの絆確かめる

どやされてどやし返して今は友

まだ夢かワクチン打って旅に出る

大阪市 中井 萌

人生の最終コースこども密

コロナ禍の雲の切れ間に青い空

聞けません妻のへそくり孫の恋

家事手抜き手荒れは除菌液のせい

ふむふむと子等の苦言を聞き流す

大阪市 原田 すみ子

健康を貯金するよに歩いてる

柏汁の温さはこほこ癒やされる

タワマン工事音は空から降ってくる

待っている春とワクチン患者ゼロ

何処行つてもとんぼ返りの自粛中

大阪市 平賀国和

立春の昨日と違う陽の光

新コロナ春は来たけどはしゃげない

森氏辞任女性の力頼もしい

コロナの中無事に回るか五つの輪

核禁止に水さす日本恥ずかしい

大阪市 宮崎シマ子

友からの電話ふつつ情が増し

気がまわり自分で苦労買っている

鋤鍬を磨いて祖父は畑に立つ

買いに行けぬバースデイ飾る花さえも

コロナは見えす青空ばかり窓の外

大阪市 山本加お里

生きているから失敗も増えてくる

どうせなら愉快に暮らすまで

恵比須さん裏にもまわり手を合わす

携帯が鳴ればあわてて消すテレビ

大掃除夢中にさせた歳は過ぎ

大阪市 横山里子

探し物無駄な時間を通して

ばあさんになってしまえば楽なもの

日向ぼこしても上がらぬ骨密度

まだコロナ言うてはるわと梅が咲き

京干菓子デパ地下はもう春盛り

大阪市 若本安代

ポケットにぎつしりだったはずの夢

人肌の密が恋しいさびしい日

離れても心はいつも密ですよ

母の笑み家族みんなのエネルギー

愚痴るたび幸せひとつこぼれ落ち

堺市 今井万紗子

雛飾り今日も亡母さん見えますか

マスク外し笑いこけたい叫びたい

歩かねば目医者歯医者と梯子する

体操教室おばちゃんみんな皆勤賞

二つ駅歩いてみるか杖ついて

堺市 奥時雄

テレビにも鍋にも飽きた長い冬

冬眠の熊に悪いが酒がある

テレビまで面白くなくなったコロナ

懐かしい妻は花見が好きだった

独居して日報代り子にライン

堺市 柿花和夫

惚れた腫れたを聞かされている割り勘で

振り返り自分の影を確かめる

正論の腰をやんわり折るオカネ

蠟梅に呼び止められた散歩道

宝くじと馬券に化けた給付金

堺市 源田 八千代

笑う牛の絵見るたび心のみます
八十路もう牛歩で行こう教訓に
八十路未だちゃん付けで呼ぶ従妹弟たち
穏健なりーダーになりほつとする
丑年の春三代揃う年女

堺市 齋藤 さくら

晴天にコロナ収束近い筈
ああうんの夫婦に喧嘩などは無い
コロナ禍にバーゲンの声届かない
どっこいしょ自然と言葉出てしまう
そのうちと言える寿命が見えて来ず

堺市 坂上 淳司

優しさに出逢い優しさ倍返し
悲しさに出逢い真つ直ぐ上を向く
楽しさに出逢いワイフにお裾分け
淋しさに出逢い馴染みの縄のれん
川柳に出逢い沢山終の友

堺市 澤井 敏治

戦下に生まれコロナ禍に逝く人生よ
まるで蟄居あぶく溢れる金魚鉢
自粛一年無事に暮らせたありがたや
積ん読を切り崩す幸ふゆごもり
コロナとも共存できる人が勝つ

堺市 遠山 唯教

来る春を待つ新しい風と色
どん底で力をくれてありがとう
河豚刺しをつまんだ箸が止まらない
気がつくとき深い孤独の中にいた
愛があれば寒い道でも大丈夫

堺市 矢倉 五月

ええいままよ今日は心も身も自粛
愚痴こぼし乍ら元気な句を作る友
マスクして目は口よりも饒舌に
成るように成ると他人の愚痴聞いて
怠けたツケに朝の四時から起きるはめ

池田市 太田 省三

見舞客笑顔あふれる産科棟
春風に靴がスキップしはじめ
春服はマスクの柄とコーデする
予備校の広告塔は合格者
飼い主が犬にべつたり家籠り

貝塚市 石田 ひろ子

シャッター街猫よおまえも淋しいか
世界遺産記念切手に教えられ
マスク越しの声やわらかい無人駅
今日もまた老いと仲よく喧嘩する
まだ生きる覇気頂いているポスト

河内長野市 大島 ともこ

賞と名のつくものにまだ縁が無い
我が敵はストレス知らぬ堅固な胃
逃げるが勝ち親の教えを遵守する
エキストラ後ろ姿のデビュー戦
明日はきつといい風が吹く寝てしまお

河内長野市 梶 原 弘 光

おいコロナ金婚旅行順延ぞ
かあさんの手作りマスク口塞ぐ
場所取りで今朝のカラスは荒れている
生きのいいモデルに釣られサブリ買う
いとこいの話芸じんわり笑わせる

河内長野市 木見谷 孝 代

句の海であぶあぶしてる春炬燵
ビビビと日がなスマホに捕らわれる
紅梅が満開亡夫よ見えますか
レトルトの便利さ恐い添加物
とう立ちの前に白菜配り終え

河内長野市 黒 岩 靖 博

二波三波いつまで続く新コロナ
高齢者が重症化する恐怖です
ワクチン接種ちよつと待ちますパスします
自粛延び絆はころび内輪揉め
老害でオリンピックをわやにする

河内長野市 辻 村 ヒ ロ

自肅中入浴剤の旅をする
肩書きの自慢顔した名刺出す
若ぶってみても背中にバラされる
ときめきが乾かぬように温めよ
面白い人の周りに耳が寄る

河内長野市 中 島 一 彌

老後の不安消すのは妻の樂觀論
饒舌な妻が押し切る舵を取る
炊事番代わりばんこの主婦と主夫
皿洗う苦勞をかけた背が丸い
お返しは心を込めてする按摩

河内長野市 藤 塚 克 三

荒んでる気持ち耕し夢を蒔く
引き籠もりに自肅のコツを伝授され
保護色に染まりのんびり妻の側
入院中たればプラン書きつらね
煩惱におまけ余生も大波乱

河内長野市 村 上 直 樹

追い越され追い越されて老いを知る
差別という壁が五輪に落とす影
玉の汗なんて知らないもやしっ子
ぶり大根上手に炊けた俄か主夫
八度目の丑へ勇躍第一歩

河内長野市 森田旅人

雪国の生まれで雪のあたたかさ

節分を迎え律儀に芽吹く樹々

咲いたよとこれから誰に伝えよう

梅見にも行けずぼつんと車椅子

鍵かけたストーブ消した四度五度

吹田市 太田 昭

人間を計る目盛りの無い秤

人間を素足になって取り戻す

よく使う右の手だけはよく洗う

俺だけのトイレがとても温かい

言い訳をしない奥歯をよく磨く

高槻市 片山 かずお

昔なら風の子今はゲームの子

締切り間近ほしいと思う詩心

保険約款読める眼鏡に買い替える

ありがたいこの世で朝を迎えられ

毛玉取り過ぎてセーター薄くする

高槻市 島田 千鶴子

テレワークバレンタインにチョコは無し

リボン付け義理チョコ渡す妻の笑み

ステイホーム時時化粧したくなる

さり気ないことばひとつに救われる

老い二人バランス保ち恙なく

高槻市 初代 正彦

アルバムの背に埋め込んでいた記憶

終息へ黙食をする恵方巻

コロナ禍の暮し紡いで詩に織る

ウォーキング偶に速歩のトライアル

コロナも疫病 人類には戦

高槻市 富田 保子

孫達に教えるつもり教えられ

夫婦にもうそあり子にもある内緒

平和です鼻をくすぐる柚子の風呂

ジム通い元気な汗と友が増え

ポケットに焼き芋入れて寒さ耐え

高槻市 原 洋志

福引きは五等ばかりで寒くなる

やりくりのスリル知ってる勝手口

年金で食える食えぬとエンドレス

カレーライス祖父はかたくなライスカレー

四季めぐる閉じた句会のままに春

高槻市 松岡 篤

コロナ禍にあっても孫にサクラサク

かばんには予備のマスクを入れてある

入る店コロナ対策見比べて

ガンガンと飲むと言っても家飲みで

コロナ策締める緩める繰り返し

高槻市 安田 忠子

ファッションの一部となりマスクかな

トレンドを先取りしますマスク縫う

目標は孫の結婚みる迄は

口紅の楽しみ変わるマスクづけ

日常の散歩は家で一万歩

豊中市 池田 純子

春を呼ぶ可愛い声の鬼は外

あちこちへチョコを仕分けている二月

あのころのままで逢いたい里の友

懐かしい映画を夫と昼下り

春は何時コロナと人の根比べ

豊中市 上出 修

3密に全集中の新コロナ

無観客勝っても何か味気ない

温暖化四季の垣根を低くする

食べて寝てステイホームで牛になる

渋い喉披露したいが自粛中

豊中市 藤井 則彦

冥土への土産に用意する一句

道端には磨けば光る石もあり

シャガールのふと目も眩む恋の色

顔色を晴らす日課の頬叩き

アイディアは歩く最中に浮かび出し

豊中市 松尾 美智代

陽のあたる出窓でシクラメン咲かす

白赤ピンクみんなそれぞれ美人です

雪見障子上げてこたつで見てる雪

蛇行しながら生まれ変わっていく命

おいしいと問えば返ってくる笑顔

豊中市 水野 黒兎

曲り角で春が定番を待つ二月

もれ聞いた噂はいつも蜜の味

玄関に三つ指ついて猫が待つ

車間距離次第に長くなる夫婦

春の朝脳は眠ったままで夢

富田林市 片岡 智恵子

手紙来る涙出そうなやさしい学友よ

一期一会軽い別れのお茶の席

コロナ禍の長いトンネルいつ抜ける

風鈴の音色に夢を遊ばせる

病む人を励ます言葉むつかしい

富田林市 中村 恵

人間っていいなやさしくっていいな

扉を開けて母がいつでも待っている

風からの便り元気でいるそうなの

幸せを染める七彩では足りぬ

真夜中の涙は軒下の氷柱

富田林市 山野寿之

寝屋川市 森

茜

初詣静かに老いが祈る幸

咳嚏刺さる視線に飛び降りる

ババ抜きに孫へ情けのババ掴む

成人式三密避けている晴れ着

小豆粥ほんのりピンク春を呼ぶ

寝屋川市 伊達郁夫

元気で声が聞こえて来る賀状

タンポポに乗って童話の旅に行く

体温が伝わるように抱く位牌

独り言さえも憚るデイスタンス

医学書を覗き病人顔になる

寝屋川市 富山ルイ子

変型性手関節症両手とも

一日中軟膏をぬり撫でている

ひまをもてあまし一日ぼんやりと

母の夢を見る子供の頃の夢

断捨離を眠れぬままに少しずつ

寝屋川市 平松かすみ

平熱になって投句へ走り込み

チコちゃんに叱られそうな日続き

お裾分け好きか電話で聴いてから

あんぱ柿返礼品にして安堵

珍しく夢で夫に逢いました

二ヶ月の蜂蜜びん底に眠る

返信はお気づかいなく梅一輪

ノックするドアは嗜み忘れない

こっそりと抜ける自粛の裏通り

にらめっこ だあれもにらみかえさない

羽曳野市 磯本洋一

昨日今日明日明後日無欲なり

ピザを切る七等分と頼まれて

野の案山子フェイスシールドマスクして

妻旅行ビール焼酎友として

恐い順コロナ地震に雪と雨

羽曳野市 宇都宮ちづる

遮断機の向こうに消えたひったくり

コロナ禍の視線が辛い花粉症

コロナより恐い果ごもり認知症

仲居さんも神様も呼ぶ二拍手

朝神棚夕仏壇で恙無く

羽曳野市 徳山みつこ

今朝もひとりの米を研ぎ葱刻む

宅配のマスクへどうもありがとう

私にスイッチ入れた一本の電話

東京五輪二ホンの脆さ露呈する

ドラえもんのポケット欲しい昨日今日

羽曳野市 藤原 大子

柚子ひとつ鳥も遠慮が残るまま
今日もまた朝の体操して貯筋
不用意な動作は無理と知る打撲
一点を見つめ見えなくする周り
何気ない会話で元氣くれる友

羽曳野市 三好 専平

居酒屋の暖簾をくぐるマスクの目
咳をして借金取りを追ひ払う
ボロボロの診察券を握りしめ
コロナ詐欺国会議事堂食いあらし
ブーチンはカジノのついた家に住み

東大阪市 佐々木 満作

豆撒きも中止神社はかんこ鳥
大阪都ならずも二極化は必至
マイナンバー覚えぬ方が役に立つ
軋けなやと言った家内が杖を曳く
食品ロス食料難の時期がくる

東大阪市 西村 哲夫

一目惚れあなたの欠点探さねば
纏い付く煩惱ギュッと抱きしめる
初一念箱に詰めよか包もうか
パラダイスからの土産を鬼が待つ
お互いにどうぞとぞと埒あかず

枚方市 谷 英也

淡い恋八十路の疼き疲れます
コロナ後は冬季北京と世は平和
人類は自然の猛威打つ手なし
川柳をひねりひねって脳ほぐす
死にたいと口癖なのに医者通い

枚方市 丹後屋 肇

バンデミック九十翁の初体験
三密が大都市圏の泣きどころ
ワクチンを他国に託すランキンク
注射打つ太いカイナが逞しい
聖火リレーボランティアが白け出す

枚方市 栃尾 奏子

始まりに繋げる終止符を打とう
許すしかない残酷な花吹雪
逃げ出した勇氣は行方不明です
待ってますあなたに春を用意して
溶けてゆくだろう悲しみ 傷 あなた

枚方市 藤田 武人

目標を捨てずに遅咲きの桜
人間は愚かを知ってから写経
ぶっつけの勝負だ一枚の清書
円満の握手笑顔にあるグレイ
凸凹のコンビが醸し出す話術

枚方市 藤村 亜成

臆病になるな不正直になるな
透明人間にペンキ塗る記者魂
湯加減の良さへ腑抜けになつてゆく
一矢報いニッコリ笑う好敵手
スプーンのくぼみにまろやかな時を盛る

枚方市 山口 弘委智

ぼつねんと眺めていたい冬の月
道草のやめられなくてランドセル
白という激しい色の冬將軍
一行詩五感の本音詠つてる
感染の数になれたる繁華街

藤井寺市 鈴木 いさお

独りは淋しい群れは煩わしい
妻の顔美人じゃないが好きな顔
解説が喋り過ぎてても聞きづらい
通販のCMどこか嘘っぽい
「芝浜」に妻の姿を重ねみる

藤井寺市 高田 美代子

あの窓の中で日替りのドラマ
ほんとの事言うて辞任に追い遣られ
洗濯物がしつかり乾き少し春
独り言少し遅れて風に乗り
欲の無い人だと人は嗤うけど

藤井寺市 吉田 喜代子

曇り空行く所なし来る人も
札状もスマホですます味気無さ
自転車も不用品となる定め
スーパで現金ですかと念押され
初夏の頃マスクはずして道明寺

箕面市 大浦 初音

元の値を知りたくシールはがして
影だけでも若くありたい背を伸ばす
さよならは言わず別れはまた明日
読み聞かせした子はやはり本好きに
人生に遅いことなし老い楽し

箕面市 酒井 紀華

現金より早いカードに切り替える
出来る事から切り替えていく老いの知恵
クシャミする視線が怖い人の群れ
時々わたくしにご褒美前を向く
まだ続くコロナに負けぬ未来地図

箕面市 出口 セツ子

自肅中では上がる電気と電話代
話したい笑い合いたい日々を恋う
自肅続き楽しいことが浮かばない
損してもお天道様に恥じず生き
日記帳代わりに今日もする作句

箕面市 広島 巴子

コロナ禍に見えぬ鬼へと豆を撒く
侘び寂と枯淡味わい菓にこもる
久々に夢で子に会いほんわかと
天を指す梅の新芽に希望抱く
花便りそろそろ友と会えるかな

八尾市 寺川 はじむ

梅干しかじり百を目指して四股を踏む
親父ギャグに孫お愛想のリアクション
さりげない髪の乱れに見る色気
代表に祭り上げられ踊らされ
幸せなのか乱れを知らぬ蟻の列

八尾市 村上 ミツ子

あったかいおかずとうまくなるごはん
開けたままにしておこう見せたい日記
がまんがまんへ遠慮なく大あくび
人の少ない道をえらんで散歩
なんとかなるさいやなんとかせねばならぬ

神戸市 上田 和宏

身の丈に合わせばよいと地蔵さま
三等身くらいが似合う地蔵さま
目線合うと暖かいなあ地蔵さま
あと一歩足りぬと笑う万歩計
一件が落着うまいなあ酒

神戸市 奥澤 洋次郎

八十歳思ったことはまるでない
そんな時期もあるのんよ全没続く
階段へ妻の話が追いかける
お役所は自粛をしない緊急事態
躊躇する時は残っていない恋

神戸市 斎藤 隆浩

食べる意欲生きる意欲を連れて来る
インバウンドの波が途絶えた観光地
売れば上がり買えば上がらぬほくの株
今買えばティッシュおまけの缶ビール
ウイルスもモデルチェンジで強くなる

神戸市 敏森 廣光

この時世面白くないが笑ってみる
春を待つ口紅さして紅さして
やっそこさ生きて来たのにまた試練
僕も友も歳をとっても神戸っ子
逝く時は年齢順にしましょうよ

神戸市 富永 恭子

終わりなき戦の敵はわたしです
ウォーキングあちらの道も老夫婦
ローバイが咲く道写真撮り溜める
長旅を琵琶湖で癒やすコハクチョウ
福豆の軽さコロナの罪深さ

神戸市 能勢利子

百歳から歳を取るのは止めた母
ディサービスの車が来ると小走りに
自肅中はつばさ休めてスタンバイ
一日中百歳の守りするテレビ
閃いた句つぶやきながら風呂上がる

神戸市 松倉正美

母の味引き継ぐ妻の恵方巻
福豆を読むには数が多すぎる
歩一歩で春一番に立ち向かう
義理チョコがたとえ来たのは遠い過去
ワクチンで憎つくきコロナ迎え討つ

神戸市 山口光久

過去形の中から探し出すヒント
飾らない言葉が耳に心地好い
雲悠々私も腰を伸ばそうか
脇道にそれては駄目と影が言う
着飾っていても心は変わらない

神戸市 山口美穂

姉妹お喋り止め処なく続き
あれあれ連発他人が聞いたらおかしかろ
梅の香が誘ってくれたよい出会い
謝罪会見やっぱり本音出てしまう
誕生日ひとり祝いいいものだ

神戸市 山崎武彦

老木の新芽に明日の詩がある
五〇年傾きながら廻る独楽
カップ麺にカニ缶付ける妻の留守
残業の帰るコールは酔っている
エンドレステープのような愚痴を聞く

明石市 糀谷和郎

綿菓子のでんなった舌の先
お天道様の下ではできぬ隠し事
献血をお歳ですねとことわれ
臥す父の指が跳ねてる祭り好き
訪ねた家の仏にいつも手を合わせる

尼崎市 近兼敦子

やさしさよ私にパワーくれたまま
息切れをしない程度の夢一ツ
人の良さ年季入ってにじみ出る
スマホ持ちテレビ離れの子が育つ
痛いところについてくるのはいつも母

尼崎市 永田紀恵

ボーズだけ祖父父真似る北のドン
ステイホーム良い事もある金溜る
玄関のくつが語っている家風
てにをはを入れ替え余生恙無し
忘れてた私に会える老いの恋

尼崎市 藤井宏造

柿の実をたっぷり食べた茜雲

無観客でも試合のできるありがたさ

デヴィ夫人芸名なのか孫が聞く

切り時を考えている長電話

夫婦茶碗大きい方が今は妻

尼崎市 藤岡りこ

冬なのに換気のための扇風機

断捨離した湯呑み探して一時間

他人に話せるほどの失敗なら愉快

アルバムの断捨離だけは勇気出す

食卓の隠し味には子の笑顔

尼崎市 藤田雪菜

初春は荒神さんへご挨拶

独り居の食品ロスが気にかかる

空白の記憶を確かめる日記

冷たい朝血圧計の指示を待つ

水仙が春待つ心かきたてる

加西市 山端なつみ

手順ふまぬ交代劇にまた批判

老害とまで言う人に問う君は

老害と言う人は齢とらぬのか

引き際は肝心いくら功あれど

日本揺れるコロナ禍地震五輪まで

川西市 山口不動

食の味変わらず食べて無事を知る

ワクチンを揃って予約出来る幸

お赤飯孫の内定決まった日

独りらし惣菜選ぶご同輩

寒雀ぶくりぶくりと群れて出る

三田市 足立つな子

つぎつぎと変異 コロナはいつ晴れる

白味噌の朝の一杯しみわたる

うなずいて声はなくともいい朝だ

送り出し負けじ魂ウオーキング

かさこそと枯れ葉舞い散る雀の子

三田市 上田ひとみ

ええ歳になっても私あかんたれ

強さにも惹かれ優しさには泣いて

目をみつめ話せない道まだ続く

くちびるも乾いてしまう ああひとり

にらめっこ勝ったことなどないけれど

三田市 大西重男

果ごもりで気持がわかる籠の鳥

寒い夜無言でつくくひとり鍋

朝昼晩海は光のショー舞台

余生と預金バランス崩れそう

デイサービス行きたくないが行ってくる

三田市 尾崎 一子

立春の雨でふくらむ庭の梅
立春の新酒コ罗纳禍の宅配
節分さんだあれも来ない亡夫の忌
切なくてそんな日もある酔っぱらい
いい笑顔忘れないように朝鏡

三田市 九村 義徳

雪の夜は友と地酒を酌み交わす
雪しんしん温泉宿の灯が温い
月影が雪見障子を開けさせた
雪見酒当てはスルメがあれば良し
4Kで初冠雪の富士を見た

三田市 多田 雅尚

昼前に起きて三度食事摂る
顔認証プチ整形もズバリ当て
水面を知らずに終える深海魚
二重マスク効果有るなら僕もする
職辞しただけで解決せぬ差別

三田市 谷口 修平

年輪の中に潜んでいる頑固
年輪を重ね柔和な道祖神
年輪が汗と涙を語り出す
大輪もなぜか淋しい冬火花
加齢とや望郷の念断ち難し

三田市 野口 真桜子

気がつけば手を合わせている初日の出
風の子に聞いてみる降るかしら雪
逃げ道があるから叫ぶ大好きと
仲人の別れなはれで喧嘩やめ
新コロナ義理チョコまでも遠ざける

三田市 福田 好文

夫よりもベツトと話よく弾む
榎山と施設の違い親に説き
病む兄の顔が親父に瓜二つ
宮仕え終えて天職鎌を打つ
OB会役職順に坐らされ

三田市 堀 正和

目が覚める一人芝居の幕開けだ
コロナ明け旅のプランはてんこ盛り
図書館も六十分で追い出され
不要不急今日も頑張る七千歩
巣ごもりで気付く我が家はユートピア

三田市 松本 ゆかり

青麦を仏壇に活け春を待つ
何と何なんでもいいの一人鍋
ともかくも豆腐とねぎははずせない
言わずとも巻き寿司無言独居です
派手な靴ころんだ時に恥ずかしい

三田市 村田 博

丹波篠山市 酒井 健二

ストレスを吐き出すダーツと真ん中
カーテンを開けて見ている宇宙船

出番減り肩の荷下ろすレジ袋

ゴミの日にコロナも付けて出すマスク

恵方など知らず巻き鮎食べている

高砂市 松尾 柳右子

夢で逢う亡夫優しい笑顔する

家ごもり唄番組へ釘付けに

友達も元気マスクで語り合う

ありがたい料理並んでいる平和

久し振り笑顔あふれる子供たち

宝塚市 丸山 孔一

探し物何でこんなに汗をかく

咲くもよし散るもまたよし寒椿

踏み締める大地キラキラ霜柱

咳ひとつ四囲の視線が飛んで来る

マンションの壁に画鋲がささらない

丹波篠山市 北澤 稠民

コロナ禍が拍車をかける家族葬

コロナ禍で酒量が増えて要検査

おはようが何時ものように言える幸

冬ごもり隣の人と久しぶり

やり残しあるから張りのある余生

無駄たんとやってようやく人になる
逃げないと明日の太陽拝めない

一皮を剥くと五十に戻れよか

大地震コロナの次も有りそうな

卑怯にも退路を絶ったことが無い

丹波篠山市 長谷川 善輔

出来る出来ない占いの如五輪待つ

今日もまたコロナで世界の夜が明けた

温泉旅行行ったつもりの炬燵酒

金婚に一年足らず妻が逝き

妻の櫛使いつ聞こえる「薄くなったね」

西宮市 緒方 美津子

からからの植木鉢にもしかと春

磨いた技世界遺産の屋根を葺く

フツフツと子も孫も来ぬ鍋の愚痴

難しや本音の言える空気感

オレオレ詐欺一枚上と思うべし

西宮市 西口 いわゑ

朝の経自分自身が癒やされる

熱燗という良薬に生かされて

真ん中の紅一点が弾ませる

生き方はこのままでいい後すこし

良いほうへイメーヂチェンジして眠る

塩糍はまった老母のチキンソテー
西宮市 福島弘子

愚痴弁解未練チラホラ辞任劇
こうのとり舞う里山の人優し
手に馴染む万年筆が手離せぬ
ワクチンをまだ迷ってる昼の月

西宮市 福田正彦

胃の手術カプセル食を考える
残照に思いを刻み余命行く

自信には天狗の鼻が邪魔をする
新型コロナ人の弱さを見抜いてる
閉じ籠り財布の論吉増えている

南あわじ市 萩原狸月

キャッシュレス金銭感覚わからぬ子
AIに頼る感性にぶくなる

情報的大海自分の位置がつかめない
丹精を猪のやつ鹿のやつ
自由競争即弱肉強食

奈良市 宇賀史郎

裏の裏読んでる人の裏事情
失敗の言い訳を嘔む二枚舌
欠点は手持がなくて誘う癖
先ず値切り反応に知る物の価値
両親のDNAに謝し恨む

奈良市 大久保眞澄

床屋さんの腕試される薄い髪
濃厚接触手術姿の歯医者さん
マスクをすると鼻水が出るんです
起きていい時間まだかと待つ布団
寒風にめげずノラ猫子沢山

奈良市 加藤江里子

雪眺める夫の背中丸くなり
新しき鉛筆削る松の内
神事のみ取り行われコロナの禍
目に見えぬウィルス目掛け豆を撒く
初めまして視線逸らさぬ人と識る

奈良市 高橋敬子

一人お節後はいつものローテーション
手渡しの温みこだわるお年玉
おめでとう言うも気の引く初春となり
騒動後マスクの山を見逃せず
三密を避けていよいよロボット化

奈良市 山本昌代

おい雲次のチャンスはボクだから
絵を描くような筆順孫の文字
いい会話ほこほこと響きます
ストレスを感じはじめたひとりぼち
時々のサブリ川柳ありがたし

奈良市 米田恭昌

じいちゃんとのげんまん守っているヒ・ミ・ツ
黙秘権情に脆く崩れ出す

不器用もアイメイクだけ上手くなる
コロナ禍の試練が続く小商い
遅しく育てとコロナっ子のひ孫

生駒市 飛永ふりこ

柔らかな日差しに解けるわだかまり
懐の頑固ボーンと飛ばせたら
寒牡丹ささやくようなアドバイス
じんわりと温い励まし福寿草
はちばちのステップアップ春風と

香芝市 山下純子

嫁来ると聞けば家中お片付け
過疎の村コロナも知らず波の音
三密避け恋も進展できぬまま
故郷の竹やぶ子らの秘密基地
ワクチンの効き目あるうち旅に出る

桜井市 安土理恵

共に変われば問題ないというものの
ご近所の口はこの際気にしない
聞き捨てならぬととび出してゆく夫
訥弁も忘れ日本を語り出す
ここいらで妻の出番になりました

奈良県 安福和夫

呻吟を楽しむ境地まだ遙か
川柳で閉塞感に風穴を

コロナ殿少し長居が過ぎますぞ
人類の英知今こそ問われてる
五輪こそ不要不急の目玉かも

奈良県 谷川 憲

愛犬逝き思い出のフォト懐かしむ
分からぬままマスクの顔にご挨拶
ステイホームたつぷり小言聞かされる
書架整理つい再読し進まない
気持ち良い猫と一緒に日向ぼこ

奈良県 中堀 優

嫌われる高納税の蛭族
マスク美人目元命とアイメイク
わが家の歴史見てきた大時計
人肌の伝わってくる手紙読む
種のあるブドウなぜだか嫌われる

奈良県 長谷川 崇明

コロナ除去折る観音お水取り
また自粛時計進まぬ昨日今日
還らない時間に今日も無為無策
自由とは孤独だと知る妻の留守
エコバッグ忘れ買う羽目レジ袋

奈良県 渡 辺 富 子

鶴一羽哲学者めく冬の川
河川工事男の力惚れ直す
妹のスマホいつもの愚痴になる
八十路越え見える景色も新しい
わだかまり沈む夕陽へ解き放す

和歌山市 上 田 紀 子

恥かいたこの顔念入りに洗う
蹣いて原点の頃振り返る
耐え抜いた長い助走よ春の音
のんびりに慣れて無欲な日の自粛
自分の殻破って春を追いかける

和歌山市 柏 原 夕 胡

真ごころを尽くせば心響き合う
何もかも全部自分へ返ります
よく笑うので陽気だと思われる
ごく稀に針のぞかせる事もある
正論を吐いて友だち減りました

和歌山市 喜 田 准 一

今日もまた怖いコロナが付きまとう
ブツブツと小言混じりの飯を喰う
生き様のワキが甘いぞ時津風
イケメンを見れば手を出す口も出す
怖いのは天災地変コロナ災

和歌山市 土 屋 起 世 子

曾ばあば守るおもちゃの日本刀
看護師の言葉に痛み解けてゆく
リハビリに耐える三食平らげる
余る程時間あるのに焦る癖
留守宅を見守るように椿咲く

和歌山市 古 久 保 和 子

受験生の母のうどんはやわらかい
食パンの四つの耳は聞き上手
春は自転車少し遠出をするベダル
プランターの春は出自を問わぬとも
今日からはここで咲かせる移植鏝

岩出市 藤 原 ほ の か

マスクしていろいろあるが隠してる
いろいろな色で自分を描きだす
ひねることしないで真っ直ぐ突き進む
程ほどの生活みなで鍋つつく
南向き陽射し取り込み深呼吸吸

海南市 小 谷 小 雪

孫からのたよりはちゃんと取っておく
草木染森のパワーに包まれる
首里城再建首長くして待つ
見栄えはいまいちでも味良いみかん
指折り数え姉の退院する日

紀の川市 山東 日出男

途中から一人歩きをする噂

信号を正しく守る盲導犬

命名にルビまでちゃんと打ってある

デュエットもアクリル板で白け気味

タンポポの種の命は風まかせ

橋本市 石田 隆彦

感染数まばゆく見える0の価値

干からびる脳に数独という水

一晩で治療出来ない心傷

目で語るこの人きつと友となる

良心と保身天秤の葛藤

京都市 清水 英旺

枯れた身にまだ残っていた涙

性懲りもない人間という生き物は

ありがたく頂戴しておく褒め言葉

夢に見た鬼籍の友の笑い顔

句をひねりCD聴いている平和

京都市 藤井 文代

夕焼けでコロナの憂さを塗り替える

化粧よりマスクのお洒落競ってる

自粛生活刺激欲しくスパイス振る

もつれたまんまコロナ令和が過ぎていく

早朝ウォークマスク掛けずに風に逢う

長岡京市 山田 葉子

二つのこと同時進行出来ぬ歳

ありのままで居られる人の横がいい

指先の傷家事がなかなか渉らぬ

ケセラセラ歌うと勇氣湧いてくる

引き籠り音の世界に癒やされる

鳥取市 池澤 大鯨

ことさらに言いつのつて喧嘩好き

弁が立つ誠実さを問われている

立ったり座ったり心配性なんだから

跡を濁さず身を引いたまま閑居する

立て板に水 水は涸れないものか

鳥取市 奥田 由美

内定を蹴って自滅のプロ志願

愛犬と無職ニートが住むコタツ

満足と今期最後の蟹ご膳

遅すぎる不定愁訴が届く古稀

断舍離の山から拾う赤い服

鳥取市 加藤 茶人

気を揉まんでも良い贈与税の額

上を見ろ勇氣貰える西雲

押し入れの秘密基地からまあだだよ

長生きはもうすぐ父の年を越え

大ボラは翼を広げて足りぬ

鳥取市 岸 本 宏 章

不要不急の用がほとんど高齢者
冬枯れの庭を山茶花引き立てる
感謝するところに宿る福の神
不気味なほど静か団地の昼下がり
幸不幸他人が決めるものでない

鳥取市 岸 本 孝 子

お日様が元氣な日には腹が減る
箸箱はいつもカバンに持っている
嫁入りの簞笥に込めた親ごころ
氣は利かぬだけ氣立てはいい娘です
ひとりだけ空氣の読めぬ人がいる

鳥取市 倉 益 一 瑤

庭の隅春がひょっこり芽を出した
抜群の答を故郷からもらう
巡り合う事は叶わぬ風の彩
真相を話すとつむじ風になる
草臥れたわたしにペンキ塗ってみる

鳥取市 田 賀 八 千 代

郵便箱磨き合格待つ親子
母の愛深くて心図れない
足跡を辿れば回り道ばかり
断捨離ができぬ足跡消えそう
縄跳びダンス踊る余力を持つ踵

鳥取市 田 中 天 翔

山笑う頃にワクチン番が来る
抗体は持ちたい 副作用こわい
予防接種若いころから苦手です
無人島に暮らす他ないのでしょうか
日本製のワクチンでできる時を待つ

鳥取市 棚 田 大

サンタさん大雪に会い困り果て
雪よ降れ降るのはやめて勝手よな
大雪がたるむ心に活入れる
年賀状昔の友が元氣くれ
俺マスク友と出会うも知らぬ顔

鳥取市 谷 口 回 春 子

人の欲餌にコロナ禍やってきた
スパイスが効いてほんとの味がする
責任は私にあると蓋をする
がっかりが小っちゃな胸に震度七
幸せのキーはいつでも妻握る

鳥取市 永 原 昌 鼓

万病に利くワクチンは生まれぬか
ワクチンが世界平和に貢献か
夜遊びは出来ぬコロナが減ぶまで
新聞にカタカナ増えて読みづらい
バレンタインチョコをあげたい人もなく

鳥取市 中村 金 祥

出発の時だ気持ちを入れ替える
ガン切除生まれ変わった身を愛す
歳とればとるほどプラス向きで生き
再生の水には負けぬ岩清水
司令塔揺れて経済ままならず

鳥取市 夏 目 一 粹

うっかりと喋れぬ人が側にいる
切り札を畳んだままで持っている
陽の残る方へ居場所を移しゆく
七癖もあると仲間が寄りつかぬ
男と女基地は酒場と喫茶店

鳥取市 副 井 ゆたか

出掛け好き移動自粛とせめぎ合い
祝賀会歓迎会も無しの春
この星で出会えた君という宝
ど演歌が沈む心を叱咤する
句作りに強い味方となるスマホ

鳥取市 福 西 茶 子

爆睡をしてから冴えてきた右脳
本心を晒してからの無重力
どん底の水は甘くて澄んでいた
虎落笛あれは雪女の子守唄
稀に使う父に習った値切り術

鳥取市 前 田 楓 花
寂しくはないか困ってはいないか
大切な人を守って日が沈む

へこたれるな私まだまだ六合目
裸木になると真実見えてくる
新しい舟に乗ります過去捨てて

鳥取市 山 下 凱 柳

脳と身体常に動かし老い退治
右か左か迷って生きて喜寿迎え
流行に遅れてならじ鬼滅観る
五輪の可否問われています政治力
庶民目線の政治を希求する社会

鳥取市 吉 田 孔 美 子

合格だ冬の重ね着脱ぎ捨てる
父母の形見でにこやかに過ぎる
班長は順番ですと米寿でも
ノルマにするか趣味ですと横向くか
高校生か声に飢えてるわたし

鳥取市 吉 田 弘 子

もう少し強く生きよう山越えた
目標は地味だが日日の積み重ね
ウォーキング陽気が誘う回復期
親子でも大切にすることがとう
社会人になっても孫へお小遣い

倉吉市 猪川 由美子

五輪やコロナ総理いよいよ正念場
クーデター起きぬ日本平和だね
トップの発言幕引き図り必死だな
自粛疲れもう限界だ人出増え
コロナ感染死んでも会えず残酷だ

倉吉市 岡崎 美知江

嘘ひとつにふりまわされて泡となる
夕飯は祝いの膳の残り物
久方ぶりマスクしてない顔をみる
流行に染まらぬ白がよく似合う
コロナ禍で帰れぬ声は「元氣だよ」

倉吉市 田中 紀美恵

旅の空自然の空気胸に詰め
だんだんと知恵も氣力も消えうせた
川柳の友喧嘩せず二十年
コロナ去り私の余生バラ色に
八十路では恋もかなわぬあきらめる

米子市 池田 美穂

花粉症コロナの陰でヒタヒタと
手作りのマスク捨て時わからない
親鳥の様に手作りくれる姉
目の前に壁見えるのは私だけ
淡淡と桜は準備し始めた

米子市 伊塚 美枝子

お陽さまに氷柱の涙ポトポトリ
雪どけの音軽やかに春を待つ
節分の豆まく声も小さめに
うやむやの程良い距離にいる夫婦
太陽に元氣をもらう七十歳

米子市 後藤 宏之

マスク顔やつと貴方に気がついた
あら不思議ノンアルコールドも酔った
平和ボケすこし揺らして活入れる
ああここが日本これからどうしよう
立法も司法も妻が取り仕切る

米子市 後藤 美恵子

アンテナを下げて雑音避けている
密を呼ぶバーゲンじつと我慢する
三猿の可愛いババになる努力
言葉の壁手振り身振りで切り抜ける
黙黙と蟹一杯を平らげる

米子市 竹村 紀の治

惚けてくる予感昔が近くなる
生酔いのまま居酒屋の午後八時
ひとり言苦笑いする夜の飯
字の乱れ修正液が足りません
楽しんでおります酒の副作用

米子市 中原 章子

はしゃぐ声耳障りとは思わない

朝刊が濡れずに届き感謝です

プレゼント勿体なくて仕舞い込む

叱った子に叱られながら暮らしてる

平凡な日目が家族の味になる

米子市 成田 雨奇

妻がする相談何を食べようか

一日に三十時間あればなあ

このぼくは地球のただの浮遊物

コロナさえなければ行けた園遊会

子の祝言いくら包めばいいのやら

米子市 野川 宣子

気がねなく遊びに出る日いつ叶う

コロナ禍をどんな手立てで幕を引く

お揃いの布団でちがう夢を追う

ふらふらと近所歩いて怪しまれ

ずぶ濡れとわかっていても正義感

鳥取県 門村 幸子

まず窓を開けて換気をする日課

ああだこうだ言ってもおれずまず動く

三十年ぶり大病院の様変わり

仕方ないプラス思考で押し進む

劣等感素直なままの影一つ

鳥取県 竹信 照彦

TV体操毎朝やって調子見る

節分はコロナと鬼を叩き出す

弾んではならぬおしゃべりつい句会

声を出す訓練 心経を読む

往路だけとはいかぬのが万歩計

鳥取県 細田 裕花

深ボリをするとあたたかい世の中

芸風はちよつと違うが夫婦です

物知りのスマホが傍に居てくれる

卒婚も老後のカタチなのですね

乾杯はおあずけコロナ消えるまで

鳥取県 山下 節子

一年をめぐる自然の花ごよみ

美容整形先祖の顔が消えていく

地引網観光客もてこをする

老い二人笑って暮らす日々感謝

雪降れば子等が見舞の電話くれ

松江市 石橋 芳山

もんもんと今日を捏ねあげ午後3時

「、」も「。」「もない直線的な日々

いまニヒル演じているか尻尾の毛

赤い点わたしがどこか見えますか

性格も容姿もまるつきりガレ場

松江市 松本知恵子

春キャベツゴロゴロ東風の吹く畑

鳥根県 伊藤寿美

五つの輪女性の目線から揺れる

出不精の私も自粛には飽きた

マンションが建つ今年の花火見えぬかも

リモートで会おうかな入院の母

出雲市 伊藤玲峰

雪止んで春の若芽がほほえむよ

せつせつせと社業育てた日懐かしむ

今はもうこの世に居ない方々も

他社からの勧誘もあり戸惑いぬ

次世代に譲り世の中も変わる

出雲市 岸桂子

辛い日は亡母の手紙を読み返す

少子化の風にブランコだけ揺れる

悲しみは悲しみのまま喪が明ける

子を九人育てた亡母のお針箱

逢いたくて会えない人よ茄子の花

雲南市 菅田かつ子

電話ベル夕餉の仕度頼まれる

けんけんぱっ そんなリズムはご無理です

生き生きと九十歳のクラス会

投げ出してまでも昼寝をしまい

しげしげと見詰めてあなたどなたさん

驚や知ったか振りがよく喋る
私を焼いても何も残らない
私が軽くて傾ぐヤジロベエ
九十歳わたしはわたし我を通す
十九年忌コロナ禍知らぬ夫の星

岡山市 大石洋子

揉み手ばかりうまくなってく世に生きる

アマビエの札あちこちに貼りまくる

繰り言に相槌するも付度で

マイナンバーカード写真が遺影です

時候の挨拶ぬきのコロナ談義

岡山市 工藤千代子

未来図を描きたいけれど紙がない

わたくしの涙は読めぬバーコード

サポートは夫にまかせる春もそこ

私にも薬を飲むという仕事

湯どうふとうどんで初春まで泳ぐ

岡山市 丹下凱夫

高血圧よりもコロナが恐ろしい

コロナは恐ろしいワクチンは怖い

コロナでは死にたくないと言おう

街路樹の濡れて節分静かなり

恵方巻き言われる通り食べている

元旦の朝の光は女神様

蠟梅の花甘くして春となる

福寿草今年もボコリ顔出した

ピートルズ聞くと体がゆれてくる

公民館学舎にしてみな笑顔

岡山市 前田 恵美子

親友の病が言わず言葉に泣く

病いだと解つていても許せない

信頼しあい楽しかった日遠のいて

三年も何にも出来ずに悩みぬく

思ひ出は明るく真面目胸に置く

岡山市 高岡 茂子

車椅子押す手に温い陽が届く

一日の予定どうにかクリアする

勝ち負けにこだわることもない夕日

また明日なんてやさしい助け舟

結論を出すには早い八十路坂

岡山市 田中 恵

定位置は定年のない台所

本命が転けると欲が湧いてくる

味噌汁がうまい性善説たしか

さて今日は何をしようか大欠伸

信号の青に流れる足も春

岡山市 藤澤 照代

このマスク昨日断捨離したアロハ

風呂さえも体力がいる老いの坂

在りし日を辿ると涙こぼれ落ち

命がけ運転中の大クシャミ

懐が寒いのでカイロ入れてみる

コロナ撃退オリンピックの灯が燃える

三寒四温とはいえ気温差のひどさ

脱炭素洋上風力発電へ

洗濯物朝の光につつまれる

紅梅の甘い香りも絵手紙に

竹原市 石原 淑子

昔は遠しあの人はお遠し

心して春は待つものしんと雪が

湯豆腐の盃はちゃんと決めてある

出会えたは川柳嬉しく思うなり

終着駅のベンチに時という忘れもの

竹原市 岩本 笑子

見守り隊雪踏み分けて通学路

弾き語りやさしいトークピアノの音

密避けて未読の山は低くなる

追伸に夢の欠片を忍ばせる

いつの間にスマホは友の仲間入り

岩国市 上村 夢香

広島市 岸本 清

宇部市 平田実男

肩書きのことには触れぬ句の仲間
介護するほうもおぼつかない手足
ネクタイをすると会話も固くなる
蹴蹟く石がだんだん小さくなる
切り札も僕もだんだんセビア色

防府市 坂本加代

たそがれに四つ葉をさがす子がひとり
遠巻きに自慢話を眺めてる
コロナ禍で人に会わずに気楽なり
遺言を書く気になれぬまだ元氣
二十五年猫の一生見届ける

松山市 栗田忠士

時々は欲しい暮らしの變化球
コロナ禍へ二重マスクで立ち向かう
メガネマスク補聴器耳たぶが足らぬ
春は近いと蠟梅が笑う
土踏まず怠けていたのではないよ

松山市 古手川光

鬼は外違うでしようと言う鬼
人も冬眠したらどうやと言う蛙
明日目が醒めるやろかと思て寝る夜も
妻逝つてとつても寒い冬となり
阿呆なら笑るとく馬鹿言われたら噴火する

松山市 宮尾みのり

せっかちが開けてしまった鍋の蓋
ぼっかりと抜けた記憶が戻らない
補つて八割方であればよし
脱力をほっちキャンブに教えられ
絵本つていいナやさしさ取り戻す

今治市 永井松柏

すし詰めのまま団塊が老いてゆく
まだ何かモノ言いたげな落ち椿
お役所の都合で変わる罪と罰
嘘のない笑顔のままで叔母が逝く
含羞の人と言われて終わりたし

西予市 黒田茂代

来てくれて嬉し今年もジョウビタキ
夫病んでいつしか消えた愚痴小言
夫の喉通るやわさに豆を煮る
美味しいが心笑顔にしてくれる
責任がずっしり甘過ぎた肩に

西予市 西田美恵子

焼酎におはぎワインにチョコレート
怖いのは甘い言葉で叱られる
露天風呂怒った顔は浮いてない
あなたが先に好きと言うたと譲らない
単純な白だが難しい白だ

辻内次根

戦闘状態に入る物忘れ

本年も年賀切手の当たる幸

ひとり食べる大根おろしが辛い

手の届く幸せ焼きそばにビール

エナジードリンクで点火しなくなる

高知県 小澤幸泉

コロナには負けぬ愛妻側に居る

寒椿落ちて仲間が増えました

似合っても似合わなくても君が好き

ばあちゃんの手作り帽子よく似合う

誉めることいくつあっても足りません

東かがわ市 川崎ひかり

コロナ禍でラインの友が増えてゆく

包装紙開けば真心顔を出す

孫への便りキラキラシール貼って出す

抱くたびに重さ増しゆく初ひ孫

孫と子を抱いた重みを知る両手

北九州市 小松紀子

日常のくらしに飢える胸の底

笑うもーん気持切り替え笑うもん

口角を上げて寝るくせつけている

アッハッハ仔犬が笑わせてくれた

ふすまごし仔犬がいきかいている

唐津市 坂本蜂朗

古傷が疼く故郷の山や川

お手の物が寄る年波で狂い出す

年寄りに急げ急げと鳴る電話

妻入院手は荒れ泣き出す指の先

妻不在誰も止めない酒の量

唐津市 山口高明

沖繩の基地軽減も声ばかり

長押には槍が飾つてある旧家

春ひと日芸術観賞ミロー展

褒章の授与を仲間祝われる

礼拝の胸にクルスが光つて

熊本市 杉野羅天

椿紅白大輪目出度大寒日

真冬咲くハイビスカスに脱帽す

テレビリモート若い方だけ礼儀あり

上品さがつのる箸使いきれ

よき獵場消えた令和の脱自然

熊本県 岩切康子

先輩から可愛い干支の贈り物

鬼遊氏の句を読み師の句集取り出した

戸締りを確認させる電話来る

断捨離品もつたいないと差しあげる

頂いた中国墨が使えない

北海道 小 沢 淳

ふるさとは夏に海霧湧くところ
墓穴掘る森会長を笑えまい
国会を今日も動かす週刊誌
漬物の石で終えるのもこれもよし
青よりもブルーの方が心揺れ

九 津 山

(つづき)

松江市 相 見 柳 歩

人様のこころの針を抜く仕事
並んだら目を見て話せなくなるよ
ことだまであなただの心開けますね
予感から現実になる深い仲

出雲市 黒 目 ひでお

ワクチンでコロナ一息つきたいな
脱炭素皆で取り組む温暖化
流行歌ひとりぼっちを元気づけ
アフターコロナ皆で日本をユートピア

瀬戸内市 宮 宅 比佐恵

人間が集えば空気がつく
新型コロナ人間英知みせどころ
価値観のちがいを老後をどう生きる
貧しくも昭和人情温かった

地震から五年ーそして未来へー 全九州現代川柳作家色紙展

日 時 2021年4月14日(火)～4月19日(月)
10:00～19:00 19日は15時まで
入場無料

会 場 鶴屋東館8階 ふれあいギャラリー
主 催 熊本県川柳研究協議会

川柳で詠む熊本地震
風化させてはならない熊本地震の記憶

招待作家 古谷龍太郎、梅崎 流青、
大場 可公 他
県内作家 黒川 孤遊、平田 朝子、
杉野 羅天 他

こうしたら良いと言われてこうが出ず
ポツポツと春の音符が載ってくる
レトルトのカレー間に合うシェフの味
燃え尽きるまでは消さない心の火
津山市 高 橋 由紀女
コロナ禍の収束やはり逃げ水か
指紋より皺が際立つ指の先
美作市 岡 本 余 光
たまに居るマスクせぬ人天の邪鬼
川柳に出合った余生まつしぐら

川柳塔の

川柳讃歌

®

上方芸能評論家 木津川 計

ビルが切り取る青空の淋しさよ

小河 柳 女

京阪神はそれぞれたずまいが異なる。京都は見回す都市だが神戸は見下ろす都市で大阪は見上げる都市だ。目線の高さの京都、坂の街の神戸、高いビル群の大阪という構図が三都を区別させる。高層都市は青空を切り取り、沈む夕陽を見えなくさせる。三都を五十音の五感にたとえるなら京都はひふへは、神戸はバビブボ、大阪はびぶべは、になる。大阪はどうしても濁点がつき、どきつい。柳女さん、せめて心に澄みきった青空を。

本棚に並ぶ夫の夢の跡

田 中 ゆみ子

人間だれしも若い頃は夢を見るのです。「東京の花売娘」を岡春夫が歌ってヒットしたのは昭和21年でした。「夢を見るよに花籠抱いて」彼女も夢を見ていたのでしょう。あすなろが明日はヒノキになろうと志すようにご主

人も夢多き若者だったのです。その夢は叶い、満足できる人生をゆみ子さんと共に歩まれたのです。「夏草やつわものどもが夢の跡」は空しいけれど、ゆみ子さん、ご主人の夢を一緒に実現できてよかったことです。

最近是新幹線に乗ってない

榎 本 日の出

爆笑王桂枝雀は飛行機が怖くて乗らなかつた。あんな重たいものが空を飛ぶのを理解できなかつたのだ。私は理解できるが墜落したに全滅が恐くて鹿児島へ行くのも博多まで新幹線、そこから九州本線に向かって。帰省以外の所用で新幹線に乗るのは現役なればこそで、リタイアすれば移動することもない。私は風景にさほど関心がなかつたし、多忙だったから旅行とも無縁だった。日の出さん、新幹線は現役に譲り、在来線でのんびり行こう。

どこよりもこの街が好き陽を拜む

尾 崎 一 子

昔の人は太陽や月に敬虔だった。人生幸朗の師匠だった漫談家の都家文雄が角座でこんな漫談をやっていたのを聴いた覚えがある。「わたしらは満月を見たらまんまんさん言うて手合わせて拝んだもんや。その月へアボロ口11号が行って、アメリカが旗立てよつた。そんなもんアホらしゅうて拝めまっか」。ア

アメリカの国力誇示への皮肉だった。私たちにとって太陽は恵みの源だったし月は憧れを育てた。一子さん、住んでる街こそ故郷です。

みかんを投げたのは愛してる証拠

太 田 扶美代

芥川龍之介の短編に「蜜柑」がある。乗った汽車に十三、四の小娘がはいってきた。油気のないひつめ髪、ひびだらけの両頬、垢じみた毛糸の襟巻……。トンネルを抜けると小娘は窓をあけ外を見た。踏切の棚の向こうには頬の赤い三人の男の子が並んで立ち、なにか喊声をあげていた。小娘は体を乗り出し懐から蜜柑を五つ六つ投げ与えた、恐らく奉公先に向かう小娘は見送りに来た「弟たちの労に報いたのである」。扶美代さんは幸せです。

一日を生涯として日々過す

山 本 加お里

風の吹くまま気の向くままさすらうのではない。明日は明日の風が吹かないのである。私の叔母は戦中、高知市で海軍指定のレストランの雇われママをしていた。時に数人の予科練が立ち上って叔母に告げた。「明日、出撃します。お世話になりました」とバツと敬礼して踵を返した。その都度叔母は泣いた。最後の外出の彼らは一日が生涯だった。加お里さん、短い一日、大切にお過ごしください。

自選集

小島蘭幸

書き初めとする遠い日の師の一句
ギャラーR師の句孫の絵わたしの句
手書き句集ゆらゆら遠い日の恋よ
家籠りして花粉症軽くする
憧れの白眉になるまでは生きる

西出楓楽

焦るなと神に賜わる物忘れ
時々はマスクの中で舌ペロリ
二キロ増えただけで重たい足と腰
プライドを捨てると老いが足早に
いとこ逢みな逝き綾部遠去かる

仁部四郎

ひもじさを昭和一桁保存する
にぎりめし昭和一桁にぎれます
日の丸に昭和一桁偶に泣く
皇室へ昭和一桁車間距離
万葉を昭和一桁読み直す

福士慕情

凍結注意 窓へ張り付くしばれ雪
飽きたとも言えず津軽の冬景色
雪解けが進むと川はよく喋る
居るだけでピーンと空気引き締まる
何事も無く暮れて行く平和な日

松本文子

大好きな花は造花だったのね
どんな時間を泳いでいるのお友達
心の庭に哀しみが降る雪が降る
皿割れる 思い出すなというように
心の氷 溶かしてくれた雪椿

三浦強一

一面に感染者数牙を剥く
AIを知らぬが彼は俺を知る
不要不急なのか子らから来ぬ便り
起承転から転がつてばかりいる
二人して半人前となる夫婦

三宅保州

財布ばかり溜まって金は貯まらない
死ぬ時も一緒だなんてご免です
靴底を減らしたかろう車椅子
パトカーの後ろに渋滞が続く
母の日も母はやっぱこまねずみ

村上玄也

スタートから迷走しだす新政権
裏方で政府牛耳る古狸

アメリカにやっと戻った民主主義

寒暖の差に戸惑っている身体

人間を怠惰にしようコロナ

森山盛桜

微睡んだままが幸せかもしれない

きつぱりと進路を変えた曲尺

日暮らしの中で感嘆符を探す

懐旧の念ソロバンの五つ玉

関節が外れた地球だらしない

視かれる

個室を出る 私の風も連れて出る

窓からは大山やはり窓の部屋

一人ずつドウゾヨロシクコンニチハ

みんな大人でのたりのたりと昼の海

大山見る大山に視かれる

山本希久子

暗闇さまよう八十路の脳回路

朝までぐっすりそんな夜はもう来ない

努力と運とほとと歩く峠道

もう一人の私じつくりと私見る

喝采もなく一日の幕を引く

板尾岳人

悪さしておこらなかつた冬の髭
おまけには戦艦大和付いていた

女って何んだらうと妻だった

押し出して勝つても負けた勇み足

恋人と秋になったら逢いましよう

居谷真理子

さて2月今日から白いマフラーで

売り場では狂ったように恵方巻き

しもやけができたことまで電話する

蠟梅は満開古い黒コート

佐保姫と並んでブランコを揺らす

川上大輪

えらいこっちゃマスク忘れただけなのに

かぞえ歌ひとつふたつと明日を積む

人生の所どころに秘密基地

わたくしの中に手強い敵がいる

そのうちに磁石も南向くだろう

北野哲男

好奇心老人力を刺激する

仕来たりがどんどん消えて老いを知る

大笑いした数が出ている顔の皺

少しづつ口が変換する噂

まだ望みあるのかみくじ吉と出る

木 本 朱 夏

ステイホーム陽水 森魚^{もりお}聴き飽きて
ステイホーム窓の向こうは春ですよ
銭湯が町のオアシスだったころ
大丈夫ですか日本の骨密度
ユニクロが似合う若さというものは

新 家 完 司

出し惜しみすると弱まるジャンプ力
春はまだですかと日本海に問う
ショートパンツの生足を見てハックシオン
誰からのエールか五円玉拾う
爺さんの埋蔵金が出てこない

高 瀬 霜 石

諦めて紙と鉛筆ウイズ・コロナ
10時10分男の眉はかくありたし
愛犬にまで吠えられるラ・リ・ル・レ・ロ
シニア万歳1100円の映画館
男いっぴき残り時間を考える

竹 治 ちかし

青春のゆっくり自転した地球
偏差値で切り刻まれていた世代
団塊の世代で三途まで競う
コロナ禍の中で人間試される
日常を重ね二人の五十年

津 守 柳 伸

家ごもりペットショップで癒される
大寒に新歌舞伎座へ誘われる
ささやきも禁止づくめのコンサート
蠟梅は去年どうりに咲きだした
再生のマスクは亡母の江戸小紋

麻生路郎語録（3月号より続く）

石川啄木も元は従来の短歌を作っていたのであるが、いつまでも、たらちねとか何んとかいう短歌を作るにあきたらなくて、苦悩の果が短歌の壁を突き破って「一握の砂」や「悲しき玩具」のような作品を生んだのである。

川柳界を見渡すと、創作上随分と悩んでいる作家が沢山いる。しかし川柳の壁を突き破るということはなかなか容易なことではない証拠は、突き破ろうという意欲のみ旺盛なために川柳でない方の壁を突き破っている作家すらいる現状である。

M君や七面山君の前方にある壁は決して壁らしい壁ではない。そんな壁は多くの作家の誰の前方にもある壁である。

そんな壁にヘキエキしてはならない。真の川柳の壁はその作家が一生を賭して突き破るべきものである。

（「川柳雑誌」NO・374より）

森の句集



『同人句集川柳塔』

小砂白汀

秋風の姿かたちを舞う尾花
 風るるるるると葦の葉にうたう
 積乱雲天をむくむく押しあげる
 棺おうて評価を受けるもの持たず
 プラトニッククラブから産まれた糸トシボ
 工場がむかし栄えていたボブラ
 ひたすらに河よ流るるほかはなし
 ガスボンベある日爆発したくなり
 天が地へおくった勲章シャンデリア
 風紋ヘドレミファソラシド風のうた
 美しいことだけ聴きますイヤリングダ
 どんぐりころころひとりで生きることに決め
 贖罪のごとく蝸牛地に這うえり
 シーソーの真ん中にいて孤立する
 陽の中の十七才よ黄水仙

(昭和49年7月7日 発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

笑っても目は笑わないガードマン
 受付でノーネクタイは待たされる
 ボス選び金は使わぬ猿の国
 寒中もコートはいらぬおえら方
 軍拡論 君が鉄砲かつぐのか
 二坪の書庫あり僕はリッチマン
 ビーナスはビーナス僕の妻は妻
 兵の墓ありし日のごと整列す
 英霊も階級のある墓地哀し
 夕刊のトップつまらぬ日の平和
 定年を待ってたように痛む膝
 進退は男の美学 辞表書く
 裏話しいて乱れた世を稼ぎ
 戦後はるか小さくなったキリン草
 吊り草に干し魚のごと満員車
 赤ランブ明滅してる世界地図
 歩行者天国やっぱり歩道あるく人



西 出 楓 楽 選

尾道市 小 畑 宣 之

ステイホームベルトの穴を緩めけり

愛犬の付けるランクのビリは僕

わがままと言えばトランプ大統領

悔いはなし強がりを言う我傘寿

傘寿過ぎ隠した場所をすぐ忘れ

将棋なら後手でも勝つがコロナには

吹田市 岩 口 のぞみ

宅飲みは終電なくてエンドレス

亡き父のレコード聞ける様になり

かすがいになるし喧嘩の種になる

愛娘懐痛し目は平気

ダンナからママと呼ばれてシカトする

待たすよりパジャマ姿でゴメンナサイ

境港市 藤 原 久 直

初夢は誰にも言わぬウフフフ

ちよっとしたゆとりをくれる年金日

一步引く心を持てば二重丸

日頃から心は広く開けて置く

人生の至る所に壁がある

子供から元気を貰う通学路

奈良市 尾 畑 なを江

さておいて人間とはと考える

強かに生きて目的忘れない

じつくりと味わった事ないカレー

この頃は爪を切るのもひと苦労

来し方を辿れば常に亡母がおり

注意していて油断する時もあり

大阪市 岡 田 恵 子

茶柱が立ったメールで御裾分け

マニキュアをピンクに変えて老いの恋

問診票幸せですと書いておく

気休めの言葉まとめて燃えるゴミ

落書きがバンクシーなら大歓迎

ツンとして歩く女の自己主張

大阪市 東 敏 郎

ハンドルの遊び人生にもゆとり
スマホ見る人の指見て目が回る
にごり酒一人重ねて喜寿祝う
おとつと命の水を受ける猪口
献血の後はお酒を補給する
万歩計歩幅縮めて距離稼ぐ

倉吉市 宮 田 風 露

大落暉怒りの心消していく
コロナコロナ毎日数字並べ鬱
腹八分残りの二分はスイーツに
春一番猫の恋う声乗せて来る
受け継いだDNAは汗っかき
貧乏神家に来るなと椅子隠す

仙台市 月 波 与 生

まず米と切手は切らさないでおく
自肅中会いたい人が増えました
おじさんは卒業してもおじいさん
わきまえて雨ニモマケズ生きてきた
退職日何処へゴールをしたのだろう
眠れない夜に中原中也読む

鳥取市 山 野 すみれ

昨日までルンルンでいた雪だるま
怒る口泣きじゃくる口笑う口
リセットをしながら笑い取り戻す

文句言う前にまんじゅう届けられ
国会のガラス張り有る筈も無く
眠れたらいいなトトロの森の中

神戸市 近 藤 勝 正

デイスタンス加え黙食味気ない
夫婦愛絆はとれぬデイスタンス
解除後にやりたいことが山とある
使わずに記念にしているアベマスク
テレワークパバが渋渋おさんどん
断捨離でへそくり隠す場所がない

浜松市 中 田 尚

先生も生徒の時があつたでしょ
流行を知る芥川賞直木賞
一言に尾鰭が好きな週刊誌
頂点に上がると敬語など忘れ
ウイルスをうつかり忘れ密になり
大臣も差別はしない夜の街

松山市 郷 田 み や

茶柱に嫉妬しているティーバッグ
触れまいと決めていたのに落ち椿
一緒には転ばないよう手を繋ぐ
待ち時間スマホ見るより文庫本
春ですなパンジー密になりました
きっかけを辿るあの日の停留所

佐賀県 真島 久美子

価値観の違いが発芽する夜更け
傲りだと指摘されたし流れ星
トモダチと内臓系の鍋つつく
地平線ベリーロールで越えてやる
陽だまりで勝者の顔をする無職

黒石市 石澤 はる子

テレビラジオ読書にも飽き籠る日々

通販の送料無料見過ごせぬ

百円バスいつもの顔が並んでる

凍結路弱い足腰おびやかす

昨日とは何かが違う老いの日々

白河市 鈴木 たけし

川幅の広さ知らずに跳ぶ蛙

ほんのりと余韻ヘルパーさん帰る

ふつくと優しく見える屋根の雪

剪定を待ちわびている雪の枝

日が暮れて帰る小さな反抗期

名古屋市 山本 三樹夫

母七回忌写真の顔が笑ってる

服の色若く見えます少しだけ

傍に居る妻の空気で生きている

国宝が無知に汚され泣く文化

助手席の妻のカーナビやかましい

岐阜県 喜多村 正儀

あなた色添えて伝えるありがとう
骨太の指がすべてを語る人
何かある見たこともない高笑い
篠笛も吹いて迷わす冬の風
コンビニが出来てふる里他人めき

静岡市 渡辺 芳子

一番良い月日送れる九十一歳

これからが命一番大事です

戦争前後コロナの中をまだ生きる

長年の友人送りまだ生きる

あの世の世話して欲しい出来ぬこと

大阪市 阪本 秀子

脱コロナかなえば何にとりかかる

ときどきは心も貝に似てとじる

たいていの事はやる気で片が付く

人間の背中にドラマ幾通り

父母の遺影に礼で第一歩

大阪市 柴本 ばつは

二人に一人これに当選癌のくじ

前後左右みな癌患者怖くなし

レシビにはのつてないのがかくし味

コロナ禍も快眠快食晴マーク

卒寿でもテイクアウトで鰻井だ

大阪市 森 廣子

直球でお願い事がやって来る
今年は余裕みくじ中吉だったから
さばさばと出来ず涙が溢れ出す
バランスの難し過ぎるアメとムチ
素顔のままで皆芸達者四季の花

池田市 上山 堅坊

年金も医療もしかと揺れるなよ
しつくりとボクに馴染んできたスマホ
襟糺すムード溢れる宮の森
上を向きちよつと背伸びをしています
禁酒だが人恋しくて酒の席

池田市 倉 本 一 弥

休日の雨に心が癒やされる
大正生れ母は休まず働いた
昭和生れ一人遊びは苦手です
松に菰お前もマスクされたんか
瘦せたいがお腹撫でつつ三膳目

泉大津市 助 川 和 美

新聞取らぬ活字離れの娘達
陽の暖み背中に受けて毛糸編む
コロナ禍に危機を感じる街歩く
もどりたい田舎じゃないよ日常に
玄関の杖が待つてゐる歩かねば

交野市 山 野 双 葉

ささやかな矜持他人を羨まず
万物が息を潜める夜明け前
会えぬまま睦月如月春遠く
疑いが確信になる夜半の雨
ムスカリの次々天へ背伸びする

門真市 坂 本 星 雨

人生の闇は無限に続かない
やっかいな癌やと医者とは他人事
余命半年まふまふと医者に騙される
2年経ち詐欺師のように生きている
人知れず苦悩を抱え皆生きている

堺市 古 川 光 雄

二波が過ぎゴーツーやりすぎ三波来る
スコアより歩くが大事老ゴルフ
冷凍の秋刀魚夕食秋淋し
お出掛けだ財布スマホに鍵マスク
昨夕のおかずの名前出て来ない

高槻市 鳥 居 宏

コロナ禍に賀状も少し湿りがち
強風の今日の散歩は五分間
後手ばかりコロナ成長するばかり
コロナなどなんじやいなあと寒椿
ラーメンかうどんか聞かれまたうどん

高槻市 三谷白黒

大阪府 高木道子

何もかももつたいないでゴミの山

守れない守らぬ人の言う事は

政治家の重さを計るコロナです

老若に分断作るコロナです

老人会リモート会議できません

豊中市 荒木郁子

住宅街春の装いブランター

巢籠もりで計画だけの夫婦旅

盆栽展小さな宇宙腕自慢

スノードロップ天使が雪を花に変え

ワクチンの承認先が見えてきた

豊中市 齋藤奈津子

喧嘩中急変笑顔電話口

暗い道送ってくれる丸い月

招き猫手を下げ仕舞う午後八時

湯けむりにばやけて皆な美人の湯

詳しくはホームページと言われても

大阪府 奥野健一郎

才能がないと解って背伸びせず

相方が売れてコンビに入るひび

まず辞退それが作法ののし袋

深入りもしないからこそ続く仲

言い勝ってみたがコップの中のこと

お日様が沈酔した様冬夕焼
マスク美人なんて高目とおでこ
雪の朝一人と二匹バイク跡
なにことも無かった様に解けた雪
コロナ禍に回転ずしも空回り

神戸市 櫻井崇史

冬枯れの庭の掃除は久しぶり

先延ばしどんどん用事増やしてる

コロナ禍にやる気出口が狭くなる

あれ誰やる帽子マスクで笑ってる

五年ぶり馴染みの景色様変わり

神戸市 みぎわはな

育毛剤あれやこれやと攻めて来る

コロナ禍の一つはテレビ中毒に

誌上句会朝昼晩と苦吟する

救急車呼ぶ時のため身綺麗に

ステイホーム家族三密子沢山

神戸市 米田利恵子

賑やかな女のマスク外れそう

パレンタインチョコ通販でお手軽に

ステイホーム希望は水仙の新芽

肩揉んであげたいけれどデイスタンス

梅二輪の便り人間取り戻す

明石市 瀬 島 流れ星

皺くちやの五十歩百歩を笑い合う

気にいらぬ財布論吉がすぐ家出

思い込みで読んでた文字の赤っ恥

全没へ無駄な時間と交通費

未練ある没句手直しプチ化粧

尼崎市 清 水 久美子

明日へのエール発して夕日落つ

コロナ禍で身に染みついたケセラセラ

いけ好かんマスクをしない男前

三密で無防備になる特売日

コロナ禍でムードメーカー鬱になる

伊丹市 延寿庵 野 鶴

コロナ禍へドビュッシー聴き刻忘れ

身の丈にあった暮らしが丁度よい

楽譜から春が飛び出す四分音符

結び目をゆるめ話の輪に溶ける

水色のワルツと跳ねる春の息

伊丹市 岡 村 風 琴

椅子の揺れにある心地好い想い出

あした色に染めている大落暉

胸に置くみつをのことばしかと書き

こぶし咲き足元弾むスニーカー

花鋏ずばつと過去を切つて捨て

三田市 中 山 昭 美

朝刊で頭に入れる先ず日付

落書きがアートになった絵の高値

悪友の結び目弛む自粛中

靴下の左右ない気楽さよ

日向ほこ猫も私も鉢花も

丹波篠山市 藤 井 美智子

人生の嵐おさまり八十路入り

ありえない言葉行動おえら方

言論の自由言葉の落し穴

歩くのも良し町並の変化見え

温暖な季節を思い耐えている

宝塚市 岸 田 万 彩

りゆうぐうの砂乙姫の息匂う

久々に見えない敵の怖さ知る

ワクチンが日本でできぬのが遺憾

遠慮するふりで裏道探してる

山茶花が退屈そうに咲く空き家

奈良市 東 さだお

コロナ禍に置いていかれる風物詩

ポイントに釣られて増えるニューカード

誰でもがコロナ罹患に見えてくる

能力を試したような新兵器

湯の香り濡れたタオルが持ち帰る

生駒市 饗庭風鈴

産道を抜けて一声地球の子
スキップの少女みるまにお婆さん
一億年かけて海底山となる
言いすぎたあとの祭りだ四股を踏む
この道を独り群れずに歩いてく

和歌山市 北原昭枝

草の芽が合図をしてる花暦
春日和古き佳き日を辿るみち
眠りから目覚めるように花開く
手に馴染む茶わんへふたり向かい合う
亀の歩で山坂越えて花野まで

和歌山市 定松宏枝

巣ごもりの鈍る体に鞭を打つ
黙々と食べて店出る二十分
金運の財布未だにべったんこ
気休めと百も承知で飲むサブリ
妻の声「今日はどこにも行かないの」

和歌山市 佐藤まき

テレビで叶う特別席で観梅を
耳鳴りの久しく馴れてサウンドに
耳鳴りも愛唱歌には鳴り潜め
籠る日々笑いは友の絵手紙で
身を賭して治療に当る人拝む

和歌山市 西川千鶴

寒満月遺恨をひとつ削ぎ落とす
二枚舌もつともらしく良く動く
足腰は軋むが口は達者です
手を下げて自粛中です招き猫
道ならぬ恋は見ぬふり冬の月

和歌山市 まつもと もとこ

PCR検査陰性ありがたし
ここまでが濃厚接触見えぬ線
ワクチンを共に打とうと老いた母
重い腰よりも重たい心の根
「盛りこぼし」笑顔も升にあふれだす

和歌山市 三枝真智子

ウイルスに負けない花に励まされ
工夫して子供と遊ぶステイホーム
我慢する人としなない人居て治まらず
何事もプラス思考で乗り越える
思い切り笑った後の空さっ腹

鳥取市 上山一平

山笑う白線ひかる通学路
寒空にぱつと紅梅あたたかい
朝市のばあばにこにこ売り上手
大物食い小兵の翔猿変化技
燦々と大砂丘にも紫外線

倉吉市 伊藤嘉昭

注射にてコロナ騒ぎが去れば良し
コロナづけ恋しくなるよ縄のれん
おもてなし客の心で品を売る
淋しいなハリキリママも店じまい
「頑張つて」何をがんばれば八十爺に

倉吉市 大羽雄大

結び目を解く手の焦りプレゼント
百均を包んでちよつと気が引ける
節分のコロナを的に鬼は外
井戸端の町内走る足速い
散歩道マスクの中でごあいさつ

倉吉市 若松由紀子

内視鏡愚痴や不満も写るかな
足向けて寝られぬ人は数知れず
子に見せた父の背中が小さくなり
待ちぼうけ自分が日にち間違えた
足元氣三年後には徘徊か

境港市 中井虎尾

白梅と風花遊ぶ白と白
雪の日も春のにおいのする二月
日本一めざし十二のキャンブイン
口すべりオリンピックの夢は消え
クーデター影にチャイナの影チラリ

鳥取県 田中重忠

忘れてはならぬ八月十五日
体力年齢若いと誉められた
九十四歳五臓六腑はまだ無傷
武勇伝いまだに語る力瘤
節分の福豆頭上とび去った

松江市 中筋弘充

まだ傘寿大きな声で返事する
ポイントが十倍要らぬ物も買い
良心がついた嘘なら許そうか
島津亜矢の温もり記憶して右手
あれ以来ゴシゴシ洗わない右手

松江市 山根邦代

手芸の手やさしい日差し進む針
一人でも自炊の出来るありがたさ
キュンと来る事もないけど日々楽し
オシャレする年ではないがでもしたい
ニワトリに罪はないのにむごいこと

雲南市 永見安子

やさしさはマスクしてても目でわかる
オベの日が近づく次第に気が重い
手術後は家族も逢えぬ辛い日日
入院の窓の外にはぼたん雪
入院の窓にも春の陽の光

安来市 原 徳利

十七音字心に皺を寄せぬ趣味

異常のないことが異常と医者言う

呑み干して北極星を見失う

欠伸しているうちにもう如月だ

にこにことハ行で春がやってくる

広島市 田 桑 恵子

そう言えば補充してない化粧品

雑談が妙薬となるコロナ鬱

筆止まるこらでコーヒーチョコひとつ

仏壇に座ると白くなる心

ブルドーザー暮らした証壊してく

広島市 松 尾 信彦

薬には頼らぬ誓い一万歩

まあいいかそんな言葉で赦す友

返納で父の酒にも和む母

句が浮かぶメモするまでのリフレイン

探しものの起きて寝るまでドキュメント

尾道市 小 川 道子

世界中こぞって今が正念場

消しゴムで消せない過去が浮きあがる

風花が舞う幻のように舞う

慎重に空気を読んで仲間入り

しなやかに頑張り過ぎず怠らず

竹原市 若 年 幸子

居座ったコロナの乱へ豆を撒く

孫育ち密にはならぬ台所

コロナ前賑やかだったカレンダー

手料理をチルドで送る母心

春日射しコロナ忘れる草むしり

三次市 伊 藤 寿子

から元気出しても沸いてくる涙

結局は自分と戦い病とは

割り切らんと今に誰にも嫌われる

ギックリ腰の夫いたわりようもなく

歩くのはもう1歳の方が上

府中市 岸 田 武

美しいと思う老いの二人連れ

ささやかな倅せ温かくして眠る

ぎこちなくやってみましたグータッチ

謝罪するドンは怒ったような顔

中立の方程式はするだろう

阿南市 小 畑 定弘

ふるさとの土に還れぬ訳がある

古稀からの人生意外と面白い

くちびるを結んで冬をやり過す

日記にはその日その日の一行詩

つくづくと鰥夫とおもう冬の底

竹原市 土井 輝恵

釣合いは取れて長年夫婦です

奨学金返済婆の財布から

何でも良いそんな返事が返る昼
果籠りも続くと惚けが加速する

広島県 常 國 喜 好

だんだんと言葉が細る四季のくに
ぼつくりを願ひ朝夕飲むサブリ
好きなものだけを見ている私の目
目力が際立ってくるマスク越し

松山市 大 内 せつ子

窓に来るさみしい顔を連れて猫
さみしがり屋の席に落ちてた意地ひとつ
だとしてもなんてシナリオありません
スクランブルエッグはきつと無の境地

大洲市 花 岡 順子

幸せをキープしておく二人きり

コロナまでマスクは白と信じてた

先生におつける白い答案紙

もう種は蒔いたひっそり冬を越す

高知市 三 谷 松太郎

年男晴ればれ歩くほどじゃなし
豆撒けとかなかなか逃げぬ居候
テレビ観て本見て昼寝飯ふたり
深更にひねった三句字余りだ

福岡県 本 田 さくら

東北は雪とコロナで二重苦に
主のない庭に山茶花咲き乱れ
姉妹誓ったあなた黙って遠い星
雪しんしん かすかな音は雪女

唐津市 岩 崎 實

髪の色染めあげたらと口にせず
きしみ出る関節の音骨の声
ポータブル介護の娘気を配り
親指を互いに立てて最高と

唐津市 前 田 廣 幸

先生も読めぬ令和の子どもの名
大惨事世界大戦コロナ戦
正解の無い世の中で生きている
商いが黙って食わず恵方巻き

宮崎県 黒 木 栄子

終章のラッパまだまだ母長寿
目立つのはにがて野原の花で良い
逢いたくも逢えぬホームの母を恋う
枯れ葉舞うドラマチツクな散歩道

沖縄県 禰 モモト

無症状知らずコロナを連れ歩き
道端のすみれ鉢植えでかわゆい
年重ね世代の相槌追っかけて
美味柿の鳥取生れ旅が好き

沖縄県 宮 すみれ

南国の弾く民謡心解く

かあちゃんは皆に愛され星となる

合格のショートメールに○印

若者の中止中止のああ吐息

黒石市 北山 まみどり

お返事を急かし続けて雪だるま

愛きようを振りまく粉雪のポスト

雪かきの一心不乱やがて春

過ぎ去った車が置いていく音量

五所川原市 むらの ひとり

雑草は風の形に逆らえず

内臓をひりだす程に身を晒す

低姿勢肉食獣のスタンバイ

蜜月の椿にメジロちいばつば

宇都宮市 廣瀬 良磨

ストレスが発散できぬテレワーク

ぶらぶらと春を感じる足の裏

北風に満月背負いペダルふむ

若返るアップデートが無いものか

富士見市 中島 通則

人心も蝕んでいる新コロナ

お出掛けは服に合わせてマスク替え

飼い犬を連れて見に行くドッグショー

願掛けに花切手貼り投句する

東京都 高岡 弥生

職場での人に恵まれ日々感謝

桜咲き出会いと別れ一度にね

子の運転安全祈るテールランプ

他人には自分の普通違うかも

横浜市 巖田 かず枝

毎食をパンでも平気非国民

花粉症杉や檜は嫌われて

本物の麒麟に平和期待する

リモートの授業は孫を太らせる

横浜市 加藤 佳子

肝試ししてみようかな駅ピアノ

疫病に負けじと朝の散歩する

会食を避けて程良いお付合い

巣ごもりの自分時間も悪くなし

横浜市 長島 亜希子

「国民のため」と今更何を言う

センセイ方初心忘れていませんか

意見交換 飲食なしじゃ出来ないの

参拝は毎日賽銭はたまに

石川県 堀本 のりひろ

サラリーマン忍一筋の独りぼち

にこにこ気まぐれ妻についていく

八十路来る妻のやきもち疎ましや

血の絆みんな巣立って二人きり

名古屋市 富田末男

願望の求め意欲を活かしたい
学びたい人の本音は価値がある

良い方へ導く母に愛がある
迫力を教えてくれた大自然

江南市 脇田雅美

八十代越えると甘い物好む
生き物は生まれ何時かは死んでいく

マスクかけ素っぴん隠しお買い物
まがりくどい話続くと嫌気する

豊橋市 西郷紀美代

祝日もお目にかかれぬ日章旗
年賀状やめたら安否わからぬ
思うこと言葉は違うことをいう
心まで岩盤浴が凝りほぐす

八幡市 武田悦寛

ごちゃごちゃをうまく収める濃い緑茶
陸橋でふと魚釣りをしたくなる
憂さ晴らしチャンバラ映画つまみ食い
おいしいカラス睨みきかせるゴミ出し日

京都府 北野クニオ

方言を聞いて古里恋しがる
ツルツルの手を見りゃ暮し見えてくる
第三波来ての巣ごもり慣れたもの
梅一輪眺めて春を心待ち

大阪市 今村和男

付箋ばらりお前どこから落ちてきた
手袋で耳を掻いたら粉だらけ
全員の賛同を得て孤立する
かくれんぼ隠れていたらひとりぼち

大阪市 尾崎文子

デジタル化叱られながら教えられ
農地整備春の小川は死にました
雑巾にお金を払う気が知れぬ
めっちゃ損太って服が着られない

大阪市 近藤風羅

いい人と言われ続けて味気なし
待ち人の来ぬまま閉じる文庫本
取り扱い注意の子だが嫁に出す
言い足りぬこともあるうがまあ一献

大阪市 樋口眞

後援で興じる子らに癒される
春先にただのんびりと鴨百羽
コロナ禍に法事の施主は気が重い
空襲で卒業式はなかったよ

大阪市 降幡弘美

捺印のようにひたすら押すいいね
ナビ通り来たはずなのにここはどこ
制服にまだ着られてる一年生
フワちゃんを側におきたいほど孤独

大阪市 中村峰子

ルーティーンどんどん増えて忙しい
一歩ずつ春に向かつてのっしのし
気にしないどんどん増えるもの忘れ
おしゃべりなテレビを消すとひとりぼち

大阪市 前川善之

コロナ禍でローン不払い追い出され
冬未だ春ちらちらと顔を見せ
上手な字人格までが慕われる
素質有る努力無しでは花咲かぬ

大阪市 松田 總

菅さんの声に覇気なく目は虚ろ
コロナ禍と誤解されそう花粉症
悩みます換気をすれば花粉来る
行き掛り上オリンピックは止められず

大阪市 宮本千恵子

最後まで森会長は恨み節
ウクレレの音が尖る心を和らげる
年重ねてもやはりめでたい誕生日
日々五千歩でベタほめをするアプリです

泉佐野市 檜葉良子

満月の優しい顔に癒やされる
喧嘩して投げた言葉に眠られず
夢の中亡母は今でもお母ちゃん
色褪せた写真に夢が写ってる

河内長野市 穂口正子

冗談かと思えど現コロナ潰け
コロナ禍で元氣老人やるせない
単純な夫も昔は偉く見え
ご機嫌よう春はあなたと通り抜け

堺市 楠井輝子

冬の朝胃の痛むコロナのニュース
たればとだけとは言わず古希の婆
ポジティブに免疫アップコロナ勝つ
気がつけば上手に妻に洗脳を

堺市 羽田野洋介

いつの間にか自分のタオル雑巾に
朝昼晩きちんと食べて酒も飲む
気味悪い雨戸をゆるする夜の風
思考力の壁と争う五七五

吹田市 西沢司郎

団欒に黙食せよという非情
ポイントが付くと惑わす悪魔の手
変異型ファクションショーじやあるまいに
鍋底の大根突ついて生ビール

豊中市 貝塚正子

窓掃除まぶしすぎるよ青い空
人混みを言い訳にして手をつなぐ
良い匂い残し焼芋通りすぎ
ほめられて何かあるなと身がまえる

豊中市 小松くみ子

くしゃみには悪意ないけど距離を置く

不織布へ布マスク重ねたオシヤレ

返上か新車にするか迷う喜寿

絡んだり繕れたりもして赤い糸

寝屋川市 岡本 勲

ほめ上手いつもその気にさせられる

古い二人ボヤキで暮れるお正月

今日もまた元氣で行ける医者めぐり

何もかも卒業をした顔がコレ

寝屋川市 川本信子

来ぬ賀状斜線は引かぬ住所録

ワクチンに合掌先が見えてきた

外は雨今日一日はテレビの日

絶対に諦めぬこと四季は来る

寝屋川市 坂本ミヨノ

新靴を並べ楽しみ履くは古

別れた人こちらへ来ますすぐかくれ

誕生日ごちそう前で待たされる

話し声聞こえて入っておしゃべり

寝屋川市 廣田和織

コロナ禍に呼吸乱れていく五輪

ひも解けば過去が色づく古日記

心地よい公園の子のはしゃぐ声

機関車が貫く里の雪景色

羽曳野市 黒木ひとみ

恵方巻き具材合わせを楽しんで

柗の鰯の頭猫ねらう

大寒の日和穏やか心浮く

早朝に気合いを込めて寒稽古

東大阪市 秀 爷

古希前にやっと見つけた学ぶもの

間の抜けた緊急事態いつまでか

無観客そんな五輪に何の意味

おしゃれして少し老化を食い止める

八尾市 田邊浩三

初詣出来ずテレビに手を合わす

目の前で熱を測ってキスをする

孫からはじめて年玉手につかぬ

仔を売られ一夜哭いてる牛の声

大阪府 大浦福子

吉報を信じていたに来た計報

見送りさえさせぬコロナの深い傷

花の下きつと逢おうと言ったのに

冬の夕友の別れが淡い虹

大阪府 中内孚彦

銃前で暴れるデモの勝算は

辞任まで追い込むメディアも貧し

デモ見てる側本当に安全か

大学に一日も行かず二年生

神戸市 青木公輔

巻舌の割には瞳やさしすぎ
読んでは戻す本に良からぬ葉など
梅の香が匂う花名刺は謎で
途中下車そこから長い物語

神戸市 青山ひろし

夏雲が恋しい霜の床ばなれ
家のみの酒はさてはの水くささ
お似合いの言葉無いうち店を出る
安受けはしないぞ胸にあるしこり

神戸市 石川克美

いち早く花ニラの青今朝の庭
おさんぽで春のめざめを捜します
虫菌などぜんぜんないのよ総入れ菌
胸裂けるトリインフルと豚コレラ

神戸市 輿水弘

少しずつペールを被り呆けがきた
いい言葉裏はないかと探る癖
満期きた葬儀代にと妻しまう
微笑みに合わすとみんな優しい目

神戸市 田本古鈴

春が来たそれがどうした日々コロナ
宝くじ買っていないから当たらない
梅が咲くコロナの春も忘れずに
ホラーより現実こそが恐ろしい

神戸市 山根弘華

ゴールまであと一足がとどかぬ日
コロナより人の噂に惑わされ
弱虫がマスクのかけで自己主張
今月も未定のままのカレンダー

芦屋市 新阜義明

コロナ禍でサラバ東京田舎へと
食材はまず100均に寄ってから
寿命へと加算減算どちらです
怒っても厳しさと褒めやジロベエ

尼崎市 山田厚江

ユツサユツサパンチの効いたすごい猫
褒めるトコ無いのでジッと黙ってる
ピリリツとパンチの効いたいい男
出直し選挙やっぱり顔でまた選ぶ

伊丹市 平井富夫

予報士は暑さ寒さもテレビ局
議員さん役職辞任茶を濁す
信用は現金ですな何事も
咳一つみんなきつい目振り返る

小野市 田中辰夫

うどんでは出来ぬ年越し除夜の鐘
コロナ禍でさい銭増やす初詣で
三が日おせちに飽いてカッブメン
なよなよと妻に言い訳二日酔い

丹波篠山市 澤 良子

電車の中マスクの紐をきつくする
密を避け一人バイクを許す妻

我がままでぐずった孫も早や受験
我がままと気付かず暮らす得な人

丹波篠山市 横溝 安子

枯草をかぶり芽を出すふきのとう

ナツメロは子供の頃の戦争歌

雪の中日ざしは春の香りする

新コロナネットスーパー大はやり

三田市 生田 えい子

晩酌の蕎麦がサブリです

年の暮無料通話で長ながと

赤ちようちん横目で通る自肅中

痒い背にタマを呼ぶほど手がほしい

三田市 稲角 優子

風向きが変る今だよ帆をあげろ

節分に両手に余る福の数

神聖なしばしの心絵本よむ

ノックかなあなたはきつと春でしよう

三田市 木村 マユミ

物よりも心の時代に気づかされ

老犬の散歩のリズムついてゆく

リモートでゴーストタウン時変わる

散歩道エデンの園に足が向く

三田市 住吉 美和子

大型のトラック野郎は美人女子
膝腰目いろいろ不調なおとし頃

紅梅が香るうれしい散歩道
土の中芽吹き準備できてます

三田市 辻 開子

コロナ禍の三食作りうつ予防

コロナ禍で自肅自肅の整理ぐせ

コロナ禍もポチ袋入れ待ってみる

丑年はゆっくり地に足マイペース

三田市 幸田 厚子

恵方巻西日も空し独居老

南北で絶品揃う兵庫県

アルバムのセピアの母は超美人

工場の閉鎖の詫び状風が裂く

三田市 東内 美智子

自分のこと頼らず出来る頑張るぞ

独り言亡夫に話し朝の花

高知の次男コロナで新年もパス

長男別居でも三田に居る

三田市 森 玲子

寒いから猫に湯タンポ入れてやる

庭の蠟梅春の香りをつれてくる

寒さと自肅今日も夫はテレビ漬け

年金暮し夫長生きしてほしい

宝塚市 太田 としお

お金では買えないものがたとある

墓じまいどこに行きますか

何もかも無料らしいわあの世では

今日生きただけで明日は分からない

西宮市 高瀬 照枝

御無沙汰の絵や句が映える和紙はがき

陽が当る和室の机が浮かぶ

歯車の合わない会話届かない

冬の雨温い寝床で春思う

西宮市 高橋 千賀子

マスクでもほのかに匂う梅の花

一個買う自分の為のチョコレート

コロナ禍を耐えればやと春がくる

無責任な言葉を放つ他人事

三木市 山口 ヨシエ

残照にそつとハミング今日の無事

春の陽を浴びてゐるん歩数計

水仙の香りうれしい朝の庭

母さんの声聞きたくて灯を点す

奈良市 仲西 賛郎

寝たきり老人生きることとはなんだろう

老いの身はあちこち痛む気にしない

散歩して歩けることに感謝する

妻の小言馬耳東風で聞いている

生駒市 児玉 規雄

森さんの失言世界駆けめぐる

男尊女卑根底にある差別観

夢に見る青空飾る五色の輪

光秀の後掛けて来る栄一さん

奈良県 室田 行久

多数派の過ち正す少数派

ワクチンにすぎるしかない体たらく

一発屋二つ目なくてタダの人

師の手本完璧すぎて怖じ気づく

和歌山市 倉橋 悦子

普通なら出歩く春の引きこもり

あれも駄目これも駄目なら大掃除

お洒落して百円バスで図書館へ

来し方を語れば長い走馬灯

和歌山市 鍋嶋 澄子

木造の校舎にとけて児にかえる

雑巾がけ並んで用意よつんばい

まっすぐに生きる世間は雨あらし

温暖地しばし雪舞い魅せてくれ

和歌山市 福島 一雄

マスクした女性は全て美しい

妻半分バレンタインのチョコ食べる

節分の豆多すぎて庭にまく

まだ若い言われる時期は瞬く間

岩出市 村中悦男

大マスク人違いする顔と会い
ワクチンの不安消えない持病持ち
料理法教えて野菜さしあげる
朝とれの野菜メニューの老い二人

和歌山県 森下よりこ

口呼吸しているらしい睡眠時
コタツでみかん平凡だけど今日も無事
自粛続きで予算が少し浮いてくる
焚火してお芋三つは食べ過ぎる

鳥取市 大前安子

寂しさは風のようなね自粛部屋
指の櫛寝ぐせ気にする雪の朝
腹の内どうあれ自粛しています
忘れるな遣る気の火種ふいと起き

倉吉市 堀かずこ

星のようにピカピカ光る一年生
庭先で愛を込めての花造り
年寄りと言われたくない見栄を張る
大雪もコロナも怖い不安です

米子市 川本美津子

私にも旬の時代があった筈
老化とはこんな事かと日々思う
春らしく花柄模様のマスク買う
古希も過ぎ体の修理始まった

米子市 妹能令位子

干大根好きだったねと作ってる
逝く旅のシミュレーションを重ねてる
夕べの句朝日を浴びて色褪せる
まだスマホ持たず絶滅危惧種の子

鳥取県 飯野菖子

健康がチャンスをくれる晴れの空
賑やかに鍋が家族の和を作る
歙の音胸のうやむや逃げていた
咳き込むとコロナと不安熱計る

鳥取県 下田茂登子

気の乱れ句作り出来ぬことばかり
朝一番コロナばかりで気が失せる
老人も集うとコロナ聞きあきた
もう少し楽しいニュース出て来んか

鳥取県 橋谷静江

日々暮す予定にはない事おこる
目と目合い心つながる気持ちする
三密をさけて出る場所かざられる
家族皆自分ルールで動く今

鳥取県 本庄汪

このワイン開けるのはパパ飲むはママ
まかせとけ猫の額の庭掃除
上げ底のお土産を買う小旅行
人の手を借りはしたけど解けた幾何

(相見柳歩さん、黒目ひでおさん、宮宅比佐恵さん、高橋由紀女さん、岡本余光さんは38頁にあります)

西尾葉句集『水鶏笛』くいなぶえ

公園のここらを通る獵奇癖

銀行の昼 合札の落ちた音

倉の鍵旧家という音で開き

表具負けになると表具師思えども

叱らん先に出前のすんまへんすんまへん

案内はここで笑わすせりふあり

お向いと話してお隣りに妬かれ

御近所が舌打ちをする家が建ち

水煙あげて神輿は洗うもの

札束を肌の温みのままで出し

首洗池蛙観海流で逃げ

海布めえを煮く荷風は暗い台所

目印の神社を斜に拝んで来

行幸のさてもさてもの変りよう

皇太子さんでもとトントン拍子なり

閑静な貸し間窓から墓がみえ

昭和三十七年十二月五日工場全焼

焼け跡で星を見上げている広さ

スタミナがどうのこうのと普茶料理

スぺアーというのは二号のことなりき

せせこましいとこで旨めいもの食わし

琥珀色の湯呑の主は生字引

まばたきもせず埴輪の笑みつづけ

敬老敬老とタクシーへ押しこまれ

しんみりとさせて持味ある高座

ポスターはここから撮った朱の華表

カメラアイ蜻蛉の目玉蝶の髭

天ぶら屋この腕という長い箸

知らん顔してるのに肩たたかれる

スラスラと特許番号香具師は言い

送られるよりましやと数珠を渡される

ラッシュ嬉しまさに唇ふれんとす

茶と苺苺とお茶で萎びてる

成ヒヨコがちりよってくる気の悪さ

問題を残して去った二階借り

靴べらは手品のように仕舞われる

英語 de Senryu ⑪②

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

本堂で 和尚 和尚の声になり

*in the main temple
a Buddhist priest
changes his voice*

鶏を追へば 踏切越して逃げ

*a hen escapes
she runs and runs
over the railroad crossing*

main temple 本堂 *Buddhist priest* 仏教の僧侶 *change* 変わる *voice* 声 *hen* 鶏(雌鶏)
run 走る *run and run* (andを入れて動詞を重ねる→動作の強調) *over* 越えて *railroad crossing* 踏切

～リバーウィローのため息～世界の詩歌⑫：永山空郎の詩歌活動①

岡山県倉敷市在住の永山空郎先生に初めてお目にかかったのは、英詩研究・創作、また英詩朗読の会である日本英詩協会でした。朗読部門が東京英詩朗読会として独立の活動をはじめ、わたしはそこに1998年より参加しました。会場への往復行路で、先生から終戦時の刺激的なお仕事などを伺いました。なかでも新宿から京王線に乗って仙川で降りるはずになっていた電車では、沖縄で日本兵によって狙撃され死亡した従軍記者アニー・パイルにちなんで、GHQが「東京宝塚劇場」を「アニー・パイル劇場」と呼ばせたことなどをお聞きしている間に、電車は仙川をはるかに通り越していたこともありました。先生のGI仕込みの英語は、ほればれするほど軽快で、何度聞いても心が弾みました。最近、日本の古典の英訳に動しまれています。「平家物語冒頭」を紹介します。声に出して読むと素敵です。

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらわす 驕れる人も久しからず 唯春の夜の夢のごとし 猛き者も遂には亡びぬ 偏に風の前の塵に同じ

The bells of Gion Temple toll/the vanity and mutability of all. /The sala-tree blossoms betray/that prosperity is destined to decay./Arrogance dies before a fall, / it's but an empty spring night's dream./ Bravery is doomed to naught in the end, / just like dust before the wind. /

誹風柳多留一二三篇研究 8

高野 範雄・山田 昭夫

小栗 清吾・細井 龍夫

伊吹 和男

清 博美

59 つばやどんまじないますと手をつける

高野「壺屋」は、①日本橋葺屋町にあった、泡雪豆腐で有名な店。②博奕打ちの異称（『川柳大辞典』）。

句意としては①他者が壺屋どんへ、(用)壺屋どん自身の様子①賽の目がこんなに外れるのは、おかしいと客が呪いしますと言ひ訳をし坪を確認した。②坪振りが、「揃いましたか」等と呪いのように言つて、伏せた坪を開けようとしている様子。②とします。

百斗り何んのことだとつばやい、

明五松5

清 坪振りを「つばやどん」と呼んだか？ 不明の句。

60 舛あらためを見て御用かけて来る

高野「升改め」は、不正枡の使用を取り締まるため、枡座の係員によって行われる枡の検査。また、その人（『日本国語大辞典』）。

御用聞きの丁稚が升改めの役人を見かけ、急いで駆けてきて主家へ注進する。升改めの役人を見たら知らせるように言い聞かされているのであらう。

油屋で舛改メは供をよひ
清 賛。日頃インチキをしているらしい。明元礼4

61 後生へハけつを向けてる遣り手ば、

高野「後生」は、現世における行いの善悪は、

来世にその報いを受けるとの思想から、「後生が良い、悪い」という。来世に業をする、または、苦しい目に会う（『江戸語大辞典』）。句意は、年をとると信心「ころ」が出て来るものだが、遣手婆は別で極楽浄土には背を向け現世物欲に浸っている。それでなくては遣手は勤まらぬ。

後生気ハ遣り手ば、アの末枯也 六九三

山田 賛。後生なんて知ったことか。

細井 地獄行き確実だから……。

清 賛。

62 けふも来て居ると向ふのかゝあやき

高野 雨譚注「かこひ」。

囲い宅へ坊主が来ているのを、向かいの嬬が見つけて、「今日もまた来ているよ」と言っている。女としては気になるのであらう。

小栗 賛。雨譚先生がそうおっしゃるならそうだろうが、囲われの所へ坊主が来ているのを、なぜ「妬く」のかわからぬ。私は間男と思っていた。

細井 賛。「妬く」のではなく、「御節介」なのです。要らぬお世話。

伊吹 賛。間男の方が「妬く」のに合うように思います。

清 間男か。なお、細井さん、「妬く」に「御節介」の意があるよし、出典を教えて下さい。

63 一大事花嫁どうか屁が出そう

高野 花嫁が放屁を恥じて自害した伝説がある。それを詠んだ句。この花嫁も自害するのであろうか。

姫の屁ハ踵の上へののたれ死 一六二

山田 賛。自害するかどうかは別として、花嫁の一大事とするとどんな場面か。原句の「拾二二九」の論議では「婚礼の場」とされている。「花嫁」ですから妥当ではないか。

小栗 賛。「花嫁」は、類句を見る限り、婚礼の場に限定せず結婚して日の浅い嫁の意に用いられることがある。婚礼と限定せず「嫁と屁」の類句多数の一でいいのではないかと伊吹 賛。恥じらいの多い花嫁がいたかっただけだと思う。

清 賛。なれど婚礼の席とすれば、絶体絶命の場面が設定出来て面白さは倍加する。なお、「どんなに美人でもオナラは出るものです」とお医者さんが言っていました。

64 たはこやの女房ハ血とめ程まける

山田 煙草屋の女房が煙草を売る時「血止め程」の量をお負けたというのだ。煙草には血止めの効用があり、ちよとした傷の応急処置に用いられるが、使用する量はほんの僅かである。しかし気は心と云うから、その効果の程はかなり大きかったのではないか。

五匁の内へ血とめをまけてやり 安八松2
煙草屋の女房は、遊女上がりとか妾などが結構多かったようだから、愛想のよい美人だったらしら、大変なものだったろう。

女房の出す五匁ハ評かつき 宝12智3

煙草は秤売りで、普通五匁単位で売っていた。

清 賛。

65 せしゆが聞イてるにいこうの行クまいの

山田 江戸の千住には焼き場があり、その上山谷にかけては寺が多かった。そこで葬式に参列した連中が、近くの吉原へ大一座で登楼するという不屈きな場面がしばしば見られた。極言すれば、

ごくらくへミな行クといふ寺くずれ

安八義3

よし原へ廻らぬものハ施主斗 拾三13
それにしても、「施主が聞いているのに（吉

原へ）行こうの行くまいの」とは、幾ら何でも酷いというのだろう。しかしその施主にしても、他家の葬式の時には同様なことになるのだから、心中複雑なものがあろう。相談をしい／＼こしの跡を行 八37

清 賛。

66 鬼王のとら御ぜんのと分に過

山田 仇討ちで有名な曾我兄弟は、貧乏でも有名だった。

その曾我兄弟には鬼王、団三郎、新左衛門などの名たる家臣が居り、また、兄十郎祐成には大磯の虎御前、また第五郎時致には化粧坂の少将という愛人が居た。

おに王ハ権の実見てもなミたくミ

明元松2

兄弟ハさがみ女にくらい込

三14

主題句は、赤貧のくせに、「鬼王の虎御前のと（は）分に過ぎ」というのだが、貧しても鈍せず、まさに武士としての嗜みでないか。兄弟には、それだけの貫禄が備わっていたのであろう。

小栗 賛。「鬼」だの「虎」だのというのがすごいというのだろう。

清 賛。

愛染帖

新家 完司 選

(投句276名)

満場の一致で決める独裁者
豊中市 水野 黒兎

(評) 各地の代表者を何千人も集めた会場で採決。一人の反対もなく全員の拍手で決定。「見せかけだけの公明正大」が恐ろしい。

もう俺は解けたと知恵の輪をもちょう
大阪市 板尾 奏子

(評) 知恵の輪が面白いのは解けるまで。亭主がギブアップしたものならファイトが湧くが、解いてしまったものを貰ってめね。

お茶漬に急須の口での字描く
三田市 北野 哲男

(評) 何事に対しても働く好奇心と行動力。「いただきます」という感謝と「おいしくなれ」という想いを込めた「のの字」か？

夫の骨ダイヤにすると言ってます
岡山市 大石 洋子

(評) 遺骨の炭素によって色が変わるという合成ダイヤモンド。亡くなっても身につけてくれるとはご主人も嬉しい？ ことだろう。

牧方市 谷 英也

病歴は悲憤とい書いておく

(評) 手術も入院もしたことはないが、好きな人が来て「ご飯も喉を通らない」ほど思い悩んだことがある。立派な病歴である。

ダイエツト励んだ頃をなつかしむ
鳥取市 岸本 孝子

(評) 僅か一キロの増減でキヤーキヤー言っていたあの頃。今では達観と諦めで「健康でさえあれば少々太っても」という境地。

心配は母の職業病と知る
福井市 伊藤 良一

(評) 母という立場を「職業」と言えば失礼ではあるが、子どものことを心配するのは何処の国の母も同じ。有り難いことである。

諦めぬ方へと弾む楯円球
高槻市 原 洋志

(評) 何処へ転がるか予測のつかないラグビーボール。「諦めない想いが強い方へ来る」のだという。何事においても同じだろう。

二日酔いするほど飲めぬ養命酒
仙台市 月波 与生

(評) 14種類もの生薬が溶け込んでいるという養命酒。もし、調子に乗って一本空けてしまったら、翌朝は七転八倒まちがいなし。

夫逝き私のそばにいつもいる
大阪市 山本加お里

(評) 最愛の夫に先立たれてしまったが、い

つも側にいて見守ってくれている。寂しければ悲しむだろう。心強く生きて行こう。

堺市 矢倉 五月
月がきれいと言験の孫にラインする

横濱市 川島 良子
飛んだ跳ねたLINE打つ手のひと苦勞

神戸市 みぎわはな
スマホ当てただけで支払い済んだだと

河内長野市 坂野 澄子
面倒でも私キヤッシュ派アナログ派

美作市 岡本 余光
ガタついた記憶装置をまだ使う

松江市 石橋 芳山
粹がったところでボンコツのボルシェ

大阪市 谷口 義
ちよろちよろと時どき知恵も湧いてくる

箕面市 広島 巴子
老夫婦ボケとツツコミずれてきた

大阪市 大川 桃花
おばあちゃんになると小銭をよく落とす

大山市 金子美千代
強烈に不安煽ってくるサブプリ

岡山市 丹下 凱夫
イチニツとパンツはければ大丈夫

生駒市 飛水ふりこ
息切れを寒牡丹から労わられ

米子市 竹村紀の治
親類がみんな喜ぶ免許返納

鳥取市 田賀八千代

外れない指輪やつぱり腐れ縁
堺市 村上 玄也

お互いの死後案じ合う老夫婦
三田市 上田ひとみ

八朔を剥くのは夫家訓です
大阪市 岩崎 公誠

目玉焼き毎朝作り技能工
大阪市 横山 里子

ラストラブ当たって砕け散るもよし
大阪市 平井美智子

泣いたあと豚饅二個を平らげる
土佐清水市 辻内 次根

ポケットで出番待つてる売り言葉
鳥取市 永原 昌鼓

あと六年貰ったような余命表
黒石市 石澤はる子

集落の会のある夜が休肝日
神戸市 横田 次郎

大食い競争不気味な美女の群れ
岡山県 藤澤 照代

春一番もう吹く頃と指を折る
丸い顔三代集う喜寿祝い
深呼吸言葉を丸くするために

小指のほか指切りをしたことがない
鬱浮かぶ顔をただ今バック中

松江市 梅瀬みちを
午前五時決まって暗いニュースから

飲み薬願いを込めてむせました
大阪市 笠嶋 惠美

「限定」に押されてゴミがまたひとつ
浜松市 中田 尚

どうしようどれにしようど切手の絵
鳥取市 斉尾くにこ

ブラックホール覗くツアーを申し込む
伊丹市 延寿庵野鶴

空腹な象もキリンもよくしやべる
佐賀県 真島久美子

ヒラヒラな男の無駄なジャンプ力
堺市 内藤 憲彦

ポイントが五倍でバナナ買い過ぎる
河内長野市 山岡富美子

せかせかと上げると鯛は釣れません
現在地しつかり見よという鏡
魔船も沖を目指している舳先

片足立ちケガする前にやめとこう
奈良市 大久保真澄

ほうれい線マスクの中で増えている
岩出市 村中 悦男

好きなもの食べなさいよと娘の電話
完食の老妻うんとほめてやる

調査表男女の欄が書いてない
倉吉市 岡崎美知江

今月もよく働いた保険証

羽曳野市 吉村久仁雄
おとんおかんのケンカ正調河内弁

仲良うにしいやと百歳が言うた
橿原市 居谷真理子

すぐにはしないのがはくの美学です
米子市 成田 雨奇

家計簿のストレスを消す冬いちこ
貝塚市 石田ひろ子

復興いちこ一際甘い味がする
岩国市 上村 夢香

早よ来んからと叱られながら歯を抜かれ
高槻市 片山かずお

下向いてチャンス逃がしたテレ屋さん
尼崎市 近兼 敦子

庭の木をばっさり迷い消えました
河内長野市 村上 直樹

机より離れて今は自由の身
丹波篠山市 澤 良子

やつぱりと血液型を当てられる
尼崎市 山田 耕治

昔の本活字小さくもう読めぬ
大阪市 樋口 眞

疎まれても気付かぬ振りで暮らしてる
奈良市 加藤江里子

有ってはならぬ事だけが多すぎる
男鹿市 伊藤のおよし

カルテにはちと手強いと書いてある
鳥取市 倉益 一瑤

表現の自由不自由五七五
枚方市 山口弘委智

おしゃべりの会でもあつたんだ句会
大阪市 田中ゆみ子

待ち遠しコロナ収束後の句会
豊中市 松尾美智代

コロナなど知らぬ金魚の長い糞
鳥取市 福西 茶子

視界ゼロでもコロナ禍をくぐらねば
羽曳野市 徳山みつこ

また自粛リズムが狂う砂時計
寝屋川市 伊達 郁夫

バス電車乗らず過ごした二ヶ月も
三田市 堀 正和

慣れました無観客にもコロナにも
宝塚市 太田としお

テレワーク祖父祖母声が大きいぞ
河内長野市 黒岩 靖博

ワクチンの優先権が怖すぎる
横濱市 加藤 佳子

僧衣にも違和感のない白マスク
高槻市 初代 正彦

にんにくも平気マスクは優れ物
堺市 坂上 淳司

マスクせず待合室に座れない
大阪市 坂 裕之

マスクして唇ぬくし金は無し
奈良市 尾畑なを江

咳ひとつマスクずらして飴ひとつ
大阪市 宇都満知子

放せないスマホとマスク歩いてる
唐津市 前田 廣幸

道草は二十時までという抑止
三原市 笹重 耕三

自粛中三食作り腕あがる
三田市 辻 開子

笑う日も来ると信じて家籠る
横濱市 菊地 政勝

亡夫との旅反芻してる自粛中
岡山県 高岡 茂子

四密のチーボンカンは過去のこと
塩竈市 木田比呂朗

皆家で何したはるか覗きたい
大阪市 岩崎 玲子

コロナ禍に辛抱という徳を積む
西宮市 高橋千賀子

春一番歌ってコロナ吹き飛ばそ
大阪市 岡田 恵子

じつくりと拝めない流れ焼香
安来市 原 徳利

ワクチンに負けるもんかと変異する
大阪市 藤田 武人

そそくさと済ます今年のチョコ売り場
米子市 野川 宣子

そんな日もあつたと言う日早く来い
大阪市 古今堂蕉子

変貌の時代ゆっくり身構える
羽曳野市 宇都宮ちづる

五十年かけ凡人になっていく
倉吉市 牧野 芳光

ありがたやちよと動けば汗が出る
藤井寺市 太田扶美代

わが新芽まだまだであると汗をかく
池田市 上山 堅坊

うれしくはないがたつぷり高齢者
松山市 柳田かおる

爺ちゃんのスパルタ蝶今生きる
西宮市 福田 正彦

人生の個性豊かなシニア塾
沖縄県 禰 モモト

難聴で罵詈雑言を逃がっている
鳥取市 副井ゆたか

お気に入りの食器ばかりがなぜ割れる
高槻市 島田千鶴子

経年劣化替えの部品の無いらしい
松山市 栗田 忠士

足腰が痛む保険の満期以後
米子市 吉田 陽子

達者な口が弱った足をカバーする
河内長野市 大島ともこ

褒められたくて頑張っているのです
米子市 後藤 宏之

笑う日もきつと来るよねだるまさん
海南市 小谷 小雪

大阪府 若本 安代
湯上りの冷酒私のエネルギー

唐津市 仁部 四郎
焼酎のオンザロックで国防論

米子市 後藤美恵子
美人の湯期待は後のビールなり

弘前市 高瀬 霜石
冬だつてちゃんと冷やして飲むビール

和歌山市 まつもともとこ
ぬるいビールが冷めた時間を戒める

大阪市 江島谷勝弘
旨いねえエビスビールは旨いねえ

尼崎市 永田 紀恵
酒用の別腹三つ持っている

宝塚市 岸田 万彩
幸福の評価基準に酒の量

神戸市 山口 光久
生き様は汗と涙とコップ酒

堺市 楠井 輝子
熱燗を所望つまみはなんなりと

神戸市 敏森 廣光
この歳で飲める喜びに乾杯

富田林市 中村 恵
グラスには溶けた水とわたくしと

堺市 澤井 敏治
しゃあないなお酒の増える冬こもり

豊橋市 小松くみ子
しゃっくりが飲みすぎと言う今日もまた

大阪市 平賀 国和
三密の飲み会恋し友恋し

防府市 坂本 加代
居酒屋の騒ぎなつかしこもりびと

南あわじ市 萩原 狸月
家飲みにも色気の足らぬ妻の酌

河内長野市 藤塚 克三
気が合うと自粛忘れて縄のれん

東大阪市 佐々木満作
チョコ二杯いい塩梅の薬用酒

大阪市 井丸 昌紀
君も酔ったかあくびしている朝の月

広島市 岸本 清
ひとしきりはやいた妻がよく食べる

香芝市 大内 朝子
喋らない分バリポリと袋菓子

豊中市 上出 修
エネルギー蓄え過ぎて糖尿に

大阪府 大浦 福子
ヘソクリで買った株あり未だ近けぬ

池田市 奥園 敏昭
何バーの人が見ている株価値欄

鳥取県 門村 幸子
通販のお茶手間なしのラベルレス

大阪市 今村 和男
ドロップの籤引くように缶を振る

沖縄県 宮 すみれ
緊張のコック五人に客一人

鳥取市 奥田 由美
コストコの激安チョコで釣れた夫

三田市 谷口 修平
人恋えば心に沁みる歌がある

岡山県 田中 恵
真ん中に老母が座るお赤飯

大阪市 石田 孝純
「だから」「それで」ニコニコ母の接続詞

五所川原市 むらのひとり
片減りをする歩き方ずつとずつと

生駒市 饗庭 風鈴
脳味噌を風にさらして活性化

長岡京市 山田 葉子
校則の時代おくれがなおらない

松江市 中筋 弘充
恋がたきに出逢う気がする八十路坂

朝霞市 前田 洋子
歯ブラシで目をこすりたいたい花粉症

八幡市 武田 悦寛
ウッブンを挽き臼でひき空に撒く

大阪市 小野 雅美
縦列駐車ひとりで決めてみたいもの

鳥取県 竹信 照彦
うっかりと脱いだ帽子が池泳ぐ

神戸市 米田利恵子
正論を苦手な奴が先に言う

大阪市 島田 明美
ふるさとで私を待っている空き家

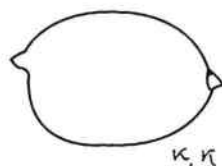
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句366名)



「再生」 石橋芳山選

一からの出直し空も晴れている
 きのうより今日のわたしは新しい
 かさぶたもふわふわ浮いて来たみたい
 指の爪切っても切っても伸びてくる
 再生なら任せてくれとトカゲの尾
 再生とまでは言わない美人の湯
 頼りにしてまっせと薬手のひらに
 花咲かす捨てられていたシクラメン
 ガタついた椅子を巣箱にしてしまふ
 叩くだけのなににラジオは鳴りました
 喝采の過去は語らぬ再生紙
 瘡蓋がとれてわたしはピンクです
 リハビリのペンあなたに手紙書きました
 再生回数 いいね を競う次世代派

奈良市	山本	昌代
岩国市	上村	夢香
三田市	上田ひとみ	
鳥取市	池澤	大鯨
男鹿市	伊藤のぶよし	
三田市	福田	好文
堺市	矢倉	五月
大阪市	横山	里子
尼崎市	清水久美子	
堺市	澤井	敏治
塩竈市	木田比呂朗	
鳥取市	前田	楓花
島根県	伊藤	寿美
横浜市	川島	良子

「再生」 古今堂蕉子選

それからのわたし自分に正直だ
 分断の民衆がねばバイデン氏
 治療力と言う再生に神の恩
 お嫁さんに本音をぶつけ仲直り
 古民家のカフェでタピオカ飲んでいる
 タラの芽を少し残しておく美学
 瘡蓋がとれてわたしはピンクです
 レストアを所望致すと身体中
 寄せたら返すものだと波に叱られる
 再生ボタン押せば貸し切り枝雀寄席
 怒りん坊の目でも良ければアイバンク
 再生のアイデア老いを遠去ける
 孫五人これが我が家のルネサンス
 再生をした古民家へ熊が来る

長岡京市	山田	葉子
堺市	坂上	淳司
香芝市	大内	朝子
奈良市	加藤江里子	
大阪市	高杉	力
鳥取市	田中	天翔
鳥取市	前田	楓花
河内長野市	大島ともこ	
堺市	矢倉	五月
河内長野市	中島	一彌
島根県	伊藤	寿美
越谷市	久保田千代	
豊中市	水野	黒兎
松山市	宮尾みのり	

自肅中溜まったビデオ再生中
 タラの芽を少し残しておく美学
 リハビリを受付嬢に誘われる
 熱湯に菌ブラシ浸けて良い毛先
 移植した臓器に永らえる命
 どこまでもひとつの嘘のアメーバー
 裏切りに耐えて生きぬく再生紙
 人間のすごさを知った手術跡
 大脳のどこかに再生のボタン
 ハイヒール折れて素足の第一歩
 新しい恋が芽生えた毬弾む
 再稼動ゴミの捨て場がありますか
 霧吹きをかけてあなたを送り出す
 乾杯にやんちゃばかりが甦る
 残り物刻み餃子のわが家風
 痛い歯へサメになりたい夜の闇
 真つさらな明日へリセットする夕陽
 新型コロナ姿を変えて挑み来る
 次の世を生きたい人がたんといふ
 金具入れ僕の体はサイボーグ
 百均に脳のパーツはおまへんか
 リサイクルショップに並ぶリンダ・リンダ

大阪府	金川	宣子	大阪府	金川	宣子
鳥取市	田中	天翔	鳥取市	田中	天翔
三田市	堀	正和	三田市	堀	正和
池田市	太田	省三	池田市	太田	省三
尼崎市	藤井	宏造	尼崎市	藤井	宏造
五所川原市	むらのひとり		五所川原市	むらのひとり	
河内長野市	坂野	澄子	河内長野市	坂野	澄子
橿原市	居谷真理子		橿原市	居谷真理子	
枚方市	藤田	武人	枚方市	藤田	武人
枚方市	栃尾	奏子	枚方市	栃尾	奏子
豊中市	松尾美千代		豊中市	松尾美千代	
神戸市	山崎	武彦	神戸市	山崎	武彦
黒石市	北山まみどり		黒石市	北山まみどり	
奈良市	宇賀	史郎	奈良市	宇賀	史郎
羽曳野市	徳山みつこ		羽曳野市	徳山みつこ	
豊橋市	小松くみ子		豊橋市	小松くみ子	
松山市	柳田かおる		松山市	柳田かおる	
西宮市	福田	正彦	西宮市	福田	正彦
熊本市	杉野	羅天	熊本市	杉野	羅天
尼崎市	山田	厚江	尼崎市	山田	厚江
大阪市	川端	一歩	大阪市	川端	一歩
松江市	藤井	寿代	松江市	藤井	寿代

バツ三つ今度こそはと娘は誓う
 序二段へ落ちた力士の再起劇
 笑い袋連れて乙女にまた戻る
 再生の角膜が見た医の進歩
 生かされて五臓六腑に沁みる白湯
 ノムさんは故障選手をリサイクル
 待っている君がいるから立ち上がる
 街頭を監視カメラが捕捉する
 腎臓は君と僕とで一つずつ
 ミニチュアに蘇らせた古靴
 ドラレコが事故の現場に棲んでいる
 ユーチューバー再生数が億稼ぐ
 まだボクに使える振子があるという
 再生なら任せてくれとトカゲの尾
 斬られても死なぬゲームの中の戯画
 てんぶらの油軽トラよく走る
 百均に脳のパーツはおまへんか
 スマホOFFふる里の風吸いに行く
 残り物刻み餃子の我が家風
 ガタついた椅子を巣箱にしてしまう
 敗者復活取れたボタンを付け替える
 ウイルスも私も変異して生きる

大阪府	奥村	五月	大阪府	奥村	五月
鳥取市	副井ゆたか		鳥取市	副井ゆたか	
三田市	野口真桜子		三田市	野口真桜子	
津山市	高橋由紀女		津山市	高橋由紀女	
神戸市	横田	次郎	神戸市	横田	次郎
神戸市	松倉	正美	神戸市	松倉	正美
神戸市	富永	恭子	神戸市	富永	恭子
名古屋	山本三樹夫		名古屋	山本三樹夫	
三田市	稲角	優子	三田市	稲角	優子
大阪市	近藤	正	大阪市	近藤	正
富山市	伴	よしお	富山市	伴	よしお
富士見市	中島	通則	富士見市	中島	通則
阿南市	小畑	定弘	阿南市	小畑	定弘
男鹿市	伊藤のぶよし		男鹿市	伊藤のぶよし	
大阪市	平井美智子		大阪市	平井美智子	
伊丹市	岡村	風琴	伊丹市	岡村	風琴
大阪市	川端	一歩	大阪市	川端	一歩
岡山県	藤澤	照代	岡山県	藤澤	照代
羽曳野市	徳山みつこ		羽曳野市	徳山みつこ	
尼崎市	清水久美子		尼崎市	清水久美子	
高槻市	原	洋志	高槻市	原	洋志
鳥取県	斉尾くにこ		鳥取県	斉尾くにこ	

何よりの証拠ドライブレコーダー

再生の度に女性が強くなる

鉄アレイ漬物石で再雇用

ブレイバックできることならガキの頃

恐竜が骨一片で甦る

タマゴから髪が再生するらしい

もう一度あの出会いから始めたい

再生を夢みて蟬は土の中

再生の優等生は紙だろう

今日おでん残った出汁で明日カレー

迷い込んだ森で脱皮を考える

てんぶらの油軽トラよく走る

くたくたに気力の戻るレモン風呂

村おこしへ星も一役かっている

裏側はいつもメモ紙に使われる

笑い袋連れて乙女にまた戻る

ドラレコが事故の現場に棲んでいる

再生ができぬテープの中にいる

失恋に敗者復活などはない

繰り返す金太郎飴の答弁

いなびかり想いはまたもくりかえす

真っ白は幻覚みんな再生紙

ヘブバーン・モンロー楽しい引きこもり

米子市 池田 美穂

堺市 齋藤さくら

八幡市 武田 悦寛

岡山市 丹下 凱夫

小野市 田中 辰夫

香芝市 大内 朝子

河内長野市 大島ともこ

大阪市 平井美智子

鳥取市 岸本 宏章

豊中市 齋藤奈津子

藤井寺市 太田扶美代

伊丹市 岡村 風琴

高槻市 初代 正彦

和歌山県 三枝真智子

大阪市 寺本 実

三田市 野口真桜子

富山市 伴 よしお

弘前市 稲見 則彦

鳥取市 福西 茶子

安来市 原 徳利

枚方市 山口弘委智

丹波篠山市 酒井 健二

弘前市 高瀬 霜石

アエイウエオアオと滑舌とり戻す

再生へ出直すキャンブ無観客

悔し涙に再生の音がする

懐かしい声留守電が消えぬまま

ペットボトルだったかもこのラブチエ

変異した脳で再生してみせる

春が来た義足をつけて深呼吸吸

千回も観たかも寅さんのビデオ

傾いた会社へみなの危機意識

リサイクル出来ぬか錆の出た海馬

村おこし星も一役かっている

初恋の再生だれも験さない

再生を願う世界の知恵比べ

流水をオブジェに変えて床の間に

ああ奇跡ドナーの命飛び跳ねる

動力源すべて水素にする努力

119番救急蘇生する命

有限な資源を守る3R

話好きクラブハウスで蘇る

帯を解き深呼吸吸して素に戻る

酒とろり逢いたい人が蘇る

わが体内再生エネはもう枯渇

石ひとつ投げて景色を変えました

札幌市 三浦 強一

吹田市 西沢 司郎

松山市 栗田 忠士

大阪市 津守 柳伸

西宮市 緒方美津子

枚方市 藤村 亜成

三田市 生田えい子

高槻市 初代 正彦

神戸市 山口 光久

西予市 黒田 茂代

和歌山市 三枝真知子

唐津市 仁部 四郎

豊中市 池田 純子

米子市 中原 章子

寝屋川市 伊達 郁夫

和歌山市 福島 一雄

三田市 尾崎 一子

三田市 多田 雅尚

寝屋川市 廣田 和織

八王子市 川名 洋子

富田林市 中村 恵

奈良県 安福 和夫

岡山市 工藤千代子

アエイウエオアオと滑舌とり戻す

天下り先また息を吹き返す

テープ再生恋の話も擦り切れる

再生紙少年ジャンプ安価です

再生を夢見て万華鏡覗く

果ごもりで美白美肌がよみがえる

前歴を訊かれたくない再生紙

古民家のカフェでタビオカ飲んで

七十路の恋青春の再起動

沈んでもやり直せると砂時計

また来たか頼みもしない誕生日

厨房の再生堆肥あまい茄子

うす皮が出来てそろそろ次の恋

再生へ楽譜で残すベートーヴェン

妬み嫉み再生可能エネルギー

凜りんとトカゲの尻尾だとしても

ひとさしの水に生氣を取り戻す

ワタクシの舌は切ってもすぐ生える

秀句

自信ナシきつとあしたは自信アリ

ウィルスも私も変異して生きる

三月十一日再生ボタン押す

札幌市 三浦 強一

土佐清水市 辻内 次根

和歌山市 古久保和子

大阪市 宇都満知子

鳥取市 加藤 茶人

箕面市 広島 巴子

松江市 中筋 弘充

大阪市 高杉 力

大阪市 石田 孝純

大阪市 小野 雅美

枚方市 谷 英也

鳥取市 上山 一平

大阪府 大浦 福子

唐津市 前田 廣幸

佐賀県 真島久美子

海南市 小谷 小雪

大阪市 近藤 正

神戸市 みぎわはな

和歌山市 まつもとともこ

鳥取県 齊尾くにこ

仙台市 月波 与生

ドナーから私にリレーする命

ありがたく貴女の臓器もらいます

リフォームで空き家に若い灯がともり

再生紙オレはなんでも知っている

思い出の母の小紋で春ドレス

メルカリで欲しい誰かを見付けだす

生まれ変わるなら碧空のトンビ

再生中です少しお待ちを願います

老害が消えて組織はルネサンス

二日酔いシャキットさせる迎え酒

リニューアル我が家も妻も私も

鉄アレイ漬物石で再雇用

ブライドにもメンテナンスの要る齢

せせらぎの音に枯野が立ち上がる

失恋に敗者復活などはない

君の旅ここがゴールか再生紙

恐竜が骨一片で蘇る

秘書を切り褌済ませて甦る

秀句

繰り返す金太郎飴の管弁

ベシヤワールの乾いた大地よみがえる

信楽の火鉢睡蓮咲いている

今治市 永井 松柏

寝屋川市 川本 信子

南あわじ市 萩原 狸月

香南市 桑名 孝雄

交野市 山野 双葉

大阪市 原田すみ子

石川県 堀本のりひろ

八尾市 村上ミツ子

京都市 清水 英旺

神戸市 敏森 廣光

鳥取市 中村 金祥

八幡市 武田 悦寛

大阪市 石田 孝純

岐阜市 喜多村正儀

鳥取市 福西 茶子

横浜市 加藤 佳子

小野市 田中 辰夫

奈良県 室田 行久

安来市 原 徳利

堺市 遠山 唯教

西宮市 亀岡 哲子

「まだ」

(投句 244名)

澤井敏治選



呑んでいるまだ吠えている大丈夫
まだ死ぬまだ呑み足らぬ酒の毒
まだ二月春を待つてるランドセル
手を合わせいただきますと言ってから
十五歳でねじれて未だそのまんま
まだ青い削っていない角がある
大人だねと言わせてみたい頑固者
まだまだと思っていたが彼連れて
曲り角振り向けばまだ母は立ち
まだ生きる生きたいコロナには負けぬ
和歌山県 米子市 後藤美恵子
森発言そうよ日本はこの程度
まだやれるそれが老害撒き散らす
夕焼けはまだ間に合うというのだが
咳ひとつ胸のつかえはまだ取れぬ
コメディでまだ人間を演じてる
まだ先があると思っていた昨日
まだ生きていたかと怪訝そうな顔
まだ五十まだ八十で生きてきた
胃袋に余力はあるが箸を置く

大阪市 高杉 力
安来市 原 徳利
大阪市 原田すみ子
三田市 上田ひとみ
橿原市 居谷真理子
神戸市 横田 次郎
河内長野市 落葉 ふみ
高槻市 松岡 篤
岡山県 藤澤 照代
岡山県 米子市 柏原 夕胡
鳥取市 福西 茶子
東大阪市 秀爷
仙台市 月波 与生
大阪市 平井美智子
八王子市 川名 洋子
松山市 宮尾みのり
香南市 桑名 孝雄
鳥取市 岸本 宏章
神戸市 富永 恭子

痛み止めのんでいるのでまだ禁酒
五欲まだ抱いて傘寿が生臭い
引き出しにまだ弾ませる鞆がある
アイラブユー山彦がまだ帰らない
アナログの良さまだ知らぬデジタル化
埋もれ火がまだかまだかと風を待つ
まだ伸びる爪は生きるを主張する
米寿きてまだ諦めぬ夢がある
未完成ですが時間が無いのです
まだ少し心の隅にある野心
諦めぬ心がまだを強くする
まだ傘寿原語で挑む「異邦人」

佳句

我が家へとまだ舞い降りぬ鶴
生かされてまだ油絵の裸婦と居る
まだ少し疑っている茄子の花
髪のははなくなっただけババはババ
ストローは囁むためにある待ち時間

人

魔女達の呪文私はまだきれい

地

核抑止力まだそんなこと言いますか

天

納得はまだお好み焼きを裏返す

軸

まだ酔うてないところんがわめいてる

大阪市 樋口 眞
富田林市 山野 寿之
貝塚市 石田ひろ子
札幌市 三浦 強一
広島市 松尾 信彦
防府市 坂本 加代
羽曳野市 藤原 大子
池田市 上山 堅坊
松山市 柳田かおる
富士見市 中島 通則
名古屋市 富田 末男
豊中市 水野 黒兎
笠岡市 藤井 智史
岐阜県 喜多村正儀
今治市 永井 松柏
弘前市 高瀬 霜石
佐賀県 真島久美子
富田林市 中村 恵
奈良市 大久保眞澄
大阪市 森 廣子

「調味料」

(投句 213名)

田 賀 八千代 選



最高の調味料です愛を足す
塩コショウだけで戴く春野菜
しまらない僕を漬け込む三杯酢
鼻歌でおいしさ混ぜている調味
粕たつぷり石狩鍋が温かい
塩なめてここの一番の力瘤
秘伝のタレ掛ければ丸い顔になる
天ぶらそば七味わくわく待ちかねる
塩むすび握って明日を待っている
湯豆腐の利尻昆布がよく喋る
許せないだからたつぷり唐辛子
三ツ星の味より母の酢味噌和え
はんなりの母の薄味京仕込み
特上の味噌汁の出し松葉ガニ
多民族美味しく混ざる調味料
敗戦記渋い男の隠し味
過去のことさっぱり味にして話す
シオだけは大きな文字で書いてある
人生の喜怒哀楽の調味料
失恋を円やかに塩ひとつまみ

笠岡市	藤井	智史
安来市	原	徳利
黒石市	石澤	はる子
羽曳野市	藤原	大子
西予市	黒田	茂代
河内長野市	坂野	澄子
富山市	伴	よしお
鳥取県	門村	幸子
大阪市	島田	明美
伊丹市	延寿庵	野鶴
大阪市	森	廣子
三田市	九村	義徳
河内長野市	藤塚	克三
鳥取県	竹信	照彦
枚方市	谷	英也
宝塚市	岸田	万彩
神戸市	上田	和宏
三田市	堀	正和
明石市	瀬島	流れ星
生駒市	饗庭	風鈴

頑張ったねと砂糖の効いた玉子焼
亡き祖母の唄が聴こえる万年酢
たつぷりと塩味きかせ愚痴小言
意地悪しちよつとスパイス利かせとく
お酢かけて下げる血圧血糖値
まったりと味ととのつたええ夫婦
調味料になって人の輪盛り上げる
調味料いっぱい持った芸の幅
味の素パツパと振った良き昭和
タパスコが利きすぎですよ妻の乱
独り居の老人狙う甘い水
ほどほどを許す万能調味料

佳 句

甘辛の煮っころがしに亡母が居る
甘さ控えめ愛されているからですね
お好み焼きで派手なダンスのかつお節
百人のカレーに百の隠し味
スパイスはおしゃべり女子会のランチ

人

塩コショウ多めに振って倦怠期

地

調味料浮き上がる嘘煮込んでる

天

許す気もないのに溶けていく砂糖

軸

スパイスを振って青春再起動

堺市	内藤	憲彦
大阪市	石田	孝純
堺市	今井	万紗子
鳥取市	山下	凱柳
熊本市	杉野	羅天
河内長野市	穂口	正子
池田市	上山	堅坊
枚方市	藤村	亜成
神戸市	山崎	武彦
大阪市	津村	志華子
岡山県	藤澤	照代
倉吉市	牧野	芳光
鳥取市	福西	茶子
横浜市	長島	亜希子
三田市	村田	博
鳥取市	岸本	宏章
奈良市	大久保	眞澄
大阪市	平井	美智子
越谷市	久保田	千代
和歌山市	上田	紀子

初しり教室

題一 咲く

居谷 真理子

「咲」は元々「笑う」の意味だったとか。
さあ四月。咲きましよう。笑いましよう。

(原は原句 参は参考句)

原 画面越し母と娘の笑顔咲く 双葉

オンラインですね。焦点を絞ってみました。

参 母さんの笑顔が咲いた画面越し

原 媚びもせず企みもなく花は咲く 令位子

少しくどいかな。

参 なにこころ無く赤く咲く白く咲く

原 寒い寒い梅のツボミもまだ寝てる 崇史

参 まあだだよ梅のツボミもまだ寝てる

原 寒風に咲く山茶花にやなれません 蟻日路

にや、「には」をつづめた言い方ですが、

この句にはくだけすぎの気がします。

参 寒風に咲く山茶花になれなくて

原 一輪でも百の花より映えるとき 千代

参 一輪が百の花より映えるとき

原 淋しく咲いてももの言わない水中花(瀬)廣子

こんな俳句を見つけたました。(呼びたくて

うずうずと水中花) 葛悦子

参 いつまでも黙ったままの水中花

原 孫の夢咲いてゴールのウエディング 風露

参 孫の夢いまだ大輪のウエディング

原 人知れずひっそり咲いた野辺の花(澤)良子

人知れずとひっそりとは同じ意味ですね。

参 時が来てひっそり咲いた野辺の花

原 水仙の香しく咲く庭の隅 一平

参 水仙の香り確かな庭の隅

原 杖つきて紅梅香るまだ若い ミヨノ

参 杖の身も紅梅の香に若返る

原 三蜜で恋も咲かないこの世です 英也

三蜜、三蜜。まちがいやすい漢字です。

参 三蜜がダメで恋など咲きません

原 「サクラサク」電報受けた十八才 ひとみ

参 サクラサクあの電報は忘れられない

原 咲かせたい五輪の蕾かたいまま のぞみ

参 春なのに五輪の蕾かたいまま

原 咲く姿思えがいて植えた花 ゆき

参 咲くさまを思い描いて植えた苗

原 青春に咲くは無かった親介護 えい子

花の青春時代がなかったのは親が自分か。

参 青春を咲かせえなんだ親を見る

参 青春を咲かせぬままに親介護

原 挿し木した小さな枝に花が咲く

参 挿し木した細い枝にも咲いた花

原 咲く笑顔桜と共に見てみたい

原 あの笑津桜と共に見てみたい

二句を一句に

参 あの笑顔桜の下で見てみたい

原 老木に冬芽ふつくら冬肥盛る

冬の字が二つもありますね

参 老木の冬芽に施肥の応援歌

原 雨降れば傘の花咲く戎橋

参 相合の傘の花咲く戎橋

原 帰り道わからぬ花が一つ咲く

参 名も知らぬ花に気づいた帰り道

原 成人になった孫との政治論

参 成人の孫と咲かせる政治論

原 かすみ草咲いて脇役演じ切る

参 脇役を演じ切ったかすみ草

原 なぜ咲かぬ隣の庭は花盛り

(潤) 恵子

(川) 信子

開子

厚江

(貝) 正子

厚子

勝正

勝正

くみ子

参 淋しきは隣の花盛り

原 咲かなくていいの僕は雑草だ 秀 斧

雑草も花は咲くと思ひますが

参 咲く前に刈られてしまふ雑草だ

参 花よりも根つこだ僕ら雑草だ

原 大雪の下路のとう咲く準備 三 樹 夫

参 大雪の下で待つてゐる路のとう

原 裏話花咲き香る芋焼酎 次 郎

参 焼酎が次々咲かす裏話

原 雪花が落ち込む僕を慰める のりひろ

咲くの題で雪花！素敵です。このままでも

いい句ですが。

参 がんばれと天が下さる雪の花

原 いつか咲くほめて育てた母の愛 風 羅

「愛」まで言うと言ひすぎ

参 いくつか咲くとほめて育ててくれた母

原 老女でも努力しだいで花は咲く 弘 華

参 老いたれど今日には今日の花咲かす

原 咲かすまで管理する手が荒れている 紀美代

何の花か知りたいです。

参 咲かすまで手は荒れたまま桜守

参 荒れた手がバラを見事に開かせた

原 一人居の我が家に紅のシクラメン ひでお

参 一人居の僕に真つ赤なシクラメン

原 この蓄親とは違う花が咲く 由 紀 子

参 親に似ぬ花が咲きそうこの蓄

原 サクラサキ母はバイトをプラスする 尚

参 サクラサキ母はパートの口ふやす

原 婀娜っぽい風情を見せて咲く芙蓉 不二夫

なるほど。

参 芙蓉咲く一日花の婀娜っぽさ

原 花の種まいてきれいな夢に酔う 眞 智 子

参 花の種きれいな夢をまきましよう

原 ピンクのドレス四歳の孫ブイサイン 一 弥

孫かわいさに詰め込みすぎました。

参 ドレス着て孫はピンクの花になる

原 チューリップ一輪咲いて春を知る 光 雄

チューリップでなくても成立する句です。

参 チューリップ咲いてもうすぐ新学期

原 コロナ気にせず咲くか今年の梅桜 弘

参 コロナなど気にせず咲けよ梅桜

原 咲き誇る寒さに耐えた冬がある 義 明

参 厳冬に耐えた花々咲き誇る

原 気持ち次第まだまだ咲けるこれからも 弥 生

参 これからもまだまだ咲くの気構えて

原 しあわせに熱い湯で咲く桜漬 閑

面白い見つけですね。

参 お湯飲みにしあわせ咲かす桜漬

原 老いにムチ一花咲かせ死ぬ覚悟 行 久

下五、ここまで言わずとも。

参 花咲かす覚悟で老いにムチを打つ

参 老いにムチせめて一花死に土産

原 花咲かじいさん被災地巡り花咲かす 風 鈴

スーパーボランティア尾畠春夫さんを思い

出しました。でも、あの方を詠んだのでは

なさそうです。

参 花咲かじいさん行つてあげてね被災地へ

参 被災地も巡る花咲かおじいさん

【佳句】

かたすみに咲いた花にも意地がある マキコ

咲くよりも蕾のままでいて欲しい マユミ

老いてなお散るには早い八分咲き あぐら

【今月の推せん句】

コロナ禍が老いの一花枯らしそう

「サクラサク」あの電報で踏み出した 櫻 葉 良子

正直に咲いてる今が嬉しくて 中 島 通則

正直に咲いてる今が嬉しくて 高 瀬 照枝

川柳塔鑑賞

同人吟 片山 かずお

— 3月号から

紅白で時代の変化知る二人

山口 不動

紅白で歌える歌がもはや無い

水野 黒兎

愛妻と書いてみたいな続柄

成田 雨奇

見付けがスゴイ！ お役所の書類の続柄欄に、本当に「愛妻」と書いてみたい。でも間違いない、カミさんからは「愛妻」としての待遇は受けておりません」と突っ込みが入るだろう。

おでこにピツ今日も関所を通り抜け

堀 正和

コロナ感染防止対策の儀式的検温。「ひたい」ではなく「おでこ」という言葉と「ピツ」というオノマトベとの相乗効果で、体温計を「おでこ」に向けられている光景が鮮やかに浮かぶ。

久しぶりですねと言われてもマスク

中村 伸子

コロナ禍の真つただ中。街中マスク、マスクの顔だらけ。マスクをかけた顔で「お久しぶり！」と声をかけてもらっても「んっ、どなた？」となる。

真夜中のトイレにいつも腹が立つ

菊地 政勝

加齢のなせる業なのか、夜毎、真夜中にトイレに呼ばれ目が覚める。「昔はこんなことはなかったのに」と、自分に腹を立てるしかない。それにしても、冬場の寒い時は難行である。

ため息が向き合っている二人酒

敏 森 廣 光

ため息の原因は失望・心配のためか、あるいはそれが喜びに変わったためなのか。どうか後者のため息であって欲しいと思う。

興味津津子等は麒麟の首になる

竹山 千賀子

好奇心の固まりのような子供たちは、物珍しいものがあると「なに？ なに？」と首を長くしてのぞき込む。その時は、つま先立ちになって「麒麟の脚」にもなっているのだろう。

最近の歌は横文字の題名が多い。歌手名・グループ名も横文字。歌詞も横文字交じりでテンポが速く、高齢者の耳には聞き取りにくい。「昭和は遠くなりけり」と、ただただ嘆くしかないようだ。

三密の良さありがたさ思う今

緒方 美津子

コロナ禍で「三密は不可」の今、句会で顔を突き合わせてベチャクチャお喋りできた頃はよかったと、つくづく思う。

一筆にらしさ溢れる賀状です

飛 永 ふりこ

最近印刷された賀状が多い。そんな中、手書きで、その人らしい言葉が添えられている賀状を貰うと、嬉しい。

想い出を語れば恋がしやしり出る

渡 辺 富子

想い出となれば、まず浮かぶのは若き日の恋だろう。それは淡い片思いの恋だろうか。心ならずも終わりにしなければならなかった、苦い恋だろうか……

あれれれ昨夜は何を食べたっけ

山 東 日出男

昨夜ご飯を食べたことは覚えていて、でも何を食べたのかを思い出すのは、至難の業。「ご飯を食べたことを覚えていれば、何を食べたか思い出せなくても問題ない」と、お医者さんは言うけれど……

賽銭の見返り今日も待っている

小 野 雅 美

賽銭の見返りを待っているとのこと。賽銭はお礼でしたか硬貨でしたか？硬貨だったら、見返りは難しいのでは……

同人誌まずは自分の句をさがす

高 杉 力

安くない会費を払って購読している同人誌。最初に自分の句が載っているかどうかを確認するのは、当然のこと。その後で、他の人の作品を読んで勉強すれば会費なんて安いものだが、それが難しい。

ニコニコとホコホコ孫と共に去る

原 田 すみ子

お正月。大好きなおばあちゃんからお年玉を貰い、ホコホコと温かくなった財布を握りしめて、お孫さんがニコニコ顔で帰っていく光景が見える。

百歳まで生きたいようで無いようで

柿 花 和 夫

条件が揃えば人間は百二十歳まで生きられると、何かで読んだか聞いたような気がする。だからと言って、閻魔さんに「百歳まで生かしてやるぞ」と言われても、預金残がねえ……

一匹の釣果で海にのめり込む

大 島 ともこ

初めての海釣りで、大物ゲット。以来海釣りにのめり込んだらしい。おめでとう！見事に、ビギナーズラックの落とし穴に嵌ったんですよ。

主婦業もポイント付けば出るやる気

池 田 純 子

「名も無い仕事」が一杯の主婦業。周りは「主婦なのだから、やって当たり前」と知らん顔。百貨店かスーパーのポイントが付くことになったら、もつと本気を出すのだが……

匂いするまずはコロナは大丈夫

大 浦 初 音

憎きコロナ。罹ると、嗅覚が麻痺するとか。少し熱っぽいのが、匂いは感じられているので、コロナの心配はなさそうだ。

入り口でみんな揉み手がうまくなる

大 石 洋 子

コロナ蔓延中の今、いろんな建物・施設では、入口での検温と手指の消毒は欠かせない。消毒液を掛けて、液が手指に行き渡るように揉み手をする。確かに、揉み手がうまくなりそうである。

肘タツチのポーズに腕を組んできた

岸 本 清

ソーシャルディスタンスとやらで、ハータッチもハグもできなくなった。代わりに肘タツチをしようと思を出したら、相手が腕を組んできた。もうソーシャルディスタンスに厭きていたのだからう。

哀愁の漂う顔に魅せられる

坂 本 加 代

少し愁いを含んだ顔のある顔に惹かれるという。きつと、母性愛を掻き立てられるのだから。能天気な明るいイケメンは、お気に召さないのだからか……

よく見ればミニ盆栽にひそく春

宮 尾 みのり

冬場でも木々の枝をよく見ると、暖かくなったら一気に伸びてやろうと、花芽葉芽が春の準備をしているのが分かる。

水煙抄鑑賞

13月号から

中村 惠

喜びも中途半端な春が来る

東 定生

人生の始まりや節目の春という季節には、どこかわくわくと浮き立つものがある。が、コロナ禍の今、喜びに浸り切れない。(せっかくの春なのに)

御先祖に笑われそつな鏡餅

岸田 武

昔は正月に各家庭で餅を搗き、神や仏に鏡餅を供えた。近頃はスーパーで買った申し訳程度の鏡餅を供える家も多いらしいが。(鏡餅を知らない子供達)

巢籠もりで体膨らみ心萎え

荒木 郁子

本来は、悲惨な状況の句だが、体が膨らむという表現とリズムの良さで明るい句になった。私のことのようにもある。(飛ばない豚は、ただの豚)

堂々と覆正月した自肅した

中島 通則

「自肅中」という言葉一つで、他には何の言い訳もいらない。だが、こんな正月は、一度限りにしてほしい。

すぎ焼きで治る程度の喧嘩する

樫葉 良子

長い夫婦生活、円満の秘訣は、不満を溜めないで、小出しすることらしい。(あなたお肉ばかり食べないで)

記憶力おちて部屋中メモだらけ

奥野 健一郎

忘れてはいけないこと数多、メモにしたが、あのメモをどこに置いたか、思い出せない。このメモは何のこと?

ゆれながらゆれぬころをたしかめる

みぎわ はな

いろいろな場面の選択肢に迷うのは人の常だが、わたし自信、信念に沿ってぶれずにいるだろうか。難しい!!

消しゴムの汚れの中にある秘密

岡村 風琴

消してしまいたい過去のひとつやふたつ。騒がず静かにして欲しい。(秘密は墓場まで)

コロナ禍もいつかは過去となるこの世

森下 よりこ

何であれ渦中にいると、右往左往するばかりだが、この世のことはこの世でしまい。(戦争も過去のことだろう)

コロナ禍というのに空のあの青さ

本田 さくら

コロナで自肅を余儀無くされている身には、輝くばかりの空の青さが、かえって恨めしい。(春はすぐそこに)

わたくしをのぞき見してるひまな月

宮 すみれ

月に覗かれているのか、月を眺めているのか、ほんやりと飽くことも無く。(ちかちゃんのつぶやきが聞こえる)

歳時記を台無しにする温暖化

田邊 浩三

四季の移ろいが美しいと言われた日本でも、温暖化の影響か、季節にめりはりがない。(季語が不要の川柳しましょ)

箸置きが暇持て余す食いつぶり

山野 すみれ

若い元気な健啖ぶりには、目を見張るものがある。かつての自分達のように。(もっともっと召し上がれ)



お酒いろいろ (2)

酒類の販売量は、飲酒人口の高齢化に加えて、若者の酒離れなどで減少傾向が続いているようです。そのような状況の中でも生産量が一番多いのがビール類で国内の酒類生産量の半分以上を占めています。宴会では「取り敢えずビールで乾杯!」というのが決まり文句のように、下戸の方でも少しぐらひは付き合えるという気軽さが良いのかもしれない。

ビアホール一番乗りはシニアたち

堀 正和

たしなみとしておつきあい大ジョッキ

安土 理恵

屋上で宇宙を飲む大ジョッキ

水野 黒兎

生ビール花火はおまけピルの屋根

奥村 五月

自分への残暑見舞いに生ビール

広島 巴子

上品に飲んだら不味いピアジョッキ

穂谷 和郎

お気に入り大ジョッキあるレストラン

岩崎 玲子

邪魔でしかない飲み干した大ジョッキ

橋倉久美子

明るい雰囲気「ピアホール」と言えば若者がたむろするイメージがありますが、高齢化社会を迎えて「一番乗り」は

いつも句会の流れやゲートボール帰りのシニアたちです。

屋上のピアガーデンで星空を眺め「グイッ!」と大ジョッキを傾ければたちまち気宇壮大! しかし、飲み干してしま

ったジョッキは邪魔なだけ、とは身勝手の極み。

ビールビールと呪文唱えて草を引く

矢倉 五月

カロリーをジムで使って夜ビール

松尾美智代

ビール一杯今日と妥協をするために

細田 裕花

間食はせぬがビールは欠かさない
ビールほど私をいやすものはない
無重力深夜ひとりで飲むビール

栗田 忠士
上田ひとみ
丸山 健三

チンチロリン君も月見かビールどや
家のより店のビールが旨いらし

澤井 敏治
宇都満知子

男性上位の時代では「女性の飲酒ははしたない」と見られていました。が、昭和31年の「婦人がビールを飲むことについて」の世論調査では、飲まぬ方が良いが25%、飲んでも良いが58%、わからないが17%で過半数が是としています。

令和の現在では90%以上が「飲んでも良い」だと思います。ただ、コロナ禍の所為でさすがの女子会も休会のようですが、ワクチンが全国民に行き渡ると復活することでしょう。

缶ビール二本抱えて自由席

高杉 力

缶ビールぶしゅん映画の幕が開く

高瀬 霜石

発車するまでは開けない缶ビール

井丸 昌紀

缶ビール機を飛ばしにやって来る

永見 心咲

どっこいしょ自分をほめて缶ビール

内藤 憲彦

ブルタブを溜める子のため缶ビール

福士 慕情

泡の出る常備薬です缶ビール

美馬ゆづこ

缶ビールの好みがかかる収集日

西原珠真瑛

ビールは手軽に飲める印象がありますが、ジョッキや瓶ビールは宴会や家庭などの屋内がメイン。一方、自動販売機で買える缶ビールは公園のベンチとか映画館の自由席、そして旅の友として観光バスや列車の座席がよく似合います。しかし「常備薬」と言っても飲み過ぎると悪酔いするのは他の酒と同じです。ほろ酔い程度で切り上げましょう。

『麻生路郎読本』余滴 (63)

また、また、路郎の著作見つかる①

葉 原 道 夫

今回見つかった一冊を含めて、路郎の著作で判明したものは48冊になった。

今回見つかった著作は、『カタカナ世界お伽集一』で、インターネットサイトの「日本の古本屋」を通して入手した。



背と表紙

本の大きさは183×188mm (B6判) で、本文・一七五頁。ハードカバー。

背に、「『お伽集一』とあるので、第二集、第三集も刊行されたかもしれない。背の「小美山一舟」は変名で、奥付では麻生路郎となっている。

表紙は、収録されている「エンドウノキョウダイ」の口絵を使っている。「エンドウノキョウダイ」は、アンデルセンの「とび出した五つのエンドウ豆」をアレンジしたもの。アンデルセンのはこんな話である。

一つの莢の中に、五つのエンドウ豆が収まっていた。やがてもぎ取られ、子供の掌に転がり出た。エンドウ豆たちは、誰が一番遠くまで行くかを話した。二つのエンドウ豆は、子供の豆鉄砲で打ち出され、どこかに飛んでいってしまう。次の二つは子供の手から転がり落ちたが、やはり豆鉄砲で打ち出されてしまう。最後のエンドウ豆も豆鉄砲で打ち出されたが、貧しい母親と病気で寝たきりの娘が住む屋根裏部屋の窓の下に落ちた。土の上に落ちたエンドウ豆はしばらくすると葉を出した。母親は娘のために、エンドウ豆がよく見える窓ぎわにベッドを移す。エンドウ豆が成長していく

と共に、それを眺める娘も元氣を取り戻していく。そしてエンドウ豆は花を咲かせた。

路郎の「エンドウノキョウダイ」は、五つ目のエンドウ豆の設定は同じだが、五つのエンドウ豆を兄弟にしている点と、豆鉄砲で打ち出されるのではなく、それぞれの豆が自分の住む所を選んでいく点が違う。こんな具合である。一つ目は、出世するだろうと思つて立派な屋敷の庭に転がり落ちる。二つ目は、皆が見てくれるだろうと思つて四つ辻の真ん中にとまる。三つ目は、美しい人が通り音楽も聞こえてくるのが楽しいだろうと思つて賑やかな町にとまる。四つ目は、山や川や人を見下ろすのは気分がいいだろうと思つて、高い山の頂きにとまる。さて、それぞれのエンドウ豆はどうなったか。一つ目は、エンドウは畑に生えるものだからといって庭師が抜いた。二つ目は、馬車に引かれて枯れた。三つ目は、石畳の道だったので、根を張ることが出来ず枯れた。四つ目は、嵐に吹き飛ばされた。

奥付を記録しておく。

昭和二年一月五日印刷

昭和二年一月十日發行

定價 金 八十錢

送料 金 八錢

著作者 麻生路郎

大阪市西區靱南通貳丁目貳番地

發行者 藤谷芳三郎

大阪市西區阿波座中通二丁目四番地

印刷者 井上精一郎

大阪市西區阿波座中通二丁目四番地

印刷所 井上書籍印刷所

東京市神田區表神保町十番地

大阪市西區靱信濃橋交叉點西北側

發行所 崇文館書店

電話土佐堀三六一九番

振替口座大阪二七八五番

崇文館書店（大正12年までは、藤谷崇文館）から出された路郎の著作を挙げる。

1 『日々間に合ふ現代模範美的候文』

2 『日々間に合ふ現代模範女子美的候文』

3 『雄辨五分間演説と挨拶』

4 『新譯イソップの話』

5 『新釋ロビンソン漂流記』

6 『新譯アラビアンナイト』

7 『大正傑作壹萬句』

8 『新譯ロビンソン漂流記譯』

9 『新譯アラビアン物語』

10 『新譯イソップ物語』

8〜10は、123×123mm（菊半裁判）の4〜6を、188×188mm（四六判）に改め、刊行されたもの。

崇文館書店とは、どのような書店だったのか、『日本出版大観』（昭和5、タイムス社出版）で見てみる。

（崇文館・學究社）

藤谷芳三郎氏

明治三十年一月生

西區靱下通二ノ八

當家は北尾家（今の北尾新聞店）の別家で初代を伊助と稱した。二代目長吾氏は年少の頃大阪市岡本偉業館に入店し先代仙助氏に仕へて修業すること十三年間。明治卅五年頃獨立して崇文館を創業し軍隊物、中等參考書の出版を主とし大阪出版界で特異な地盤を開拓して堅實なる業礎を築いた。

大正八年一月長吾氏四十五歳で死去の爲め當主芳三郎君が其の跡を繼いだ。君は大阪市南區綿屋町大濱德藏氏の三男。歳十三

の時先代と同じ岡本偉業館に入り、修行中大正六年第八聯隊に入營し大正八年除隊となるや此の機會に獨立すべく自ら芳文館を興し『英語早道』外數點を出版し之れより其の緒に就かんとするの折柄、長吾氏に男子なく懇望されて其の長女千代子さんと養子縁組し次いで大正十年家督を繼いだ。君は資性極めて淡泊にして情義に厚く家督を繼ぐや先代の偉業を繼いで家運の隆盛を計り昭和二年學究社の商號を併用して小學物の出版に新生面を拓き、或は*1大淵、井上、脇阪、岡本君等と*2國民出版社を興して日記類の出版に目醒しい活躍を見せてゐる。

現に大阪出版業組合幹事、大阪書籍雜誌商組合販賣調査員に推されてゐる。』

*1 大淵—駿々堂の大淵善吉。井上—井上書店の井上庫二。脇阪—日本出版社の脇阪要太郎。岡本—受験研究社・増進堂の岡本政治。

*2 國民出版社から、路郎は、『小國民叢書 世界の昔ばなし』（昭3）、『成功美談 未来の大統領』（昭7）を刊行している。

（次回に続く）



(投句213名)

季節の変わり目、特に冬から春への移行は心躍るもののはあつたり寒さがふり返したり、着るものに困ります。



「おしやれは我慢だ」なんて言う人が居たりして、そらそうや、とは思うのですけど、若い頃のように寒いのをガマンできません。

おしやれ、がまた遠のきました。では、ナビを。

美人つて損だわ直ぐに目立つちゃう
(評) 損だわ、なんてホントは思っていないよ。美人だから許されることってクヤシイけど一杯見て来たんだから。

和歌山市 上田 紀子

謎などの謎が解け出す春つらら
(評) うららかな春になると、面倒くさ

いことはごめん、という気持ちです。謎も大事だけど春も大事。

奈良県 長谷川崇明

のほほんと見えてワクチン終えている
(評) アラ、このお方、やることは抜かりなくやっていらつしやるのね。ボーッとしていられるだけかとお見受けしたのに。

大阪府 若本 安代

野草取り男料理で酌み交わす
(評) 男料理って聞いただけで、野趣あふれんばかりの、エッ、元が野草だから言うまでもありませんか。

豊橋市 西郷紀美代

政治家の思ひ上がりを括る紐
(評) このところの政治家や官僚のヒドサといったら、国民をなめ切っているとは思えません。選挙で反撃だい!!

佐賀県 真島久美子

結局はオンナに論破されている
(評) オンナの話は長い、だとか、非難されればオンナを役職につけて体裁を整えるフリばかり。アホか。

大阪府 小野 雅美

前屈み続いているとスマホから
(評) 知らず知らずのうちに前屈みの姿勢が続けば、まず、首がおかしくなるそうです。コワいけど直る?

松山市 栗田 忠士

ハイヒール脱いで私を取り戻す
(評) 結構キツイですよ、ハイヒールは。

履いているときは外向きの顔ですが脱げば素に戻ります。

鹿児島市 鈴木いさお

徘徊の行きつく先はバラダイス
(評) ランニングハイじゃないけど、徘徊も行きつく先は恍惚状態になるのかしら、いいの悪いのか、難しいデス。

大阪府 平賀 国和

人間もネジを巻かれて走り出す
(評) オモチヤと違うけど、言われてみればあんまり変わらない気もします。ネジ巻かれたら頑張りますもの。

三原市 笹重 耕三

ネジ巻いて巻いて意気込みだけはある
大阪府 宇都満知子

捕食まで舌長すぎたカメレオン
横浜市 加藤 佳子

ワクチンの接種に悩むハムレット
神戸市 松倉 正美

袋とじ開けてどっきり目眩する
熊本市 杉野 羅天

立ち昇る煙にあった合言葉
香芝市 大内 朝子

引き返すことの出来ない恋の罫
枚方市 藤田 武人

小鳥にもなるよ夜の館細工
津山市 高橋由紀女

本当の理由は他にあるのです
豊中市 松尾美智代

セントラルパークで会った蛇遣い

米子市 八木 千代

見つけたのベッドにもあるスプリング

橿原市 居谷真理子

わいろにはペロペロキャンディーを一つ

豊中市 水野 黒兎

天までも伸びてやるぞとつくしんば

弘前市 高瀬 霜石

上がってもぼくには縁のない株簗

大阪市 平井美智子

悔しさが軋がっている部屋の隅

堺市 坂上 淳司

四十五年徹子の部屋はまだ続く

唐津市 坂本 蜂朗

所詮人頭脳流出金次第

松山市 郷田 みや

パレットに思い切り出す春の色

三田市 多田 雅尚

火葬場の煙は何故か昇り竜

尼崎市 藤田 雪菜

好奇心持って明日に進歩する

黒石市 北山まみどり

説明がうまくできない道案内

丹波篠山市 酒井 健二

飛ぶ野次に妙に納得してしまう

大阪市 柴本ばつは

アラ大変渦巻きなんて密でっせ

藤井寺市 鴨谷瑠美子

ほどかれて素直になったはつれ糸

箕面市 酒井 紀華

逆上がりでき脳細胞がうごきだす

岩国市 上村 夢香

四コーナー螺子がだんだん甘くなる

鳥取市 谷口回春子

待ち人の首がキリンになっていた

松山市 柳田かおる

針の穴から大きな渦になる噂

大阪市 江島谷勝弘

ゼンマイを急に食べたくなってきた

鳥取市 奥田 由美

五万回斬られた役者逝く陸月

尼崎市 近兼 敦子

お名まえが喉まできても上手く出ず

大阪市 笠嶋 惠美

決断力大事にしたいおばあちゃん

神戸市 みざわはな

思考回路堂々めぐり定まらず

奈良市 山本 昌代

ぐんぐんと理想ふくらむ青年期

土佐清水市 辻内 次根

生きもののルート辿って分かること

大阪市 森 廣子

香水の匂いが脳をたぶらかす

米子市 吉田 陽子

一直線へ桜前線はころびる

江南市 脇田 雅美

アンテナをどんどん伸ばしうわさ聴く

貝塚市 石田ひろ子

遠い日のねずみ花火のような恋

鳥取市 斉尾くにこ

運命の螺旋階段一歩ずつ

豊中市 松田蟻路

ご安心下さい頭部異常無し

西宮市 福島 弘子

雪解けを待ちかね土手のふきのとう

八幡市 武田 悦寛

日当たりの一等地猫天日干し

名古屋 富田 末男

トリセツに書いて目まいが無いように

仙台市 月波 与生

学校で迷子父親参観日

大阪市 内田志津子

啓蟄にでんでん虫の舞踏会

弘前市 福士 慕情

何時どこで起るか爆弾低気圧

河内長野市 梶原 弘光

年寄りをケムに巻いてはいけません

尾道市 小川 道子

慌てない一休さんの声がする

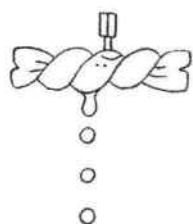
交野市 山野 双葉

好物のシナモンロールお供えに

堺市 遠山 唯教

大空を信じて止まぬ不老不死

6月号発表 (4月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳菱に2句



追悼

どばし
土橋

けい
螢さん

さようなら

森山盛桜

令和二年十月九日ご逝去されました。九十一歳でした。長年みか月の四代目會長として会員を引っ張ってこられ、同時に鳥取県川協の役員として活躍されました。元氣な頃は、近隣の句会・大会に柳友をさそっては自家用車でよく出掛けておられました。

螢さんの青春時代は正に戦争の真っ只中で、本人の記述を借りれば「少年航空兵に憧れ十四歳で三重海軍航空隊に志願、終戦により伊勢志摩の矢基地人間魚雷解除。帰還後すぐに青年団活動に参加し、その傍ら俳句と書道に没頭。その後昭和二十六年地元役場に勤務。初任給は三千五百円だった。」とあります。

螢さんがみか月に入会されたのは、役場を退職されてすぐの昭和六十年の四月の事で、中原諷人さんの勧誘だったと記憶しています。同年に俳句集『私の四季』

を出版されていますが、どこかに「川柳に転向」とあったので、転向即入会という形であつたろうと思われます。書道は師範として生涯続けられました。俳句の関係からでしょうか、花に対する造詣も深く時々その記述も見られます。

螢さんが打ち込んでおられたものも一つあります。若い時に起こされた仏教壮年会活動です。熱心な門徒であり、本願寺詣りも二十数回を数えたようです。みか月会報の巻頭言に涅槃・恩徳讃・椰櫛節とかの事を書かれていました。一方で、菩提寺ご住職の結婚の仲人をされたりと熱心にお勤めをされていた事が窺えます。

みか月の一つの転機になったのが、平成十四年の国文祭鹿野大会で、新築なつた鹿野小学校体育館で盛大に行なわれました。これと相前後して川柳塔の先生・

地元会員の句碑・句木を道沿いに建てる事になりましたが、これらは全て螢さんの筆によるものでした。あの時始まったジュニア川柳大賞は今年で第十九回を迎えます。優秀句は句木にして建てていますが今では優に百本は超えています。

多くの人がそうであるように、螢さんも戦争の事は殆んど話されませんでした。酔った時にポツンと「特攻隊の生き残りだけえ」というのは聞いた事があります。

敗けた日の海軍手帳出してみる
日の丸の翼で飛んだことがある
夕焼けの奥から冬の音がした
沈む陽を暫くじつとみて老いる
過去にする今がもつたいない時間
明日のためゆつくりいのち横たえる
はかない歓喜男とは女とは
愛憎の峠に牡丹雪が舞う

激動の青春期と穏やかな後半生という事になりますが、前掲の八句を見ても螢さんの心底を推し量る事が出来ます。

葬儀はコロナ禍の中、鹿野光輪寺にてしめやかに執り行われました。

二〇二一年（令和三年）

二月本社誌上句会

投句者234人

兼題「ゆるい」

高杉 力 選

ゆるキヤラもマスクしている観光地
ゆるキヤラを着ている幹部候補生
だぶだぶのパンツ着こなすのも若さ
ゆるいものほど喜ばれますパジャマ
チュニツクがふんわり隠す腰の線
だからつてゆるいズボンを穿いちや駄目
まあええと茶菓子食べてる血糖値
ゆるいパーマ私を少し変えてみる
ともに老いゆるいダンスに今日も酔う
愛犬の寝息がくれるゆるい午後
頬なでる風もゆるやか春隣
空も風も樹も身も街も緩む春

奈良 山下 純子
島根 梅瀬みちを
大阪 津守 柳伸
大阪 江島谷勝弘
愛知 小松くみ子
兵庫 松本ゆかり
大阪 西村 哲夫
大阪 きとうこみつ
兵庫 上田 和宏
鳥取 奥田 由美
大阪 初代 正彦
大阪 石田 孝純

思いきり翔ぼう寒さがゆるんだら
ほどけるように緩く結んだ赤い糸
やんわりと締め付けてくる京言葉
逢いに行く帯は少うしゆるいめに
柔らかな手錠を掛けて逢っている
私の緩い所に着火剤
愛薄れゆるゆる動きだす指輪
そのうちに帰るさ妻という港
円満の秘訣夫の放し飼いか
記者クラブ質問ごっこしてみせる
政治家の舌は八百枚もある
わが身にはゆるゆる秘書へ回す罪
一強も続けば籠が緩みだし
九条の縛りがゆるくなる不安
ゆるゆると地球を攻める温暖化
結婚も離婚もハンコ要りません
GOTOでゆるんだ隙をコロナ突く
張り詰めた空気ゆるんでいくジョーク
あぶく銭ゆるい財布で街へ出る

愛媛 黒田 茂代
大阪 岡田 恵子
兵庫 みぎわはな
奈良 安土 理恵
静岡 渡辺 遊石
大阪 内田志津子
和歌山 石田 隆彦
奈良 菱木 誠
大阪 栃尾 奏子
静岡 中前 棋人
奈良 大久保眞澄
広島 笹重 耕三
奈良 長谷川崇明
大阪 柿花 和夫
広島 田中 敬子
兵庫 岸田 万彩
大阪 上出 修
大阪 山野 寿之
大阪 長高 俊雄

ご近所はゆるい絆が丁度良い

ぬるま湯のそれも浅瀬の立ち泳ぎ

結び目の緩さよ腹が決まらない

ネジみんな緩めて聞いている小言

プライドをゆるめて母のデイケアー

ゆるい方甘い方へと人なびく

自分への採点ゆるいままひとり

長針がゆるい無職という曆

リタイアのゆるい日続くカレンダー

未体験の老いを楽しむケセラセラ

ゆるい坂探して歩く万歩計

ゆるゆるに生きてストレスなど溜めぬ

体中のネジをゆるめて露天風呂

固いネジ酒を垂らせばすぐ緩む

靴ヒモを少し緩めてひと休み

貧しくて兄のお下がりゆるい靴

強打者をかりかりさせる緩い球

ライバルがゆるいカーブを投げてる

鈍感な男が一人いる長閑

埼玉 中島 通則

大阪 森 廣子

大阪 岩佐ダン吉

静岡 米山明日歌

大阪 平井美智子

大阪 平賀 国和

大阪 小野 雅美

大阪 山岡富美子

兵庫 近兼 敦子

大阪 穂口 正子

大阪 伊達 郁夫

岡山 藤井 智史

大阪 石田ひろ子

大阪 今村 和男

兵庫 櫻井 崇史

大阪 酒井 紀華

大阪 坂上 淳司

鳥取 成田 雨奇

大阪 太田扶美代

土産屋へ鼻緒のゆるい宿の下駄

ゆるゆると西方浄土の幕上がる

佳

澄んだままゆるく流れていたい水

ゆるいカーブ描きわたしの着地点

問題は政治のゆるみ平和慣れ

ネジみんなゆるめて古里へ帰る

ゆるゆると湯治宿への自由席

人

義父からの結び目ゆるい荷物つく

地

ゆるい目にきっちり締めておきました

天

脱衣所に落ちていたのはぼくのネジ

軸

ゆるいけど放し飼いではない手綱

兼題「ランク」

産声は同じで人間のランク

兵庫 北野 哲男

奈良 渡辺 富子

兵庫 藤田 雪菜

京都 山田 葉子

奈良 安福 和夫

和歌山 三宅 保州

兵庫 堀 正和

大阪 山本加お里

大阪 谷口 義

青森 高瀬 霜石

工藤千代子 選

兵庫 上野多恵子

鯛鰯口に入ればみな旨い

ギンナンがあつてA級がんどき

ジューズ用と書かれ売られて行く母

もう米寿ランクを下げで生きている

エリートコース降りて人間取り戻す

一ランク下げて左遷の地に馴染む

自分へのご褒美今日はAランチ

星ひとつあげたい母のお味噌汁

家族葬誰を呼ぶかでまたもめる

飼犬に教えてもらうランキング

人間の都合でランクされる牛

ランク付けどこ吹く風とニラの花

中流でB級グルメ好きやねん

ランクアップをトイレ掃除で狙います

ランク付け女子は非常にシビアです

戒名のランク仏の知らぬ事

腕前は普通主婦歴長いだけ

高齢者にランクを付けて競わせる

ワンランク下げたら椅子の無愛想

大阪 松田 蟻 日路

奈良 居谷 真理子

大阪 高杉 力

大阪 上山 堅坊

大阪 小川 賀世子

愛媛 黒田 茂代

大阪 中村 恵

大阪 松尾 美智代

大阪 東 敬朗

大阪 今村 和男

静岡 中田 尚

大阪 折田 昭子

兵庫 清水 久美子

岡山 折鶴 翔

兵庫 近兼 敦子

大阪 森 廣子

京都 山田 葉子

鳥根 中筋 弘充

大阪 初代 正彦

神戸牛刻印押され聴くシヨパン

屑梨のランクを上げるコンボート

ランク付けないので趣味の域を出ず

ランクには拘りなくて美味しい飯

中流とみなが思っていた昭和

ランク付けされていたのか無礼講

偏差値が輪切りしている子の未来

ワンランク下げてふるさとあたたかい

ランクなど不要と花の自己主張

偏差値で仕分ける赤門の扉

お徳用へランクを下げる市場カゴ

ランクアップ目指して4Bを削る

偏差値で選別される青りんご

私のランクを決める骨密度

ピンからキリお葬式にもあるランク

ワンランク下で気楽に生きている

ランクインここから続く胃の痛み

おおまかにランク分けされ高齢者

楽しみはランク気にせず投句する

奈良 長谷川 崇明

鳥根 原 徳利

大阪 樋口 眞

大阪 森田 旅人

兵庫 糞谷 和郎

奈良 木嶋 盛隆

兵庫 山崎 武彦

山口 上村 夢香

大阪 小野 雅美

広島 笹重 耕三

奈良 安土 理恵

大阪 山岡 富美子

大阪 石田 ひろ子

和歌山 小谷 小雪

兵庫 生田 頼夫

和歌山 柏原 夕胡

広島 田中 敬子

岡山 大石 洋子

兵庫 吉村 めぐみ

ワンコインランチはぼくの守り神

青森 高瀬 霜石

人

いのちにランクつけていいのかトリアージ

訳ありの方へわたしは分けられる

高知 辻内 次根

雑草の花にランクのない笑顔

島根 伊藤 寿美

地

つき合い易くなったランクを下けた人

奈良 大内 朝子

副のつく役が僕には似合ってる

大阪 吉村久仁雄

自家製の味噌に梅干しAランク

京都 清水 英旺

天

夏冬でランクの変わる酒ビール

大阪 宇都満知子

ランキング上を目指せる二位が好き

大阪 齋藤奈津子

三ツ星よりB級グルメ好む舌

鳥取 竹村紀の治

軸

宍道湖のしじみにもあるランクづけ

大阪 西出 楓楽

白い歯に見とれて位置は君の下

大阪 齋藤奈津子

百歳は好きな物から平らげる

大阪 古今堂蕉子

このパズルなかなか初級終わらない

兵庫 能勢 利子

兼題「隠す」

北野 哲男 選

ランクなど気にせずゆるり生き延びる

奈良 渡辺 富子

階段に実年齢をあばかれる

大阪 鈴木 栄子

ミシランより赤提灯のおでん鍋

兵庫 敏森 廣光

神隠しみたい日々の捜し物

大阪 矢倉 五月

飛び込んでおいでA5ランクの愛

岡山 藤井 智史

隠してるつもりはないが忘れてる

大阪 榎本 舞夢

佳

人の字の形になっているランク

兵庫 敏森 廣光

隠すほどのものは無いので高いびき

兵庫 富永 恭子

ランクとはすでに無縁のご隠居に

大阪 阪本 秀子

お互いにヘソクリを持つ老夫婦

大阪 太田としお

規格外だけ美味しいミカンの黄

兵庫 木村マユミ

美人の友往年隠していた齡

大阪 片岡智恵子

シードから外れた途端ただの人

和歌山 木本 朱夏

泌尿器科ナースに隠すものがない

兵庫 福田 好文

上下関係掟きびしい猿の群れ

大阪 伏見 雅明

隠しても張合いも無い独りです

鳥取 竹村紀の治

上下関係掟きびしい猿の群れ

和歌山 松原 寿子

体形を隠すファッション流行です

奈良 小西 貞子

思惑が見え隠れする言葉じり

謙遜の裏に本音が見え隠れ

風呂敷とマスクはでかい方がいい

隠してもそろそろ酒が喋り出す

隠し口座ばれて宝石買わされる

雑所得妻には言わぬことにする

隠しても不思議に顔へ出るころ

要るんですまさかの事への隠し金

真実がフェイクニュースで隠される

隠しても言葉の端に出る本音

隠し事平常心にスキ作る

隠すから暴いてみたくなるのです

隠されると暴きたくなる性である

隠すべき事は隠して一代記

昭和史に隠し切れない一ページ

こころの傷ひとつ隠して逝く花野

辞して猶疑惑も消えぬ元総理

隠す場所窮した時はシュレツダー

意図隠し法律作る権力者

大阪 松田 蟻 日路

鳥 取 門 村 幸子

青 森 高 瀬 霜 石

島 根 岸 桂 子

兵 庫 松 倉 正 美

兵 庫 岸 田 万 彩

兵 庫 藤 田 雪 菜

兵 庫 奥 澤 洋 次 郎

大 阪 長 高 俊 雄

神 奈 川 加 藤 佳 子

兵 庫 福 田 正 彦

和 歌 山 柏 原 夕 胡

大 阪 出 口 セ ツ 子

京 都 清 水 英 旺

大 阪 石 田 ひ ろ 子

大 阪 松 尾 美 智 代

兵 庫 多 田 雅 尚

奈 良 安 福 和 夫

大 阪 平 賀 国 和

真実を隠す政治とカネの闇

黒塗りの文書尻尾が見えている

黒塗りで隠蔽された公文書

隠蔽の体質変わらない政府

カーナビが隠せぬ証拠握ってる

逃げ道を隠していそう契約書

入院を老母には告げず置く受話器

胸のうち感動隠し涙拭く

帯キリリ秘めごと守り抜く覚悟

手料理に一手間妻の隠し味

忍従の母が隠した笑みの奥

何かありそう不思議な母の小抽斗

隠し事それやありますよ男です

目の奥に辛い記憶を隠しもつ

強がりでたんと有ります隠し事

日和見をさとられぬよう懐手

隠したらあかん肩の荷重くなる

手短に言います「嘘はバレてます」

リスが隠したどんぐりが発芽する

広 島 笹 重 耕 三

奈 良 大 久 保 眞 澄

埼 玉 中 島 通 則

大 阪 村 上 玄 也

兵 庫 幸 田 厚 子

広 島 松 尾 信 彦

大 阪 島 田 明 美

大 阪 山 口 弘 委 智

兵 庫 山 崎 武 彦

広 島 小 川 道 子

大 阪 水 野 黒 兎

大 阪 柴 本 ば つ は

徳 島 小 畑 定 弘

和 歌 山 木 本 朱 夏

大 阪 穂 口 正 子

大 阪 奥 野 健 一 郎

奈 良 山 本 昌 代

岡 山 工 藤 千 代 子

大 阪 宇 都 満 知 子

饅頭の下の小判が本音です

隠してた胸の火の鳥いま放つ

誰も真似出来ない母のかくし味

七億円当ったことは内緒です

後ろ手の花束見ないことにする

佳

左遷地で腕上げてきた隠し芸

隠さずに話した方が楽ですよ

隠すこと覚え苦労が始まった

隠されたワードを探る広辞苑

隠してもいつかは語り出す歴史

人

喝采の中に隠れていた嫉妬

地

元気だよそれだけ言った電話口

天

隠してもオーラでてるよお幸せ

軸

衰えを隠しきれない卒寿です

大阪 上出 修

岡山 藤澤 照代

愛媛 黒田 茂代

兵庫 堀 正和

大阪 高杉 力

和歌山 三宅 保州

大阪 坂 裕之

大阪 山岡富美子

大阪 油谷 克己

島根 竹治ちかし

兵庫 生田 頼夫

兵庫 上田ひとみ

兵庫 近兼 敦子

兼題「わがまま」

人間のわがまま正す新コロナ

わがままも言ってほしいと恋始め

わがままも可愛いものという器

わがままに育って職が定まらず

わがままを言える相手とランチする

わがままは妻の手のひらだけで言う

わがまま言って時どき愛を確かめる

わがままのあいこ絆が温かい

鈍行に乗り換えわがままに気付く

わがままと言わず個性と呼んでいる

わがままなボクの上司は七光り

わがままが旅のプランをわやにする

来世では別々の道歩こうよ

深掘りの底わがままな水の音

わがままが多くて軋み出す地球

言い分もわがままもあろう戻り花
わがままの後で鏡に問うてみる

米山明日歌 選

大阪 内藤 憲彦

大阪 今村 和男

大阪 中村 恵

大阪 樋口 眞

兵庫 能勢 利子

大阪 岡田 恵子

大阪 松尾美智代

大阪 山野 寿之

大阪 矢倉 五月

兵庫 米田利恵子

大阪 太田扶美代

徳島 小畑 定弘

兵庫 瀬島流れ星

大阪 小野 雅美

和歌山 小谷 小雪

島根 竹治ちかし
大阪 高木 道子
愛知 富田 末男

わがままを通せる程の気力持つ

長生きの秘訣わがままお婆さん

わがままを通せば起こる輪のゆがみ

わがままも通る回復期のベッド

身勝手な叫びに飢返事せず

わがままと知って甘えた日和下駄

わがままのお詫びに今は花と水

人類のわがまま叱る温暖化

究極のわがままだろうおーい酒

うち以外見せんといてねその笑顔

「わがままをもつと言うてよ」お亡母ちゃん

但し書き付けてわがまま許す酒

これ以上汚さないでよ青い海

コンビニとチンだけあれば妻要らぬ

何もかも全部欲しくて眠れない

週三日程なら傍に居て欲しい

わがままを言えなくなつて背が縮む

イントロを聴いて乗っ取る他人の歌

究極のわがまま通し国を割る

温水に入りたいよと雪だるま

鳥 飯野 菖子

大阪 横山 里子

大阪 阪本 秀子

大阪 石田ひろ子

大阪 柿花 和夫

大阪 森 廣子

鳥取 竹村紀の治

兵庫 櫻井 崇史

島根 原 徳利

大阪 山野 双葉

広島 田中 敬子

兵庫 村田 博

兵庫 敏森 廣光

兵庫 永田 紀恵

兵庫 上田ひとみ

大阪 平井美智子

大阪 山岡富美子

兵庫 岸田 万彩

神奈川 加藤 佳子

大阪 水野 黒兎

独りは嫌だけど一人でいたい今

極楽に二泊三日の旅したい

四捨五入都合いい方残しとく

駄駄をこねわがまま通したい野党

みな使うて百迄生きる言うてはる

コオロギの名が決まらない独裁者

老人会に入らない八十五

骨太の男わがままだった夜

三角のわがまま許すマル四角

スナックに行きたいと言う腹の虫

わがままは聞き飽きました冬苺

わがままのリストを渡す朝帰り

コーヒーは95度で出してくれ

口づけで塞ぐしかないバラの棘

佳

わがままの進化が創る原子力

わがままな猫だと念を押したはず

せめてものわがままでした家族葬

我儘な雪女ですと荒れ狂う

厳しさに長寿がない警察犬

大阪 大島ともこ

大阪 川端 一步

大阪 岩崎 公誠

島根 中筋 弘充

大阪 古今堂蕉子

長野 西沢 葉火

大阪 徳山みつこ

静岡 水品 団石

奈良 木嶋 盛隆

鳥取 新家 完司

和歌山 木本 朱夏

静岡 渡辺 遊石

大阪 鈴木 栄子

大阪 美馬りゆうこ

大阪 西村 哲夫

兵庫 富永 恭子

佐賀 仁部 四郎

青森 稲見 則彦

大阪 太田 省三

人

わがままを三百議席手に入れる

地

人間が真ん中という地球

天

不等辺三角形のまま生きる

軸

わがままな固さのままで春を待つ

兼題「愉快」

大晦日「ガキの使い」を観て笑う

はるばると八十歳のお正月

お金はある夫はいない寝正月

食べてすぐ寝たら牛より豚になる

喜寿すぎて孫から貰うお年玉

愛妻に似たりと思う福笑い

外人が寺で柏手打っている

赤ベコもマスクをつけて愛らしい

嫁にすべて渡し自由の大欠伸

静岡 中前 棋人

高知 辻内 次根

青森 高瀬 霜石

新家 完司 選

和歌山 柏原 夕胡

兵庫 山田 耕治

大阪 きとうこみつ

兵庫 斎藤 隆浩

大阪 齋藤奈津子

兵庫 稲角 優子

鳥取 田中 重忠

愛知 小松くみ子

岡山 藤澤 照代

カラオケで百点取った旅のバー

タイガース勝ってビールは七杯目

愉快なり金満巨人負けた日は

二年連続4タテを食う巨人

愉快には仲間と酒と唄が要る

オンライン飲み会だつて笑えるよ

発泡酒でも歌えるし笑えるし

悪友と一升瓶とピーナッツ

もう一本欲しい処に二合瓶

飲んだならかならず踊り出すあなた

酒飲んで塩ラーメンで締めくくる

居酒屋の愉快もうちの灯りまで

孫に背を越されることも愉快なり

子に負けた指し手を自慢してまわる

本人だけ愉快に思う親父ギャグ

上機嫌やつて来てみな上機嫌

両手添えお迎えポーズうちの三毛

三代目の猫は名前を間違われ

眠る前に猫の動画でハッピーに

大阪 水野 黒鬼

岡山 藤井 智史

兵庫 大坪 一徳

大阪 鈴木 栄子

鳥取 竹村紀の治

和歌山 木本 朱夏

大阪 岡田 恵子

大阪 枋尾 奏子

兵庫 生田 頼夫

奈良 中堀 優

奈良 木嶋 盛隆

兵庫 萩原 狸月

大阪 原田すみ子

大阪 平井美智子

和歌山 石田 隆彦

鳥取 斉尾くにこ

奈良 小西 貞子

奈良 加藤江里子

大阪 穂口 正子

— 95 —

おどろ城

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

証掩隠滅皮まで食べる桜餅
泣きべそもカメラ向けるとピースする
脳みそを描けば灰色のコンニャク
仏壇で拝み教会でアーメン
蕎麦も百回打てばうまくなる
キリストも仏も拝む多国籍
欲もなくただ手を合わす母卒寿
鼻水も一緒に吸る味噌ラーメン
拝まれて貸したお金が戻らない
合わす掌の中に仏様が降りる
人間を描写できたら小説家
見た目には猫だが虎の気概持つ
他府県へ家族旅行をひた隠す
テレワーク畑の草は伸び放題

くにこ 順子 芳山 楓花 寛 寿代 八千代 紀の治 幸子 芳光 余光 みちを ゆたか 麦青

婆さんの手抜きチキンラーメンだ
隠してた本音を言うとな命とり
眠れない見つかるかなと隠し金
眉を描く左右が揃うことがない
宇宙へ飛ぶ私より先ラーメンが
大山と日本海を拝んだる
面影を描いて恋が弾けだす
妻聚り人生描くピカソの絵
リフォームで古い柱の傷隠す
雪はまだ秘密隠したままでいる
昇りくる朝日を拝み切る芝生
拝まれて人手不足の袋かけ
奥さんを年がら年中拝んでる
蕎麦好きで種まき作り麵を打つ
神仏拝んで夫の痛封じ
執刀医拝むしかない手術台
トイレでもゆつくり食えるカップ麵

照彦 富隆 雄大 風露 けいこ 石花菜 美ツ千 隆昌 道春 小鹿 重忠 久子 清明 希楽良 コスモス 規雄 完司 黒兎報

ほたる川柳同好会(大阪)水野

黒兎報

理屈屋も時に魅かれる絵空事
モナリザがマスクで隠すあの微笑
モンマルトルの絵描きが描くピカソ顔
絵ろうそくもつたいなくて使えない
森さんの逆ギレ今日も風刺画に

満天の星が呼んでる過疎の村
父呼びに行つた息子もバチンコ屋
マスクマスク出かける夫を呼び止める
黒豆がまだ残ってる冷凍庫
まだ不安ワクワクン接種高齢者
四十年まだわからない夫の洒落
豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報
冬銀河マスクの下の紅を差す
学んでもさっぱり話せぬ英会話
久しぶり明日は予定人つてる
持てる人持てない人にも明日は来る
踊いた弾みに返事してしまふ
明日にしようそれは駄目だと言う左脳
あなたいい味よ苦勞をしたんだね
妻の愚痴相槌打って聞き流す
目が冴えて明日が怖い受験生
恋文ですネ花の形の古代文字
ワクチンで明日への希望持てそうだ
明日からと言わず今日からでは如何
親子してさりとていかぬ反抗期
さらりつと流せる度量磨かねば
よく弾むボールは先がよく見える
街ピアノ弾む指先止まる足

宏造 奈津子 春代 正子 郁子 純子 くらり 義明 崇史 敏昭 利恵子 堅坊 弘 利子 狸月 真桜子 忠子 見清 玲子 ふりこ 和郎 廣光

悔い残る過去をオブラートに包む 満作
 やる事がいつばいあすがお楽しみ 英旺
 とばかりがからぬように身をかわす 光久
 年金前もやし炒めが好きになる 勝弘
 心弾む未知との出逢い宇宙船 洋志
 手を挙げてマस्क同士が擦れ違う 肇
 焼き肉の後はさらりと梅茶漬 黒兎
 頑張りやさらりと言われやる気出る (福)正彦
 下駄が表になるまで蹴っていた餓鬼よ 和宏
 病を得てやつと自分に向き合える 則彦
 コメントもサーブも弾むなおみ流 (初)正彦
 好奇心老いの心を弾ませる (山)武彦
 いやなことさらりと忘れ前を向く 弘委智
 何もかも知っていたよと抱きしめる ひとみ
 何があっても母は明日の米を研ぐ 美智代
 夢に向かつて弾んでおくれランドセル 美津子
 老いてなお弾む日のあり恋心 (水)玲子
 わだかまりさらりと捨てて春の川 ヨシエ
 ああコロナ明日は我が身かも知れぬ 哲男

城北川柳会(大阪)

近藤

正報

八十路でも温めた夢は発芽する 信子
 母の目がほんとのことを喋らせる 宏造
 母は子をは母思う雨ざんざ 志華子

小さな夢ロールキャベツに閉じ込める 野鶴
 夢ん中空を飛んでる車椅子 朝子
 デカい夢毎日聞ける縄のれん 五月
 少しだけ手助けすれば夢は咲く 弘委智
 腕時計外し今日から自由人 博
 高い夢でしたピアノは買っただけ かずお
 恵方巻十本巻いて鬼退治 利子
 パージンロード汗びつしりのお父さん 福貴子
 履歴書に気力あふれた顔を貼る 洋志
 新調の入れ歯でまずはお煎餅 和夫
 真実をうやむやにして辞任する 満作
 コロナ禍の七月五輪抱く不安 賢子
 憲法と米と水とが傲慢です 一歩
 分岐点振り向く老いの嘆き節 肇
 水道の水で薬が飲める国 ルイ子
 自粛すらできずネットで吠えている 実
 豆まきも屋台も自粛観音様 満知子
 いざ出陣ゆるい裨締め直す 克己
 コロナ禍で家族でテレビ花ざかり 麗
 そのうちにみんな死ぬんだお氣楽に 峰子
 子を持った嬉しさ重さ人の親 俊雄
 コロナ禍でそろばん弾く悪巧み 久美子
 年明けにメダカの家族やって来た 万紗子
 笑いたい未だ笑えない霧の中 廣子

鴨田昭紀選

自己主張し過ぎませんか青蜜柑 千鶴
 ふる里の山河に詫びて暮じまい 敏治
 日の丸を掲げ変人だと言われ 蜂朗
 花のある人には花が寄ってくる 久直
 インターネットつい道草をしちゃう 和宏
 倦怠期過ぎていつしか助け合い 卓郎
 大好きな人に見られた大あくび (小)雅美
 鮮やかにここぞで締める撥刺き ふりこ
 幸せの手前になると良く転ぶ (南)弘子
 食べて寝て歩く私のルーティーン 志津子

佳句地十選

(3月号から)

金子 美千代 選

選別にもれたみかんの旨いこと よしこ
 ふと思つ騒ぎたいな一飲みたいな 満知子
 納得はしないが多数決だから いさお
 笑顔だが心の底が気にかかる 貴恵
 聞いてしまった本音は胸に仕舞い込む 光久
 日々感謝してます愚痴もこぼします (石)美恵子
 うっかりと生きてきました百一歳 宏造
 安らかに眠れ私の中の鬼 芳光
 世界平和まず嫁はんと仲直り 六點
 逢える日は花にたつぷり水をやる ひろ子

終活の仕上げへ戒名を決める

恵方巻半分ずつで事足りる

きつちりと正方形で生きてます

叶つても困る大きな夢を抱く

見ないでね私の日記非常口

コロナ禍は辛抱しかない処方箋

オレオレへほんまは誰とおばあちゃん

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

マスク下の紅一筋が見たくなり

まだまだ上めざす聡太の夢無限

伸び代がまだまだであると背を押す

鍋のぞく子にまだまだと笑いかけ

老いたとて未だ青雲のころぞし

ままごとをまだまだしたい二人です

人が好きまだまだ賀状減らせない

一番初め氏神様へ願ひ事

一筆が心と心つないでる

胸キュンの魔法にかかると一目惚れ

ろうばいが一葉残して花開く

一連托生みまで収賄怖くない

義を見れば一も二もなく出す勇氣

一と書く漲る風に立ち向かう

一握の砂故里の浜思う

星雨

宣子

廣光

堅坊

郁夫

正彦

満洲夫

洋二

一步

栄子

直子

北朗

心平太

楓楽

シマ子

忍

朝子

郁夫

敏治

正

ダン吉

克己

一から十まで喋ったあとに騙される

残り火がまだまだ燃えている米寿

朝ごはん今日の元気をチャージする

コロナにも負けず元気に呑んでます

句を束ね元氣届けるあかつき誌

元日に金剛山で樹水見る

マイウエイこころ行くまで楽しもう

寒椿一輪挿して冬籠り

目力で元氣確め合うマスク

自家農園元氣の種が埋めてある

腹心の部下が密かに爪を研ぐ

川柳のネタはゴロゴロ菅政治

GoToのツケを飲み屋に支払わせ

今はもう普通に生きる難しさ

自粛にも馴れてじつくり豆を煮る

戦争をする大人ってバカだなあ

民主化の波が遠のくミヤンマー

一呼吸置いて目を見て子を叱る

目の中のまだまだ消えぬきのこ雲

一番でなくてもいいよ二番でも

川柳塔まつえ吟社(島根)相見

休みなし毎日好きに生きてます

休日もゆつくり出来ぬ畑が待つ

太陽の秘密のなさに生かされる

口留めの秘密にたつた酒二合

あちこちの秘密小耳に貯めている

完熟の桃は秘密を抱いている

窓開ける勇氣があれば動く風

風裏にこんな温い椅子がある

氷河期に入らぬほどにする喧嘩

失言が氷解する日じつと待つ

かき氷美し過ぎて手が出ない

うす氷踏んで人間深くなる

ビチビチの桃色になる風呂上がり

メール待つ頬をピンクに染めながら

百本の髪五本だけピンク色

愛車はピンク恋を拾いに出かけます

飲み会はピンクの文字で書いてある

桃色の饒舌何となく許す

長柳会(大阪) 辻村 ヒ口報

論吉様お会い出来るとう上機嫌

お互いに手綱緩めて機嫌とる

機嫌とる時には何か隠し事

手段など選べぬ妻の機嫌とり

ご機嫌をとって本音は内に秘め

パパとママ一緒に家でテレワーク

柳歩

徳利

知恵子

芳山

瑞人

雪代

弘充

豊仙

あきら

桂子

久絵

モナカ

青帆

美智子

みちを

とも子

ヒ口

由夏

幸子

ともこ

隆彦

靖博

ステイホーム売り言葉には買ひ言葉 孝代
 外食後うがい菌みがきどつちから 邦夫
 帰省せぬ息子の姿オンライン 登美子
 雪が舞う桜咲きだす季節問う 規之
 無理をして飾る必要ない気楽 千代
 どうせなら恵方巻より上にぎり 孝
 手作りチョコ失敗作はババ用に おくみ
 土筆喰む春の命の深い味 澄子
 挟み撃ちお腹と腰に貼るカイロ 秀子
 鎮座して主より威張る鏡餅 たけし
 浮気ばれ記憶はないと狸寝る 由子
 別れぎわまたねと軽い嘘をつく 正博
 梅が咲き目白の飛来待ち遠し ゆき
 九条で平和の鐘が鳴るといふ 光弘
 はやぶさ2無窮の手柄玉手箱 三和子
 トランペット神戸の空に鎮魂歌 洋二
 フードロス横目に飢える子のニュース ふみ
 ゼロが好き可能性なら無限大 直樹
 錆びついた五感にエール送ってる 和代
 左遷へ風が送った無人駅 和子
 歓呼の声で送られ征った学徒兵 淳司
 面会もできぬ見送りあゝコロナ 正美

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

崖縁を助ける妻の知恵袋 光久
 袋には罪も宝も入れてある いわゑ
 笑い袋さげて友達ひょいと来る 野鶴
 消毒と検温をして帰る家 利子
 さあ前へきつと涙も宝物 ひとみ
 ハンカチの四隅きつちり合わす父 宣子
 机上論賊飛ばし現場見えて回る 正彦
 きつちりとトイレは消した筈なのに(編)弘子
 玄関に装きつちり靴並び 邦男
 ありがと一時停止をする車 正和
 風の子も陽の子も減った塾通い 哲男
 何もうわすお守りそとくれた君 廣光
 みな集う大樹になれと父の声 千賀子
 お袋と呼んだ時から独り立ち 紀華
 黒電話回すと亡母の声がする 武彦
 きつちりと割勘にする間柄 盛夫
 一斉にスマホ構え待つ日の出 新録
 初日の出柏手揃う三世代 一徳
 きつちりとは見分けつかない三姉妹 りこ
 日の出あび つばみふくらむ梅一輪 あい子
 日の出など知らぬ息子の朝寝坊 敦子
 一年の無事を折った御来光 野薫
 手を合わす心豊かになる日の出 修
 日の出には間に合いません夜型で みよし

経済より命あつての物種よ 勝弘
 男前やなきつちり背広着た我が子 富次
 寝正月きつちりを捨てゆるめると 健彦
 寝袋の夢は明日へと続く山 昭九朗
 開いてます舅を叱る冷蔵庫 美津子

川柳打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

葉が落ちて心さむざむ冬木立 紀美恵
 だんだんと腰曲げ杖つきとこいしょ 久芽代
 部屋籠り間借りしているようなもの 大鯨
 だんだんと春に近付く陽が昇る 陽之助
 だんだん細る妻の今わの脈を診る 重忠
 石段をだんだん上がり神様だ 紀子
 団団たる数秒間のしゃばん玉 龍枝
 祝い舟おはこの上司縁も切れ 義人
 祝いに手縫いのマスクそえてやる 美知江
 祝誕生九十余回でもういいよ 貴恵
 何の祝いも赤飯炊いてある 節子
 ただ一人祝う私の誕生日 芳光
 GoToで三朝温泉超安い 照彦
 無信心それでも一度遍路旅 滋
 軽トラで他の水を見て回る旅 重利
 足かんだ靴を脱ぎ捨てぞうり旅 久芽代
 あの世への旅もやっぱり酒が要る 完司

旅先は言えないけれどすぐ帰る

三津子

巫女さんもバイト正月三日

佳子

方形を丸めて足の爪を切る

幹子

よたよたと人生の旅八合目

石花菜

食レボの倍と探しているニート

八茶

本に付箋つけて師走の米を研ぐ

起世子

この世での旅は現在進行形

くにこ

アルバイト募集に応募した社長

保州

赤信号とつても怖い救急車

保州

川柳塔わかやま吟社

小谷

小雪報

和歌山三幸川柳会

西川

千鶴報

絶景は目に入らないプロポーズ

精子

きみと僕だけが知っている信号符

准一

強くならう根雪を溶かす大地あり

あき子

深読みをやめて一面青い空

知香

芝居小屋主役が滑る紙吹雪

かず子

赤信号母ちゃん諭す可愛い子

悦男

リヤカーの荷台から見た陽のかさ

小雪

信号は青青春の滑走路

純子

遺産より生前贈与せがまれる

義泰

絶景に見とれて足を踏み外す

ほのか

戦前の教育こびり付く亡者

まき

郷愁は雪合戦と雪だるま

彦弘

行進の一糸乱れぬ不気味さよ

大輪

信号がつかぬ絆というタスキ

八重子

里は雪母の雪話はもう来ない

ダン吉

獅子舞の乱舞に吾子の泣きわめき

節子

小言いう私に妻は目で止める

一雄

雪国は見ると住むでは大違い

眞智子

鬼の霍乱思わぬ君の病む便り

富美子

駅前の寂れが語る過疎の町

敏照

この辺で折れたらと妻の流し目

みつ江

蟻の巣と知らずに入れた鉄の先

悦男

黄信号違反切符と紙一重

日出男

当たり前と思わず感謝して食事

和美

コスモスもときめきながら乱舞する

よしこ

持ち前の明るさ武器に夢を織る

宏枝

カタルシスほどの雪待ち望む

よしこ

繁盛店バイトが全て仕切ってる

寿子

信号を渡り切れたらきつと暗れ

富香

信号の役目ははたす妻がいる

康則

命日にバイトの僧侶経を読む

和宏

前触れが無くてもおこるのは自然

和子

雪景色虚飾も罪も包み込む

千鶴

バイトです責任なんて持てません

准一

信号は赤考えなおす正念場

理恵

専と博その接点が分らない

則彦報

この不況掛け持ちしてるバイト先

夕胡

暇なのに赤信号に焦がれている

当代

欠点を隠し笑顔の見合い席

隆樹

年末は時給アップと力瘤

晶子

窓の雪ひとり暮らしの母偲ぶ

ひろ子

点滴の生死彷徨ボタボトリ

初枝

ぐうたらな亭主にできるバイトどこ

明

好奇心必ず一番前に居る

智三

父似母似も同じ素DNA

のぶよし

みかん握ぐバイト頼りの老農家

紀子

信号が青でも徐行しています

昇

返り点ばかり打ってる老いの愚痴

黙人

学校で英気養いさあバイト

日出男

信号が青でも徐行しています

昭枝

何ひとつ変わらぬままの道しるべ

真由美

よく仕事出来てる方がバイトです

繁子

連れ添うて火の輪水の輪くぐり抜け

昭枝

何ひとつ変わらぬままの道しるべ

真由美

シナリオを描き直しても同じ道

霜降りた事は知らない朝寝坊

道草の話を好きなかたつむり

年始いつも願うよ健やかに

まだ月も酔い足りないで踏んだ影

自己評価満点つけてまた一年

ロボットに採点される近未来

呑み過ぎた同じ会話に妻激怒

コンパスの支点にチャップリンが棲む

早合点あげくに尻尾つかまれる

豹柄の同じパンツで闊歩する

美しい双子姉妹と言う乱視

はたちから一氣にきました七〇才

点と点結べば母になる星座

交差点脚力の程試される

低空で赤点回避した昔

荒稼ぎする長靴に点火する

点滅の始まる前にお片付け

赤点を取った友が社長です

ハナマルは百点よりも上なんだ

空振りの後で発酵する奮起

面持ちがさすが双子でそっくりだ

古希前に元氣と願う一年に

来るなどは言えない弱み孫見たさ

柳子

ふさあ

島

澄子

花峯

孝子

京子

重虎

霜石

洋子

一呑

風来坊

和香子

慕情

美鈴

規子

ひとし

吹喜

龍馬

ひろ

吞舟

友二

久美子

英子

川柳塔さかい(大阪)

内藤

憲彦報

楽な方選んでいつも悔いている

選んでる場合じゃないよ二度目婚

この道と決めたが努力報われず

虐待へ子どもは親を選べない

党首選義理と欲とのせめぎあい

選りすぐりのカタログみんな美味しそう

コロナ鬱断ち切る術に派手を着る

濁り酒冬には冬の味を持つ

冬の日に錆びる気がしてストレッツ

受験子へエール夜更けの虎落笛

もう五分寝たいと思う冬の朝

心臓を鷲掴みする寒の水

毎日が生乾きです冬こもり

自粛中何とはなしに毛糸編む

はがらかに密談してる立ち話し

はがらかに手話の二人の別れ道

帰ったらむつかしい顔してるのに

しあわせが顔に出ている笑い声

はがらかな母さんしわを気にしてる

逆転負け九回迄は笑ってた

友からのはがらかな声いやされる

逢いたくてついつい書いた冬だより

好きなのか邪魔か炬燵の中の足
美しく心を洗う冬の月

耳鳴りは悲しい冬の音がする

リモートでできない里の雪降りし

独り居に倦し慕るもがり笛

冬最中コロナ暴れて街静か

特措法世論を浴びて立ち上がる

とりあえず弱音吐かず助けあう

共に泣き喜ぶ友に助けられ

取り囲み寄ったかたて頼み込む

鳥が来た良き日よ春の佇まい

取りあえずようさん食べてたと寝る

遠い日をよみがえらせる竹とんぼ

はびきの市民川柳会(大阪)藤原

大子報

根まわしのヨイシヨイシに負けました

持ち回り役員当り四苦八苦

長びく不況幹部の椅子も危ぶまれ

役員の成り手に悩むPTA

輪番の町会長がよく動く

役員は次期留任で拍手湧き

責任を取らぬお方は不向きです

報酬につられ役員引き受ける

開会式胸のリボンが誇らしげ

美津子

朝子

扶美代

時雄

進

光雄

満作

満知子

さくら

五月

みつこ

志津子

雅明

理恵

ひとみ

シルク

久仁子

ダン吉

正義

勝弘

まつお

ちづる

英語とスマホ出来る若手を役に就け
A I が社外役員務めます

久仁雄
冬のト

異議ありと上げた拳が宙に浮く
無責任な言葉吐き捨て負わす傷
三つ編みを解いて少女から女

和子
高鷺

へまばかりハハハと飛ばし若く居る
議事堂のしどろもどろは笑えない
コロナ収束笑い合いたい春よこい

弘子
敬子
千代美

退き際に役員真価見せている
役員になれたのででなくならされた

楓 楽
いさお

新コロナ終息に向け編んでいる
正音も異音も許しているタクト
母がいるただそれだけで風が止む

一文
澄子

笑つてる遺影毎日エールくれ
平凡な暮らしれば世界笑む
苦勞など笑い飛ばしてきた夫婦

比呂子
慶子
昭紀

玄関の落ち葉を拾う冬の朝
拾いものの人生などと照れてはる

さくら
扶美代

違うって誘惑ですわ白いちこ
丸くなるまで人間を編む修業
コロナ禍の収束願ひ杜寺参り

かこ
奏子

りんこ一ツ手紙と共に置いてある
天からの手紙のような初春の雪
読み終えて心ほどける友の文

笑子
栄香
幸子

落ちているゴミは拾わぬ収集車
拾っても綺麗にならぬ嘘の山

フジ
宏造

ひとつまみ嘘も方便かけて華
診察券集め夫婦で七並べ
そろそろに春の息吹が舞う修二会

欣之
清

次の世へ絶対残すこの手紙
今は昔田圃に家に牛がいた
天満宮の牛を撫でてはみたけれど

栄香
幸子
節生

踊いた石は記念に持ち帰る
凡人を拾ってくれた妻感謝

一步
洋一

ひとつまみ嘘も方便かけて華
診察券集め夫婦で七並べ
そろそろに春の息吹が舞う修二会

文重
きみ子

牛すじの旨い居酒屋時短する
本当は一番だった牛の私語
牛豚をあひびきという人の闇

節夫
節生
幸子

コロナ禍で人の情に拾われる
数多の神に拾われてきて八十路

一文
みつこ

診察券集め夫婦で七並べ
そろそろに春の息吹が舞う修二会
魂のシャベルで過去を掘り起こす

由夏
よしみ

牛すじの旨い居酒屋時短する
本当は一番だった牛の私語
牛豚をあひびきという人の闇

宣之
夢香
淑子

幸せを拾う笑顔とありがとう
誰か拾ってください私の孤独

大子
こみつ

魂のシャベルで過去を掘り起こす
ユトリロの白ゆつくりと息を吐く
ここまでと通せん坊の整理券

正治
常男

霜降り肉になるのが牛の夢
流されずどしりゆきたい丑の年
誕生日スパークワイン弾けます

白狐
京子
輝恵

黙々と子の歩む道石拾う
空腹で食べる時には皆グルメ

千鶴子
瑠美子

ユトリロの白ゆつくりと息を吐く
ここまでと通せん坊の整理券
例えばと親父言ひ出し散る家族

隆充
きよみ

霜降り肉になるのが牛の夢
流されずどしりゆきたい丑の年
誕生日スパークワイン弾けます

輝恵
京子
歩美

大阪の子やから生まれつきグルメ
グルメ通口は肥えるし身も肥える

美代子
かつ美

例えばと親父言ひ出し散る家族
そのまますた夢現実へ一つずつ
バケツトリスト夢現実へ一つずつ

良恵
章子

霜降り肉になるのが牛の夢
流されずどしりゆきたい丑の年
誕生日スパークワイン弾けます

厚子
貞子
初音

富柳 会(大阪)

山野 寿之報

厳寒の和らぐ梅の初開き

主

風が編み上げた私という女

恵

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

大家族まさか一人になろうとは

史子

マフラーを編むと暖冬二年越し
人と人絆を繋ぐ鎖編み

武人
寿之

福笑いふたりぼっちのお正月

蘭幸

説明書ください反抗期が来たぞ
そうじするとしのかみさまくるからね

五歳
ちか

南大阪川柳会

松岡

篇報

デイスタンス一筆箋を何度でも
デイスタンスハグも握手も忘れそう
距離とつて新たな自分見えてくる
初詣で鈴を振るにもデイスタンス
密避けてダブルベッドを止めました
遠くから眺めるだけの片想い
デイスタンスマスク同士が目で話す
デイスタンス取りましようねと微笑まれ
いつまでも密でいたいな君と僕
10万円タンスの隅であくび中
みどり児が産湯につかり大あくび
あくびする客へ高座は汗まみれ
自粛するネクタイ外す大欠伸
どやされた父のレールを歩いてる
支持率のパンチ食らって大慌て
前向きの友に背中をどやされる
どやす人もいなくて一人茶をすす
ありがとうどやしてくれた友がいる
地上はコロナ空飛ぶ鳥がうらやまし
カラットの光り横目でちらと見た
わたしよりご馳走食べるうちの犬
うらやましい思う時点で負けている

ルイ子
大子
亜成
志華子
東風
国和
柳右子
昌紀
実篤
いさお
克己
弘子
一步
歌留多
通江
あや子
ダン吉
シマ子
ばっは
よしみ
ひさ乃

オーイ雲よお空にコロナないんだね
手花火に闇の瞬き明日を見る
GOTOは停止相撲に癒される
がんばった我を労る日向ぼこ
なんだなんだ上げ底でした新総理
コロナ禍も自然は春に向け動き
令和の名このご時世にそぐわない

岩美川柳会(鳥取)

山下

節子報

咳ばらい答さがしているのです
悪い鬼ことし節分遅刻する
スキヤンダル起こすは金と色欲だ
節分の鬼もマスクし逃げまどう
溜め込んだ不平不満が咳になる
人混みでマスクなしでの咳脱む
鬼よりも怖い女のおしゃべりよ
諦めずいつかいつかと夢を追う
前を見よなせ諦めるまだ若い
諦めることを知らない雪の下
トランプ氏諦めきれず最後つ屁
咳くしゃみしながら老いの日向ぼこ
お聞きにせよと上司の咳払い
のど飴が咳を嫌ってこぼれ落ち
スキヤンダル聞いて世の中いになり

敏治
弘委智
柳伸
峰子
勝弘
直子
楓楽
一瑤
一平
凱柳
重忠
完司
弘六
美恵子
たぬ
昌子
幸安
敏子
茶子
真理子
振作
雅女

天和を味わいましたスキヤンダル
鬼ごっこ母はいつも鬼にされ
赤ちゃんの咳家族みんながのぞき込む

彰夫
蟹郎
節子

川柳茶ばしら(愛知)

関本かつ子報

朝ヨガに手足解してスタートだ
人間は不要不急で生きている
少しづつ削いで身軽にしたい義理
凡人が作った駄句に光があたる
太陽光パネルをのせる広い屋根
日本へ来るワクチンの遠回り

雅美
遡行
美千代
三樹夫
まみ子
かつ子

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下

凱柳報

三つ編みの似合う少女の居た昭和
懸命に生きております老い独り
まだそこに亡父が居そうな父の椅子
年女探して着てる赤い服
飽食に溺れ鼠も捕らぬ猫
ひとつ歳取れば薬も一つ増え
じつくりと父が練っているいい思案
コロナという不気味な魔物荒れ狂う
コロナ禍で翼休めた全日空
傷ついたつばさ抱くだけしかできぬ
つばさつげ早くゆきたい孫の家

みつ子
重忠
一誠
紀美江
壽峰
鐘旭
妻子
由美子
白兎
みゆき
回春子

期限切れ喫いで舐めても尚不気味

子の誕生どの子も違う命懸け

ネオン街で娘に出会い酔いがさめ

遠い耳わかつたふりでうなづいて

てこせねば弥生町の灯が消えますぞ

おふくろが内職するとしてをした

青い空土筆ひよっこり顔を出す

令和二年聡太が多い新生児

難産を耐えて生まれた快男児

臨月の胎児へ聞かすシューベルト

真夜中に妻が正座で出迎える

幕尻が不気味に白を重ねてる

姥桜つばさ全開したい春

姿形みせずコロナが忍び寄る

鶏の翼奪ったのはヒト科

てごばかり私の青春親替わり

折らねば今折らねば風になる

頑張った私とハグをする夕陽

産む痛み耐えて女は強くなる

SNS覆面ゆえの毒不気味

華やいだつばさは過去を語らない

好奇心あつてつばさがためたない

拉致の子よつばさ広げ飛び帰れ

浮いて沈んで徘徊までもする五欲

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

花のある人には花が寄ってくる

入れものでいろんな型になれる水

僕がした掃除で雨は降らせない

老眼を味方につけて大掃除

鍋奉行コロナのせいで失業だ

バスツアーしずまりすぎて夫婦旅

故障かな電池切れですほっとする

寒いのに小豆バーを食べる夫

大雪に気づかい電話ありがとう

三密で本家の嫁はひまらしい

裏庭の千両の実がよき日呼ぶ

コロナ機に御節作るの止めにする

コロナ禍もいつも通りの寝正月

身体重く口は元気に働かせ

しみじみと見ればやっぱりお爺さん

愛妻と書いてみたいな続柄

老人は遠慮しながら生きている

ブラザ川柳(大阪)

穂口 正子報

じんわりと夫婦で惚けて頼珍漢

ゴミの日はボスの機嫌を取るカラス

桜咲く季節外れに開花して

巣立つ子を明るく送りそつと泣く

窓の外梅の蕾が手招きを

正月に会えずに送るランドセル

歓呼の声で送られ征った学徒兵

眼が泳ぎ男の嘘が滲み出る

窓明けてコロナ対策花粉呼ぶ

信号を一つ見送る老いの足

また来いと手をふる母が背伸びする

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

古筆筒わが家の歴史知っている

陽だまりは凄く仲良くなりました

空中遊泳凄く修業をしましたんだ

雑魚もよし勝手気ままに生きられる

見栄で買ひ今では邪魔な桐葉筒

凄く数の嘘をついても議員さん

透明なガラスは演歌にはならぬ

明日への窓は何時でもスリガラス

神様を選んで神社梯子する

欄干の無い橋渡る四つん這い

当たり前だDNAを見定めよ

茶筆筒の古備前の皿父に似る

茶筆筒に亡妻の指紋が生きている

大雪の日も新聞がよくぞ来た

景子

和代

清乃

淳司

克三

園子

一彌

五月

茶子

甚禄

正道

小鹿

宏章

文道

孝子

盛桜

完司

すみれ

弘六

孔美子

一平

重忠

照彦

心中はガラスケースに仕舞つて春の陽に狂い始めたスリガラス虎落笛あれはわたしの鳴咽です凄味だし本当の自分弱虫だ

ワクチンよ凄さを發揮してほしい

コロナ禍で明日は閉店ガラス拭く

ガラス張りの財布おつりは戻らない

気になるねくもりガラスのその向こう

凄いいものあげると孫の紙ヒコキ

ガラス張りという言葉に騙される

地図にない秘密の基地を妻は知り

気のおけぬあの人となら飲みたいな

爺さまと雪見障子と掘炬燵

ガラス並み壊れ易いね民主主義

磨硝子通すとみんな美人です

川柳ねやがわ(大阪)

籠島

恵子報

あたたかい君の空気の中にいる

羽搏きのブランは腹を蹴る愛児

勝ったので小さい方を選ぶ母

幸運は寝て待てと言う涅槃像

お恥ずかしい毎日してる口ゲンカ

健康で円満家族主婦の蛇

自分史に円満のページ足しておく

草文

美ツ千

茶子

瑞子

熊四郎

恒

弘子

正昭

英子

実満

蟹郎

大鯨

宣子

慎一

ちかし

円満は互いに遠くなった耳

まんまるうなった採まれてきはったか

まん丸は弾ける楕円が丁度いい

円満な人の言葉に棘がない

コロナ後の計画たんと立ててある

計画を立てずに気まま一人旅

一日の計画青空が決める

中村哲氏の計画を引き継ぐ

人生は勝ち負けだけりや生きられぬ

勝つための敬遠策にブーイング

必勝に努力努力を積み上げる

時どきは負けてやらんと客は来ぬ

生まれた事が幸運だったよと思う

幸運は友をたくさん持つている

平凡な暮らし幸運だと思ふ

幸運を呼びそう空が朝焼ける

ひねくれたボールを受ける友を持つ

砂時計気分次第で裏返る

大吉を引いた財布がゆるみ出す

貧乏神は実在すると信じてる

還暦になって新たなネジを巻く

天辺の椅子に孤独が蹲る

焼酎の差し入れがある風邪三日

予告なしビデオ電話は嫌がらせ

常男

茜

堅坊

玲子

かずお

一文

星雨

ルイ子

清

彰一

高鷲

高志

鈍甲

一步

朝子

賢子

亜成

博

博泉

弘一

武人

寿之

かすみ

尚世

わたくしの歳月を編む句読点

すがろうとするほど過去は遠ざかる

年玉の新札で買う春帽子

空一枚境界のない新天地

川柳塔なら

大久保眞澄報

もう限界そろそろ句会やりたいな

陽が沈むそろそろ仮面裏返し

次ですと言われてずっと待機中

言われずともそろそろ歩く歳になり

ゆつたりと余生を送る老い二人

そろそろと行こう百歳を目指して

雲行きが怪しそろそろ辞退する

印籠がそろそろ出番時間です

そろりそろり最終章の幕上がる

秒針はのろい私をおいてゆく

もう八十路言いたいことを言うてやる

病抜けへそろそろ止めてみる薬

四コマ目そろそろしたい事だけを

仲直りしようどんが伸びている

飛び立てる力をつけた胸の幅

早すぎる時代のうしろそろそろと

ご破算でそろそろ夢を書き直す

夕鶴の背中に学ぶ恩返し

かこ

和織

千賀

弘委智

弘美

弘子

ひとみ

シマ子

珠子

ひろ子

亜成

行久

万紗子

昭

ダン吉

則彦

すみ子

(平)美智子

比呂志

俊雄

富子

江里子

せめてもは肩お揉みする恩返し
 胸貸した弟子の激しい恩返し
 恩返しだるか黙って側にいる猫よ
 先生の句没句にしたよ恩返し
 恩返しできてないのまだ死ねぬ
 恩返しお互いさまと手を握る
 恩返しいつかいつかと未だせず
 独り立ちできて旧恩倍返し
 厳しい山見れば登れと足が鳴る
 激しい要請少な過ぎる補償
 一番の強敵と住むひとつ屋根
 花育て土の厳しさ思い知る
 厳しさやさしさ愛の裏表
 泣く暇があれば進めと母の喝
 厳しさはあなたの為という欺瞞
 厳冬を越えて開いた春の窓
 会いたいが目途の立たない拉致家族

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

保 州 和 夫 希 久 子 勝 弘 昌 代 小 道 順 啓 純 子 い さ お 恭 正 堅 坊 文 聡 雅 美 惠 寿 之 崇 明

猫と寝る暖房いらぬ温いから
 梅は咲くのを待ってます温いから
 察するにこの世は法螺吹きの世界
 親分に一步譲った猿と犬
 総理にならなきゃよかったね普さん
 察するに封書の中は名残り雪
 もぬけの殻武漢察して菌潜む
 医療者の心労察しエールする
 犬嫌い犬が察して吠えてる
 人の群あればバーゲンそれ急售
 諄いほど聞かれてついに言っちゃった
 諄い事言いますけれど金返せ
 長々と諄い説教効き目なし
 諄いほど体重計に乗ってみる
 諄いほど念を押したが無視された
 霜降りと大トロにまでマヨネーズ
 諄いのもやつぱりいいか効果ある
 酔いたんばくどくどしゃべる寝言かな
 チャーハンのグリーンピースよけて食う
 妻の命日墓前の雪は除けておく
 北風をよけて酒場へ落り込む
 よけて通ることにしている諄い人
 犬の糞よけたつもの靴の裏
 道よけた若者に胸キュンとなる
 弾除けに沖繩恥じぬ水田町

さちこ 玲子 石花菜 麦青 鬼一 宣子 茂夫 凱柳 日出子 祐子 龍枝 紀美恵 智恵子 萩江 大鯨 野蒜 醉芙蓉 明友 道春 重忠 完司 けいこ 由紀子 美知江 照彦

第20回

宿場町やかげ川柳大会

(誌上大会)

投句締切 令和3年4月30日(金)

投句料 1000円

兼題と選者

「侍」 小島 蘭幸 選

「駅」 上野 悦子 選

「酔う」 高木 勇三 選

「コヒー」 前田ひろえ 選

「少年」 北川 拓治 選

「うどん」 木下 草風 選

「絵本」 江尻 容子 選

投句方法・投句先

投句用紙に各題2句と、郵便

番号・住所・氏名・電話番号

を明記の上、投句料(1000

円/定額小為替)を添え下記

宛にお送りください。

〒714-1212

岡山県小田郡矢掛町横谷

1628-11 紫しめの宛

紫しめの

問合せ先 090-7136-8807

主催 矢掛川柳会

お知らせ

残念ながらこの回をもって

宿場町やかげ川柳大会の最終

回と致します。皆さまのご参

加をお待ちしています。

柳界展望

★「第63回井笠川柳会誌

上大会「薬」同人成績。

天位 工藤千代子

イマジンを遺す愛する

人たちへ

「井笠川柳会令和2年度

「薬」年間賞。

鴨田 昭紀

平井美智子

▽出版△

○同人・藤井智史川柳句

集「カオス」A五判100頁、

発行・毎週web句会。

▽住所変更△

○同人・今井万紗子さん

〒591-8046

堺市北区東三国ヶ丘町

3-5-51804

岸本宏章さん（同人・鳥取市）から、
岸本孝子さん（同人・鳥取市）
ダイヤモンド婚を記念して、金一封を拝受しま
した。

▽お詫びと訂正△

○P49上段2行目 苦↓

句

▽新誌友紹介△

紹介者 小島 蘭幸

福山市 新庄 芳春

福山市 閑地 耕三

福山市 村田 幸夫

尾道市 村上 和子

広島市 有田 澄子

広島市 永井 有三

岡山県 古山はつ子

東京都 中村橋書店

句会部よりお知らせ

川柳塔本社5月句会は、下記の要領で誌上句会といたします。皆さまのご投句を
お待ちしております。

記

「川柳塔」4月号に投句用紙を同封します（未誌の方は川柳塔社事務所までご請求ください。）

投句締切 4月30日（金）消印有効

入選発表 「川柳塔」令和3年7月号

投句料 1000円（切手不可）

兼題 「覗く」

兼題 「腕」

兼題 「軽い」

兼題 「ややこしい（読み込み不可）」

兼題 「奇跡」

川本真理子 選（東京都）

山田 耕治 選（兵庫県）

木田比呂朗 選（宮城県）

くんじろう 選（大阪府）

新家 完司 選（鳥取県）

（各題2句出し）

問い合わせ・送り先 川柳塔社

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-14-17 花野ビル201

TEL 06-6779-3490

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 あまがさき	13日(火) 14時締切 回り道・修復・治める・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸 和 田 川 柳 会	17日(土) 14時 吟行句会(囃目吟)	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川 柳 塔 みちのく	17日(土) 17時締切 みすみす・横・単位	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 ねやがわ	25日(日)締切・投句句会 学校・嬉しい・トンネル いじめる・自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川 柳 藤 井 寺	18日(日) 14時締切 ちぐはぐ・育てる・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
豊 中 もくせい 川 柳 会	19日(月) 13時50分締切 スイーツ・喋る・古い・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
南 大 阪 川 柳 会	19日(月) 投句会 顔・凹む・ひっそり くどくど・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
川 柳 塔 すみよし	24日(土) 14時締切 理・助ける・フワフワ	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和 歌 山 三 幸 川 柳 会	24日(土) 13時15分締切 予定・学校・咲く 投句締切15日	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 川 柳 会	25日(日) 14時締切 弁解・似合う・もっと・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 吟 社	25日(日) 13時から 自由吟・決意・手前・身軽 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川 柳 たちばな	16日(金) 13時45分締切 席題・涙・ぱっさり・自由吟	立花北生涯学習プラザ 尼崎市塚口町3-39-7 TEL 06-6422-6741 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 さ ん だ	3日(土) 必着 発表・悔い・タクシー・許す 自由吟	(投句先) 〒651-1514 神戸市北区鹿の子台南町4-46-5 富永恭子

★上記は年初計画です。諸般の事情上、詳細は各柳社にお問い合わせください。

4 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	3 月末日投句締め切りしました 兆し・ちくり・育てる	〒633-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中堀 優
城 北 会 川 柳 会	3 日(土) 14時締切 眩く・ええやん・火花 自由吟	旭区老人福祉センター 3F 開場13時 締切14時 メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	3 日(土) 14時締切 毒・放浪	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉 吉 会 川 柳 会	3 日(土) 14時締切 態と・暮う・きつい・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 塔 ま っ え 吟 社	3 日(土) 13時30分締切 デザイン・たまご・逃げる いろいろ	投句先 〒690-1223 松江市美穂関町笠浦221-1 相見柳歩
六 甲 会 川 柳 会	8 日(木) 締切 誌上句会 中古・掬う・びちびち・和む 自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
あかつき 川 柳 会	9 日(金) 14時締切 甘い・清・納得・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	10日(土) 13時開場 こっそり・花・泣く	メトロ・長堀鶴見緑地線・京橋駅 研修室 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
川 柳 塔 打 吹	10日(土) 13時30分締切 運河・吹く・ほどほど・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川 柳 会	11日(日) 14時締切 早春・ちゃっかり・聞く・雑詠	八尾市安中町3-5-1 洪川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川 柳 塔 わかやま 吟 社	11日(日) 14時10分締切 兼 題=送る・普通・安い 課題吟=豆	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桑原道夫
西宮北口 川 柳 会	12日(月) 14時締切 席題・偲ぶ・おにぎり・謎 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほ たる 川 柳 同 好 会	13日(火) 13時30分締切 窓・聞く・印象吟	〒563-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川 柳 塔 さ か い	13日(火) 投句締め切り 兆し・びかびか・他人 折句:ひ・こ・ね	投句会

編集後記

★春眠のそのまま覚めぬ死もあらん 薫風

★全国の川柳会の句会、大会がほとんど中止、延期、誌上大会に変更を余儀なくされている。川柳愛好者はほとんどが高齢者である。私を含めて残り時間はさほど多くはない。句会に参加したい、友人にも逢いたい、思い切りお喋りしたい、美術館で名画を鑑賞したい、講演会で有意義なお話も聞き、時代から取り残されぬよう心を満たしたい、殆どの人たちは日々そう思っているだろう。★風がやさしくなりまし

たね、豆の蔓が延びてきましたね、おや、ツバメが帰って来たようです。お、車窓に身を預け、ぼんやりと季節の移ろいに触れる小さな旅に出たい。そんな大切な時間を新型コロナウイルスに蝕まれ、行動を制限されて一年が過ぎた。不要不急の外出は控えるようにと言われなくても、私たちは充分自粛している。言葉で絵を描き思いを紡ぐ日々を過ごしている。川柳は老いを遠ざけ、残り時間を豊かに彩ってくれる心強い道連れだ。「川柳があつて良かった」という嬉しい声を、今回どれほど聞いただろう。★老人に比して若い人たちはあふれるほどの時間はある。自分たちもいつかは老人になるなど想像もつかないだろう。その若者たちの時間を、今しかない大切な時間をコロナは蝕む。リモートワークだって？ オンライ

ン授業だって？ オンライ飲み会だって？ 人肌に接する機会を奪われ、友だちをつくれないうまま空しく時は過ぎる。

ひとこと

課題について

川柳をつくるとき、たいい題が出されます。題にはたぐさんの意味がありますが、正確な意味で使っているか疑問です。そこで、いちいち辞書を引いて確認します。結構文例が載っていますので作句の際の参考になります。ノートの課題のスペースに写しておき、その右側に作品を並べる。一課題横書き一ページ。十五二十句。その時は、一般的によく流通している文字に絞って作句しています。

(池澤 大鯨)

作ることになっている。

日常使っている意味とは、一見無関係と思える意味もあった、出典があったりすると得したような気になります。面倒臭さがらず、飽きもせず引いています。

課題がかながきの語ですと、該当する漢字が複数あることがあ

その不毛にもみえる日々表現に出会いました。を、孤独な時間をどう過ごしたかが、コロナ終息の後に問われることになる。

★在宅編集も二年目に入ります。ワクチン接種も始まったが闘いはまだ続く。気力・体力・ファイスト！ 私の呪文である。

(朱夏)

○春だというのにコロナとの暮らしが続いています。ニュースもコロナ尽くしで、幾つか耳新しい

「高水準で」「下げ止まり」など当たり前の様に聞こえてきます。なんだか違う。この違和感私だけでしょか。○辞書的には間違っていない、でもここで使う語かな、と思うことはこれまでもありました。ごく個人的な私だけの語感のせいかもしれません。○言葉は、一人ひとり受けとめ方も違う生き物です。思えば私達はこんな言葉達と日々向き合っているのです。 (眞澄)

作品募集

6月号発表 (4月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島 幸選
水煙抄 (8句)	西出 楓選
愛染帖 (2句)	新家 完司選
檸檬抄「リアル」 (2句)	石橋 芳山共選
インスレーション・ナビ (2句)	古今堂 蕉子選
一路集 (2句)	大西 泰世選
「帽子」	西村 哲夫選
「群れる」	緒方 美津子選
初歩教室「半分」 (3句)	高瀬 霜石担当

初歩教室「半分」は7月号発表

7月号
檸檬抄「微妙」
一路集「かたち」「骨」
初歩教室「空 気」

お知らせ

本社5月6日(木)に開催予定の本社句会では中止と決定、誌上句会として開催いたします。

詳細は107頁をご参照ください。
ワクチン接種も始まりましたが、三密を避け、ソーシャルディスタンスを守り、手洗い、マスク、消毒、そして換気を忘れず、身の安全を図りましょう。

本社5月句会誌上句会です
詳細は川柳塔4月号107頁ご参照
投句締切日4月30日、発表7月号
兼題「覗く」「腕」「軽い」
「ややこしい(読み込み不可)」「奇跡」

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1,000円
事務所あてお申し込み下さい。

〒543-0052
大阪府天王寺区大道一丁目一七
花野ビル201号室
発行人 小島 幸
編集人 木本 朱夏
印刷所 美研アート
発行所 川柳塔社
電話 (06) 4800-3018
振替 〇〇九八〇一四一 九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ <https://www.bikenart.com>

第14回 オニザキ「ごま川柳」入選句発表

川柳塔社 主幹

小島蘭幸選

ご応募ありがとうございました。入選の皆様には賞品をお送りいたします。

稼ぐ子にごまのレシピを渡す春
美味彩々旬に寄り添うごまの味
ペーストにすれば幼児も好きなゴマ
ごま塩をふって赤飯よろこばす
美肌です胡麻の力を借りてます
ゴマ和えの香りほのぼの箸すすむ
ゴマ和えの朝餉に今日もスイツチオン
大人気ごまを衣にしたフライ
すりごまをいっぱい振って朝サラダ
昭和から令和の今も食べるごま
菓ごもりに孫とエブロンごま団子
修行僧の体ささえた「ごま」料理
ゴマを振る花に水やりするように
母の香と想いがふわりごまようごし
コロナ苦の粗食へゴマは味方です
トッピング用にとゴマを持ち歩く
ワンランク上の料理にさせるゴマ
巡礼にゴマもしつかりお供する
ごま食べ出してから川柳に艶が出た
さりげなくゴマ渡しあう晩ごはん

【準特選】

母の忌よごまたつぶりの芥子和え
菜の花の黄を胡麻和えに招く春

【特選】

遅咲きを支えた胡麻の底力

富永 恭子
柳原 良彦
青砥たかこ
辻内 次根
西川 千鶴
磯島福貴子
林 澄子
金子美千代
松尾美智代
出口セツ子
柳原 敏子
伊藤 寿子
小出 順子
石田 孝純
上西 啓仁
谷口 東風
柏原 夕胡
梶谷 和郎
三浦 強一
玉山 智子
八木 千代
山野 寿之
吉村久仁雄

杵つき製法の「すりごま」
オニザキの

ごま

長い間親しまれてきた
オニザキの「すりごま」は、
名称を変更し、パッケージ
を一新いたしました。

オニザキのすりごまは、
元々すり鉢ですったゴマで
はなく、杵と臼を使った杵
つき製法で出来た「すりご
ま」です。

今までと変わらぬ、風
味豊かな味わいを堪能く
ださい。



株式会社 オニザキコーポレーション
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050